

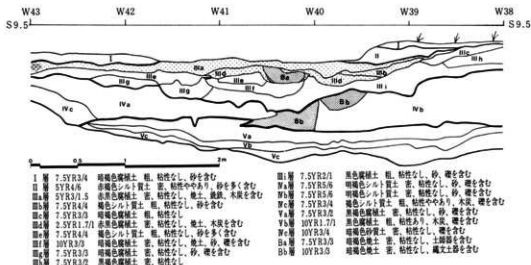
1. 概要

大瀬川 A 遺跡は、北西-南東に細長い丘陵状の大瀬川館南半部の西側裾部に在り、基準点(公団中心杭441+00)から西へ38~45^m。南へ0~18^mの範囲で、グリット名称はM地区である。現状は、灌木の密生する緩斜地で、北へ通ずる道路(図版1上段)が1本通っている。調査地区の東側は館に至る急斜面。北側は南面する緩斜面。西側は一部畑地に利用される緩斜地が南北に帯状に延び、その西側は松林である。南側は約20mで黒森山へ通ずる道路に至る。標高は148~152mで、北側と東側がやや高くなる。

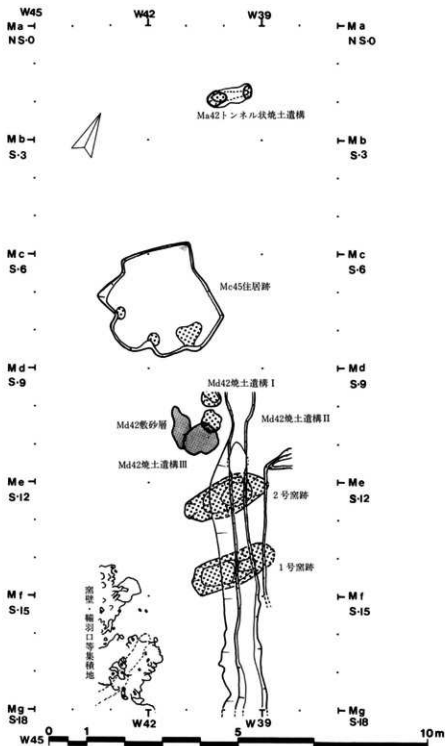
調査は昭和48年11月2日より粗掘りを始め、翌年の1月26日終了したが、積雪のため北側が未調査となった。49年度にC遺跡の調査が実施され、その終了後にA遺跡未調査分の調査がなされた。尚南北中心線はB遺跡同様、道路公団中心杭441+00と444+00とを結ぶ直線とした。これは、真北より西へ約24.5°傾むく。

2. 基本層序

第2図の通りであるが、I・II層は表土。III a~III i 層は、土師器、鉄銑、窯壁等の包含層。IV a~IV c 層は、縄文土器の包含層である。表土には、縄文土器、石器、弥生式土器、土師器の破片が若干包含されていた。



第2図 Md42地区基本層序



第3図 大瀬川A遺跡遺構配置図

3. 発見された遺構と遺物

発見された遺構は、縄文時代と思われる焼土遺構1基。平安時代と思われる住居跡1棟。焼土遺構6基。窯壁、竈の羽口等の集積地1箇所。溝3条である。

1. 縄文時代の遺構と遺物

遺構はMd42焼土遺構IIである。遺物はIV層だけでなく、各堆積層及び住居跡、焼土遺構6基からも若干発見され、北側や東側から流入したのもかなりあると思われる。

Md42 焼土遺構II (第4図、図版5—上段)

(検出地点) 基準点より南へ10.02～10.67m。東へ40.05～40.59mの地点。Md42地区に褐色の焼土を確認した。遺構確認面は、表土下約85cmのIVc層である。

(平面形・規模) 南北約65cm、東西54cmの楕円形である。深さは11cmである。

(堆積土) 2層に分れるが、第2層はブロック状で、第1層に包含される。

1層 褐色焼土、密で、粘性ややあり、炭化物、縄文土器を含む。

2層 赤色焼土、1層より密で粘性なし、粘土の焼成された物の様でブロック状である。

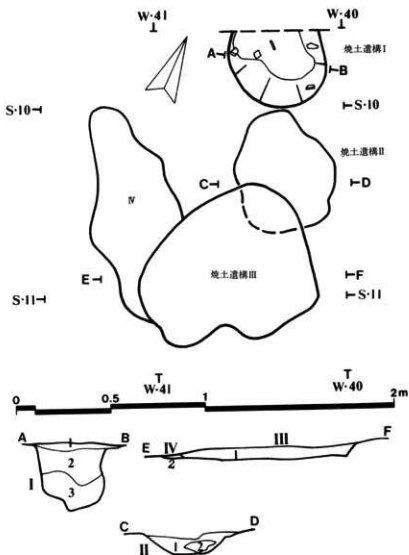
(底面) ほぼ平坦で、断面は皿形に近い。壁面は緩傾斜している。

(年代決定資料) 縄文土器片(第5図1～5、図版6—1～5)2個体分が、1層上面より出土した(図版5上右)。1は、波状口縁で、口端は薄くなる。口縁部外面は、縄文原体圧痕が縦に付された隆帯を横位に施し、波状口縁の頂部下に渦巻状の隆帯が施される。その下方に菱形の隆帯を施し、輪郭部に縄文原体圧痕が付される。頂部より8.5cm下には巾8～9mmの太く浅い沈線が横位に施される。2～5は接合しないが、同一個体と思われる。波状口縁をなし、口端部には縄文原体圧痕が縦位にあり、0.8～1.0cm間隔に並ぶ。口縁部外面には、粘土帯を直線状と渦巻状に貼付し、一部に縄文原体圧痕がある。又粘土帯を貼付した先端に、小円形の粘土塊を貼付した箇所がある。沈線は前者同様太く浅く、横位に施される。

(性格) 遺構は屋外炉穴と思われ、出土遺物からみて、縄文時代中期前半と思われる。

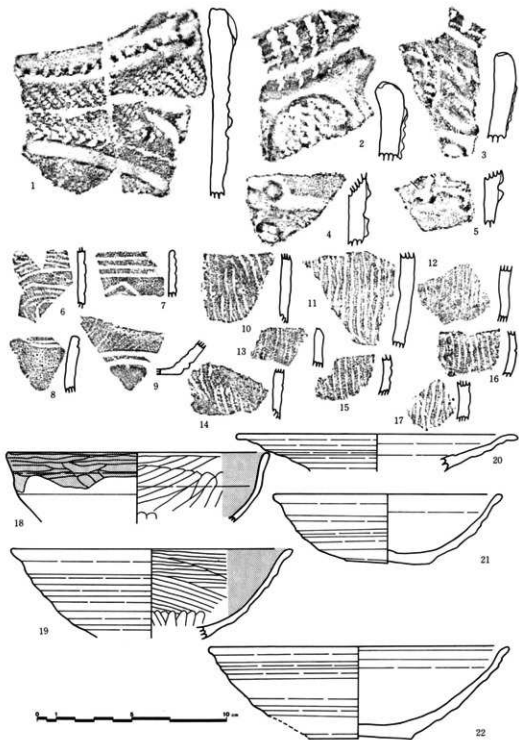
表採遺物 縄文土器(第6図、図版7)

1は、内外面共に縄文が施される。2・3は、胎土に繊維を含む。4～9は、捺糸圧痕が施される。10は、縦位に粘土帯を貼付し、沈線を横位に施す。11は、円形貼付文と、縦位に粘土帯を貼付し、捺糸圧痕を施す。12～14は、沈線を施す。16は鋸歯状沈線を施す。17・18は土偶で、17に半截竹管様工具による2条1組の沈線を施す。19は、口縁部に斜めに短かい線刻が施されその下に連続菱形沈線が施される。20は、半円形の粘土帯を \times 状に貼付している。



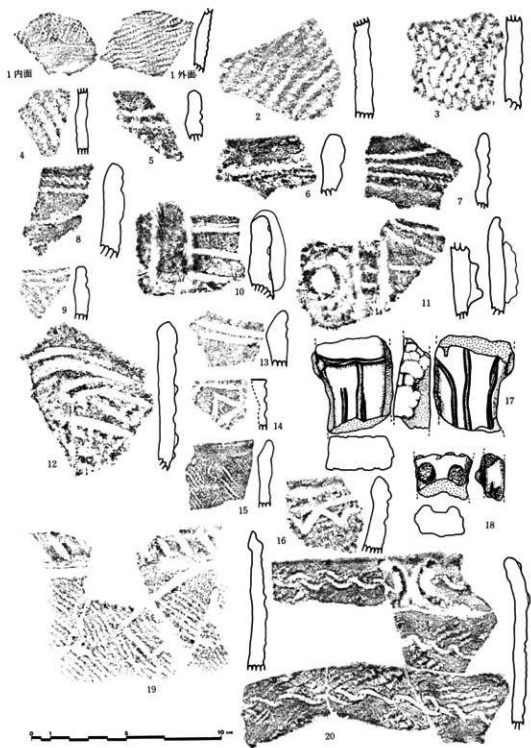
- I (A-B) 1層 赤黄色焼土 きわめて密、粘性なし
 2層 黒褐色土 粗で、粘性なし、炭化物・焼土・土師器を含む
 3層 黒色土 粗で、粘性ややあり
- II (C-D) 1層 茶褐色焼土 粗で、粘性ややあり、炭化物・縄文土器を含む
 2層 焼土ブロック 密で、粘性なし
- III (E-F) 1層 黒色土 密で、粘性なし、礫、焼土、炭化物を含む
 IV (E-F) 2層 砂層
- Iの1層上面149.04~149.02°、IIの1層上面148.48~148.46°
 IIIの1層上面148.96~148.89°、IVの1層上面148.88°

第4図 Md42地区遺構図



1~5: Md42地土遺構Ⅱ出土遺物
6~22: M区西南表土等出土遺物

第5圖



第6图 M区西侧表土等出土遗物

2. 弥生時代の遺物 (第5図6~17、図版6-6~17)

遺構は発見されず遺物のみ表土から発見されていた。いずれも小破片で、口縁部3点(7・8・13)、体部8点(10~12、14~17)、体下底部1点(9)である。

7は、直線状の沈線3本を横位に施し、その下に鋸歯文を2本横位に施す。8は、2本の沈線を横位に施す。13は、地文のみである。6は、3本の沈線と、撚糸の地文を施す。10~17は、撚糸の地文が縦位に施される。9は、体部下端に2本の沈線が横位に施される。底部は無文である。

3. 平安時代の遺構と遺物

平安時代と思われる遺構は、住居跡1棟と焼土遺構6基である。焼土遺構のうち2基は、平安時代と思われる遺物を包含しているが、他の4基は、年代を決定出来る遺物が出土しないため明確ではないが、検出面が、住居跡と2基の焼土遺構と同一なのでこの項に入れた。遺構の記述順は北からである。

Ma42 焼土遺構 (第7図、図版1一中・下)

(遺構の確認) 基準点より西へ39.24~40.4m、南へ1.5~2.08mの地点、Ma42地区に赤褐色焼土と黒色炭化物の落ち込みを確認した。遺構確認面はⅢ層上面である。

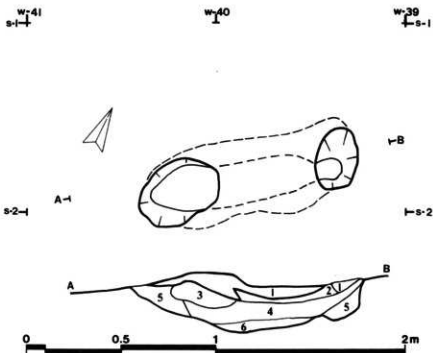
(平面形、方向) 西側は北東-南西が長軸の楕円形で、長軸約45cm。短軸約30cm。深さ約20cm。東は南-北が長軸の楕円形で、長軸約34cm。短軸約22cm。深さ約20cm。東西両ピットは検出面下約8~24cmで連結された割り貫きの焼土ピットである。割り貫き部の横断面は不整形のようである。両ピットを結ぶ中軸線はN-56°-Eで、ほぼ北東向きになる。長さは1.16m。深さは24cm。巾40cmである。

(堆積土) 第7図の通りで、1・2層は割り貫き部の天井。3~6層が構築後の堆積土と思われる。2層は1層の下部が火熱を受けて変質したものと思われる。3層が焼土。4・6層が炭化物堆積層。5層は、褐色土で、柔かく粘性がない。

(底面) 西側ピット底面は、ほぼ平坦で、東側ピットは西へ傾斜する。割り貫き部は皿状である。両ピットの壁面は、傾斜が強い。

(年代決定資料) 遺物の出土は皆無である。

(性格) 堆積土の状態は、西側ピットに焼土、割り貫き部天井に火熱痕がある点。西側ピットの上面がやや低く(標高149.34m)、東側ピットの上面がやや高く(標高149.41m)、地形も、西低東高である点から、西側ピットが焚口、割り貫き部が燃焼部、東側ピットが煙出し部と思われる。何を焼成したかは不明であるが、窯的要素を持つ遺構と思われる。



第7図 Ma42焼土遺構

Mc45 住居跡 (第8図、図版2-上)

(遺構の確認) 基準点より西へ40~43.36m。南へ5.68~8.71mの地点。Mc45地区とその周囲に黒色の落ち込みを確認した。

(重複、増改築) 住居跡の中央床面下に Mc42 焼土遺構がある。また北壁以外の各壁は、張り出し部があり、焼土と礫が集積している事から増改築が想定されるが、明確ではない。

(平面形、方向) 北西-南東にやや長い方形と思われるが、張り出し部があり明確でない。東西1.86~2.86m。南北2.8~2.86mで、南壁東寄りの焼土集積部をかまどAと図示しており、S-45.5°-Eで、南東向きになる。

(堆積土) 第8図下の通りで、上面は削平等の攪乱を受けたと思われる。

(床面) かなりの凸凹と段差がある。西側が高く東側が低い。壁への立ち上りは急角度で、壁高は、西が約10cm。北が約30cm。東が約22cm。南が22cmである。

(かまど) 焼土の集積が西壁際に1ヶ所、南壁際に2ヶ所あり、壁内外に礫や遺物が散布しているが、袖や燃焼部、煙道、煙出は確認されなかった。

(貯蔵穴) 確認されなかった。

(柱穴) 確認されなかった。

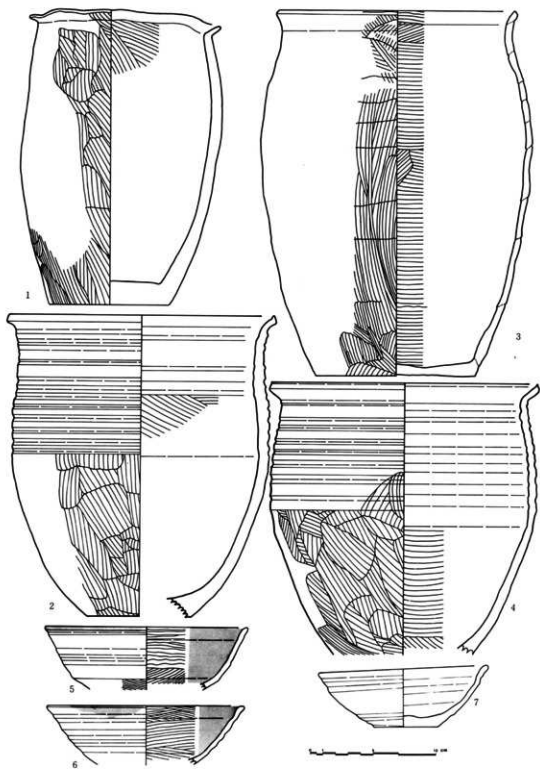
(その他の施設) 床面に、鞆の羽口、銑鉄、鉄滓、砂鉄粒が散乱し、製鉄に関連する施設があったのではないと思われる。

(年代決定資料) 土師器壺143点。内黒環2点。酸化炎焼成の坏13点、鞆の羽口が3点と破片約20片。刀子1点。銑鉄約170片が出土した。

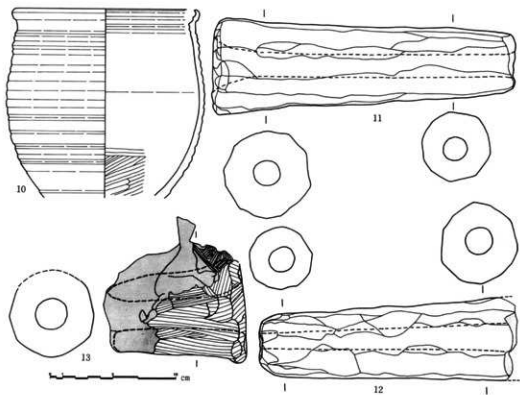
出土遺物

土師器壺(第9図1~4、第10図10。図版3-1~4、4-10、1-8・9) 1は口縁部1/1、体部1/4、底部1/1残存で、口縁部はかなり外反し、口端は薄くなる。体壁は寛削り寛なで成形で粗雑である。口径14~15.6cm。器高22.1~23.6cm。底径9.9~10.4cm。頸部径13.8cm。体部最大径15.5cm。かなり歪み凹凸がある。胎土焼成共に悪い。煤がかなり付着する。南壁東側焼土より出土した。2は、口体部1/3、底部若干残存で、口縁部はかなり外反し、口端部は上に挽き出される。上半部横なで、下半部は寛削り寛なで成形である。口径約21.5cm。器高24cm。底径約8.1cm。頸部径約19.5cm。体部最大径約20.5cm。胎土焼成共に良くない。胎土に多量の砂を含む。南壁西寄りの焼土と床面上から出土した。3は、口縁部1/8以下、体部1/2、底部4/5残存で、口縁部はやや外反し、口端部はやや薄くなる。体壁は寛なで成形ではあるが、粗末な成形である。推定口径約19.2cm。器高29cm。底径約12.7cm。頸部径約18.4cm。体部最大径約21.6cm。胎土焼成共やや良好で1部灰色で硬質な個所がある。南壁西寄り焼土と床面出土である。4は、口縁部1/4、体部1/2残存で、口縁部は外反し、口端部は上に挽き出される。体上半は横なで、体下半部は寛削り寛なで成形である。推定口径約21.5cm。頸部径約19.5cm。体部最大径約20.5cm。胎土焼成共に不良で、粗砂粒を含み、煤が付着する。中央床面出土である。10は、口体部1/3残存で、口縁部は内湾外傾し、口端部は薄くなる。推定口径約15cm。頸部径約14.2cm。体部最大径約15.8cm。ろくろなで成形、小型である。胎土焼成共良くない、火熱を受けている。西壁焼土から出土した。図版3-8は、口体部1/8以下残存で、口縁部はやや外反し、口端部は丸みをもち薄い。寛削り寛なで成形で、歪みが著しい。胎土焼成共に悪く、煤が付着する。南壁西側焼土出土である。図版3-9は、口体上部1/8以下残存で、口縁部はかなり外反し、口端部は上に挽き出される。体部は横なで、内面の1部に刷毛目痕がある。胎土焼成共に悪く、外面に煤が付着する。上記6点を含めて、南壁東寄り焼土から31点。南壁西寄り焼土から8点。西壁焼土から6点。堆積土から6点。床面上より46点。落ち込みより26点。床面下より20点が出土した。

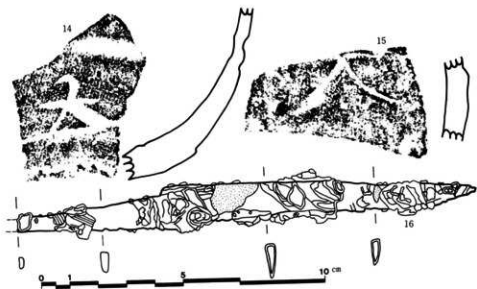
内黒環(第9図5・6、図版3-5・6) 5は、口体部1/7残存で、口縁部は直線的に外傾し、体部下半が丸みを持つ。体部下半外面に磨滅して明確ではないが、手持ち寛削り調整があるようで、内面の磨きは横と斜めである。推定口径約16.1cm。胎土焼成共に良くない。床面下から



第9圖 Mc45住居跡出土遺物



第10回 Mc45住居跡・Mc42焼土遺構出土遺物



第11回 Mc45住居跡出土遺物

出土した。6は、口体部1/4残存で、口縁部はわずかに外反し、体下半に丸みがある。推定口径約15.8cm。ろくろなどで成形無調整、内面横磨きである。南壁東側焼土より出土した。

酸化炭焼成坏（第9図7、第11図14・15、図版3-7、4-14・15）7は、口体部1/4、底部1/1残存で、口縁部はやや外反し、体部はやや丸みをもち、かなり外傾する。推定口径約13.6cm。器高4.3~4.9cm。底径5.2cm。ろくろなどで成形無調整、回転糸切りである。中央床面と床面下から出土した。14は、体底若干の破片で、篋状工具で「大」の線刻がある。15は、体部若干の破片で、14同様「大」の線刻がある。共に南壁西側焼土から出土した。上記3点を含め、南壁東側焼土より1点。南壁西側焼土より2点。西壁焼土より1点。床面より2点。落ち込みより4点。床面下より3点が出土した。

刀子（第11図16、図版4-16）北壁西端下の床面（第8図10）から出土した。茎先のみ欠損する。鋒から棟区までの長さ12.4cm。刀身の巾約1.2cm。棟の厚さ0.3cm。茎の巾0.4~0.7cm。茎の厚さ0.2~0.3cmである。平造り、平棟、甲伏鍛と思われる。

鞆羽口（鞆羽口計測表20~22、第10図11~13、図版4-11~13）11・12は長形、13は短形で窯壁と鉄滓が付着する。他の破片約20点は南壁寄りに集積した物が多い。

鉄鉢（図版10-25・26）床面の上下から約170点出土した他に、この付着帯から西側路線外の松林一帯の表土下かなりの量が埋蔵されているという。いずれも窯から取り出し、流出冷却させたままと思われ、枝分れた物、数条が付着したもの等がある。

縄文土器、南壁東側焼土から8点。南壁西側焼土から2点。床面から18点。落ち込みから11点。床面下から21点。埋土より3点出土した。波状口縁の物が多く、横位に沈線を施した物、粘土帯を貼付した物、隆帯に縄文原体圧痕のある物等、中期初頭と思われる物が多い。

石器、南壁東側焼土より、剥片3点が出土した。1点には使用痕が若干認められる。

Mc42 焼土遺構（第12図、図版2-下）

（遺構の確認）基準点より西へ41.18~42.08m。南へ6.95~8.21mの地点。Mc42地区に焼土の落ち込みを確認した。遺構確認面は、Mc45住居跡の中央床面である。

（平面形・方向）長軸1.3m。短軸0.8mの不整形円形で、長軸はN-40°-Wで北向き。

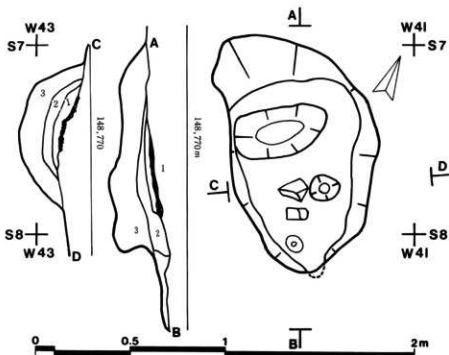
（堆積土）1層、青灰色砂質土、固くしまり焼成を受ける。上面に鉄鉢と鉄滓が堆積（黒色部）。

2層、赤褐色焼土、固くしまりブロック状。3層、褐色土、柔らかく炭化物を含む。

（底面）南東側が深く、やや平坦で北西側がやや高い。深さは検出面から約30cmである。

（年代決定資料）Mc45住床面下出土の遺物の1部で、内黒坪5と、鞆羽口13と思われる。

（性格）1層上面に鉄鉢、鉄滓を含む事や、2層の焼土ブロックが窯壁と思われる事から、製鉄用の窯跡と思われる。時期はMc45と同時期か、その前後ではないかと思われる。



第12図 Mc42焼土遺構

出土遺物

内黒坯（第9図5、図版3-5）。籾羽口（計測表22、第10図13、図版4-13）である。

Md42 焼土遺構 I（第3図、4図）

（遺構の確認）基準点から西へ40.08~40.6m。南へ？~10.01mの地点。Md42 地区に焼土の落ち込みを確認した。遺構確認面はIII d層（第2図Ba層）である。遺構の北半は冬期積雪中にビニールハウス外にあったため調査不能であった。

（規模・平面形）東西径約50cmの円形又は楕円形と思われる。深さは約36cmである。

（堆積土）第4図A-Bの通りで、2層に土師器片を若干包含する。

（底面）中央部が凹み、壁面はほぼ垂直である。

（年代決定資料）土師器甕の口縁部2片、体部1点。酸化炎焼成の坯1点。縄文土器体部破片4点が出土した。甕の口縁2点は、Mc45 住出土の甕に接合、坯は Md42 地区III層出土の破片に接合した。

（性格）屋外炉ではないかと思われ、Mc45 住居跡との関連が考えられる。

出土遺物

土師器甕、口縁部はかなり外反し、口端部は薄くなる。成形、調整が粗雑で、歪み凹凸が著しい。口縁部は横なで、体部外面は磨滅し、内面は横なで後に縦筋なで、胎土焼成共不良。

酸化炎焼成坏、体下半1/5、底1/1残存で、底径は5.4cm。ろくろなで成形無調整、回転糸切りである。甕、坏共に148・92mのレベルを測定した。

縄文土器、体部破片4点で、同一個体と思われる。甕・坏より10～20cm下から出土した。

Md42 焼土遺構Ⅲ（第3図、4図）

（遺構の確認）基準点より西へ40.15～14.1m。南へ10.4～11.26mの地点。Md42 地区に焼土の落ち込みを確認した。焼土遺構Ⅰの南約40cmの所である。焼土遺構Ⅱとは1部重複するが、Ⅲの底面とⅡの上面は約45cmの差がある。遺構確認はⅢd層である。

（規模、平面形）長軸94cm。短軸77cmの不整円形。深さは約6cmである。

（堆積土）単層で、かなり固くしまる。西側の砂層を切っている。

（底面）平坦で、緩やかに立ち上り、火熱は受けていない。

（年代決定資料）出土遺物は皆無である。

（性格）浅い凹みを掘り、焼土を埋め込んだと思われる。検出面がⅢ層のため記した。

Me42 1号窯跡（第13図下段、図版5一下石）

（遺構の確認）基準点より西へ38.64～40.16m。南へ13.6～14.95mの地点、Me42 地区に焼土の落ち込みを確認した。遺構確認面はⅢb層である。

（平面形、方向）長軸2.21m。短軸0.8mの楕円形であるが、南西側は方形に近い。長軸方向はN-40°-Eで北東向きになる。

（堆積土）上層に焼土、下層に炭化物が多い。間に銹鉄、鉄滓を含む。南西側に崩壊した窯壁と竈羽口が堆積し、上層は、溝で切られている。底面までの深さは約40cmである。

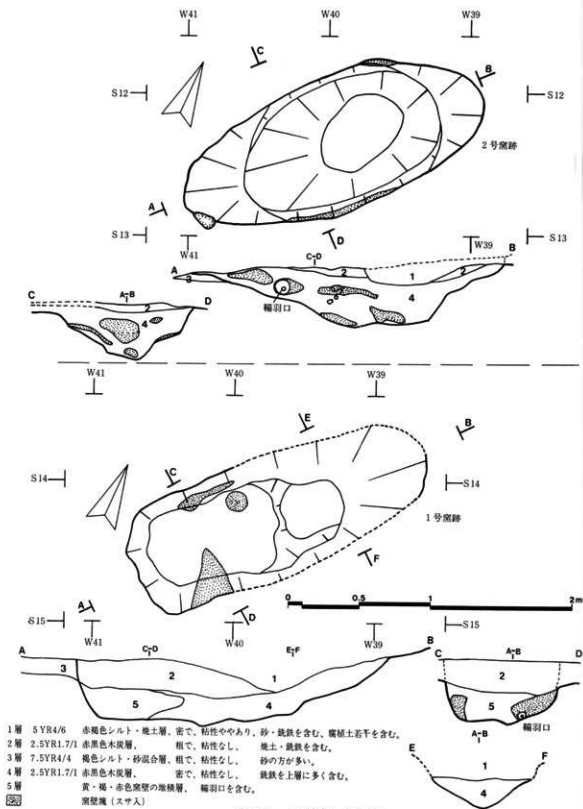
（底面）ほぼ平坦で方形のプランをもつ。北東壁が緩やかで、他は垂直に近い。

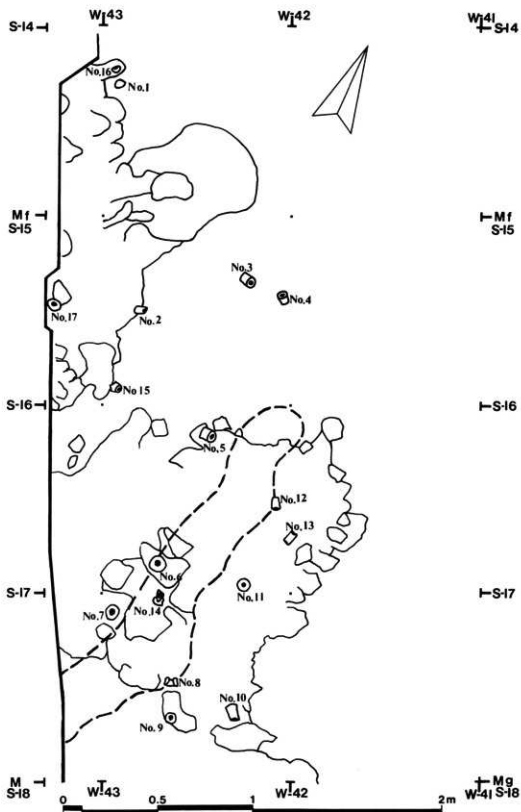
（年代決定資料）年代決定を明示する遺物は出土しない。測定表の19の竈羽口1点のみである。

Me42 2号窯跡（第13図上段、図版5一下左）

（遺構の確認）基準点より西へ38.91～41.04m。南へ11.77～12.92mの地点。Me42 地区に焼土の落ち込みを確認した。1号窯跡の北約1.00mの所にある。

（平面形・方向）長軸2.23m。短軸0.93mの楕円形で、長軸方向はN-43°-Eで北東向きであ



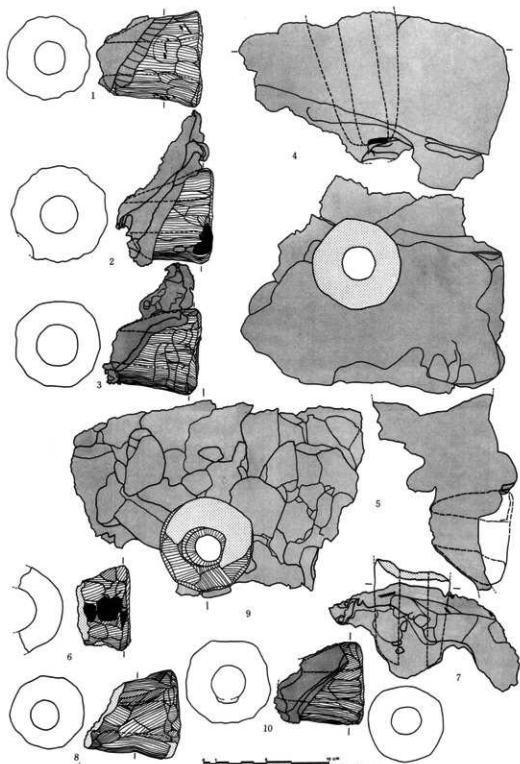


第14图 M地区西侧照壁·穗羽口等集積地

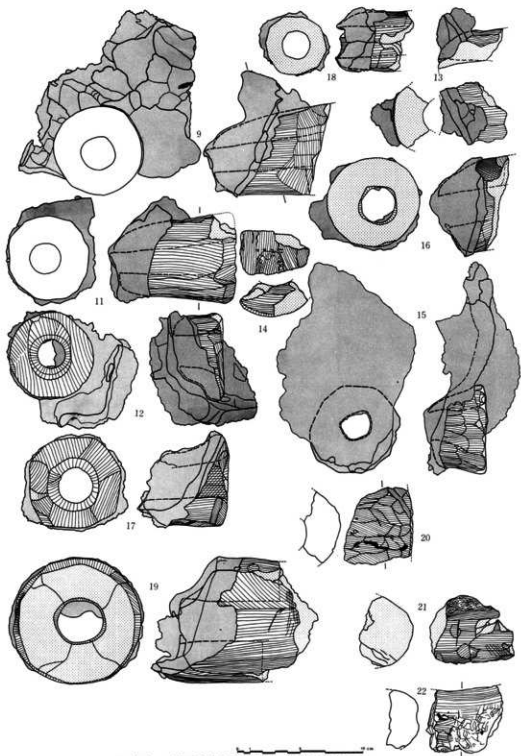
大瀬川 A 遺跡出土彌羽口計測表

(単位cm)

No	実測図 番号	写真図 版番号	登録 番号	出 土 地 点	残存部位	長 さ	先 の 端 径	後 の 端 径	孔 径	備 考
1	15-1	9-1	3	Me45	完 形	7.8	2.8	7.6	2.6	鉄滓附着
2	15-2	9-2	4	Mf45	ほぼ完形	7.0	2.5	7.5	2.4	鉄滓・ 窯壁附着
3	15-3	9-3	5	Mf45	完 形	7.0	2.7	6.8	2.7	鉄滓・ 窯壁附着
4	15-4	9-4	6	Mf45	先端・中央	(10.3)	3.0	—	2.4	鉄滓・ 窯壁附着
5	15-5	9-5	7	Mf45	ほぼ完形	6.4	3.0	7.4	2.6	鉄滓・ 窯壁附着
6	15-6	9-6	8	Mf45	後端約 $\frac{1}{3}$	—	—	—	—	一部剝離
7	15-7	9-7	9	Mf45	先端・中央	—	2.5	—	2.3	鉄滓・ 窯壁附着
8	15-8	9-8	10	Mf45	中央・後端	—	—	7.0	2.4	附着物なし
9	16-9	9-9	11	Mf45	先端・中央	—	2.2	—	2.1	鉄滓・ 窯壁附着
10	15-10	9-10	12	Mf45	先端 $\frac{1}{2}$ ・中・後	—	2.8	6.5	2.4	鉄滓附着
11	16-11	9-11	13	Mf45	ほぼ完形	約10.2	4.0	7.0	2.1	鉄滓・ 窯壁附着
12	16-12	10-12	14	Mf45	完 形	3.9~ 4.3	3.0	約6.7	2.5	鉄滓・ 窯壁附着
13	16-13	9-13	15	Mf45	先端 $\frac{1}{5}$	—	—	—	—	鉄滓・ 窯壁附着
14	16-14	9-14	16	Me45	先端 $\frac{1}{4}$	—	—	—	—	附着物なし
15	16-15	9-15	17	Mf45	完 形	4.7	2.5	7.0	4.0~ 2.1	鉄滓・ 窯壁附着
16	16-16	9-16	18	Mef24	先端・中央	—	3.0	—	2.5	鉄滓・ 窯壁附着
17	16-17	10-17	19	Mf42	完 形	—	3.0	7.0~ 7.4	2.5	鉄滓附着
18	16-18	9-18	20	Md42	先端・中央	—	2.7	—	2.4	鉄滓附着 非内環状共伴
19	16-19	10-19	21	Me42	先端・中央	—	4.5	—	3.2	鉄滓附着 Me42 1号 窯跡出土
20	10-11	4-11	1	Mc45	ほぼ完形	24.1	4.5	7.7	1.8	Mc 45 住床面下
21	10-12	4-12	2	Mc45	先端・中央	—	3.5	—	1.6	Mc 45 住床面下
22	10-13	4-13	3	Mc45	完 形	11.2	3.0	8.3	2.3	Mc 45 住床面下



第15图 M地区西侧窯壁・稚羽口集積地出土品 I



第16图 M地区西侧窑壁·藕羽口集積地出土品II

り、規模、平面形、方向等、1号窯跡とかなり類似する。

(堆積土) 1号窯跡と同様に、上層が焼土。下層が炭化物。間に銑鉄、鉄滓を含み、下層の炭化物は、1号窯跡より少く、窯壁や鞆羽口を包含する。上層は溝で切られる。

(底面) ほゞ平坦で、楕円形のプランをもつ、北東壁と南西壁は緩やかで、他は垂直に近い。

(年代決定資料) 土師器壺、口縁部破片1点。内黒環1点、酸化炭焼成の環1点が出土した。

(性格) 1号窯跡と同様、2号窯跡も製鉄のための窯跡と思われる。Mc42 焼土遺構に、平面形が類似し、Mc45 住居跡と検出面が同じと思われ、同時かその前後と思われる。

窯壁、鞆羽口集積地 (第14図、図版8)

(範囲) 基準点より西へ41.58m以西。南へ14.16m以南に集積し路線外へ続く。

(堆積状態) 厚さ約30～50cmで、I・II層に堆積している。下面は砂質土である。窯壁は原形をとめるものは少ない。鞆羽口は15点が確認され、他に孔の穿っていないもの(第16図21・22)がみられる。またかなり大量の銑鉄も同層に堆積し、酸化炭焼成の環破片が若干混入する。

溝 (第3図)

1号、2号窯跡を切って、南北に延びる2条の平行する溝が発見されたが、性格や時期は不明であるが、水の流れた形跡は無く、埋土は第II層と類似する。溝の上を道路が通っているから現代のものではない。

もう一つ条の溝(14図点線)は、浅く深さ数cmで、南西へ延びている。窯壁集積層の下面の砂質土で、上場と下場の輪郭は明郭でないため、人為的なものかどうか判断がつかない。

4. まとめ

A遺跡より発見された遺構、遺物は、縄文時代の焼土遺構1基。平安時代の住居跡1棟と、焼土遺構6基、窯壁、鞆羽口、銑鉄の集積地1箇所。及び年代性格の不明な溝3条である。

縄文時代の焼土遺構(Md42 焼土遺構II)に伴うと思われる遺物は、中期初頭と思われる。

表土から出土した遺物には、早期と思われる内外縄文の破片や、繊維を含む前期初頭かと思われる破片、中期初頭と思われる破片も若干みられる。

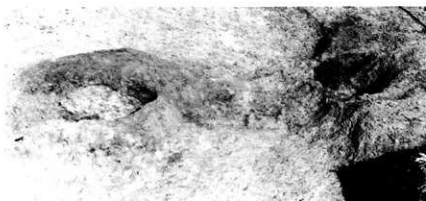
平安時代と思われる焼土遺構は、いずれも焼土や炭火物を含み、窯跡と思われるが、Ma42 焼土遺構は、遺物の出土はなく、平安時代とは断言できず、性格も明確ではない。

発見された上記の遺構の何れかは、大瀬川B・C遺跡の遺構と関連するものもあると思われるが、明確ではない。

参 考 文 献

- 「岩手県蛇王洞洞穴」『石器時代』第7号 芦沢長介・林謙作 昭和40
「刀剣のみかた〈技術と流派〉」広井雄一 第一法規 昭和46
「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』第14輯 氏家和典
「多賀城周辺における古代坏形土器の変遷」『研究紀要』I 岡田・桑原 宮城県多賀城跡調査研究所 1974
「胆沢城跡」昭和51年度発掘調査概報 水沢市教育委員会 1977
「北奥古代文化」第4号 特集奥羽土師文化論 北奥古代文化研究会 昭和47

写 真 图 版

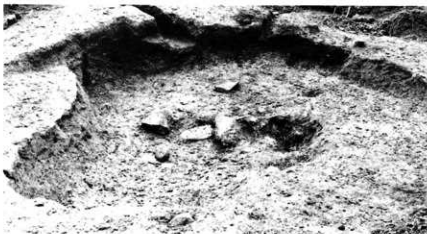


上：A遺跡全景（調査前）南から（右上方B遺跡）

中：Ma42焼土遺構 南より（第7図）

下： 同断面 南より

図版 I

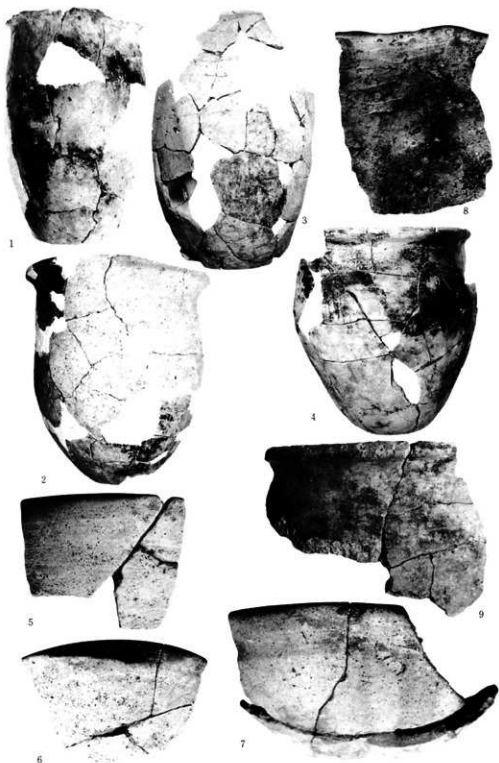


上：Mo45住 南東から（第8図）

中：同 北壁下遺物出土状況南より

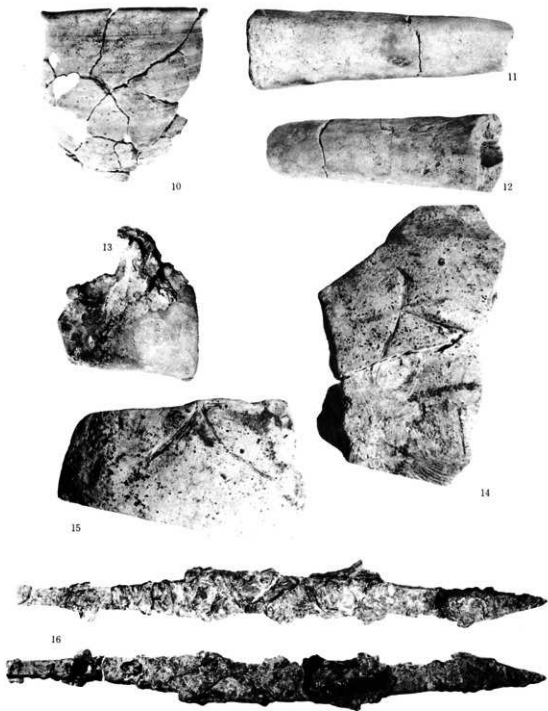
下：同 床面下Mo42焼土遺構西より（第12図）

図版 2



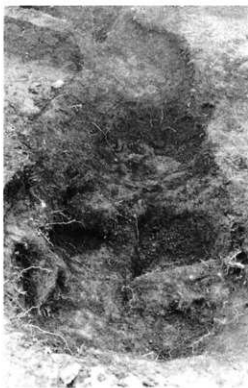
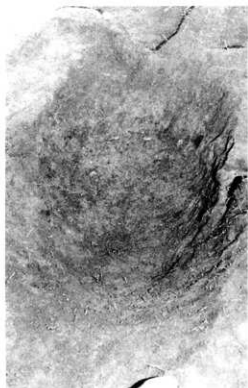
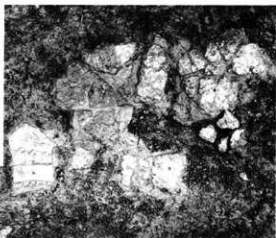
1~4 : 甕 (第9図1~4)
 8・9 : 甕 (実測図なし)
 5・6 : 坏 (内黒処理)(第9図5・6)
 7 : 坏 (非内黒)(第9図7)

図版 3



- 10 : 麿 (第10圖10)
 11~13 : 糶羽口 (第10圖11~13)
 14・15 : 坏 (非内黒) ? (第11圖14・15)
 16 : 刀子 (第11圖16)

図版 4



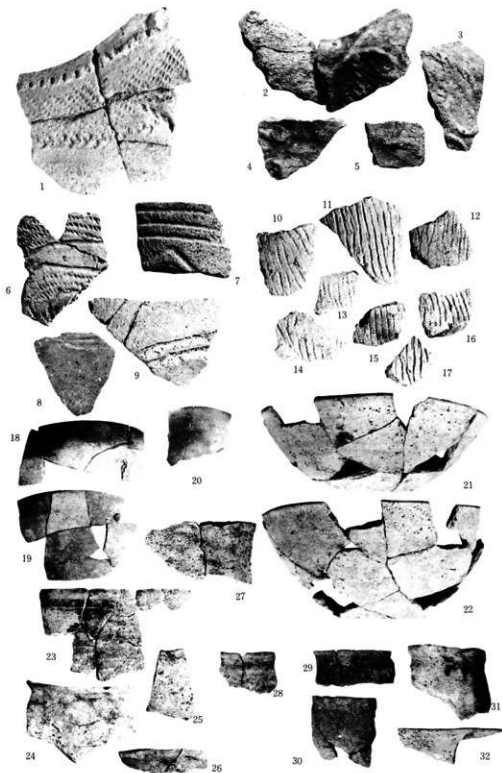
上左：Md42焼土遺構Ⅱ（縄文期）上が北（第4図）

上右：同 遺物出土状況 上が北

下左：Me42 2号窯跡 上が北東（第13図上）

下右：Me42 1号窯跡 上が北東（第13図下）

図版 5



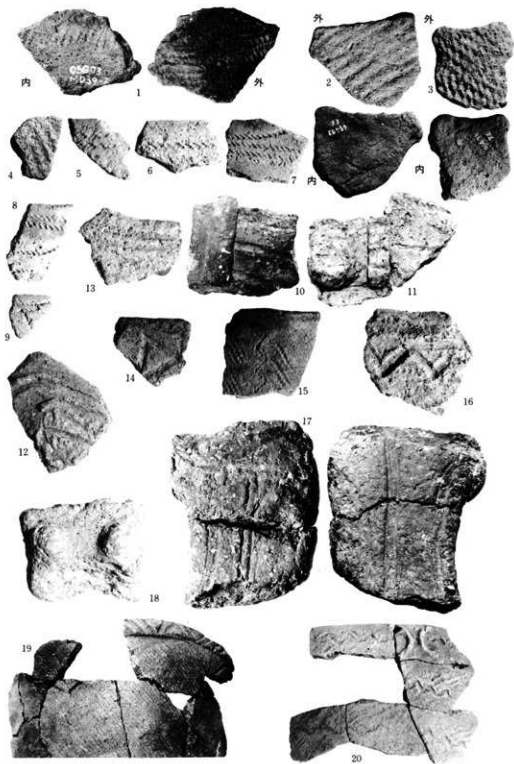
1 ~ 5 : Md42焼土遺構II出土遺物

6 ~ 32 : M区西側表土等出土遺物

1 ~ 22 : (第5図 1 ~ 22)

23 ~ 32 : (実測図なし)

図版 6



M区西側表土出土遺物 (番号は第6図と同じ)

図版 7



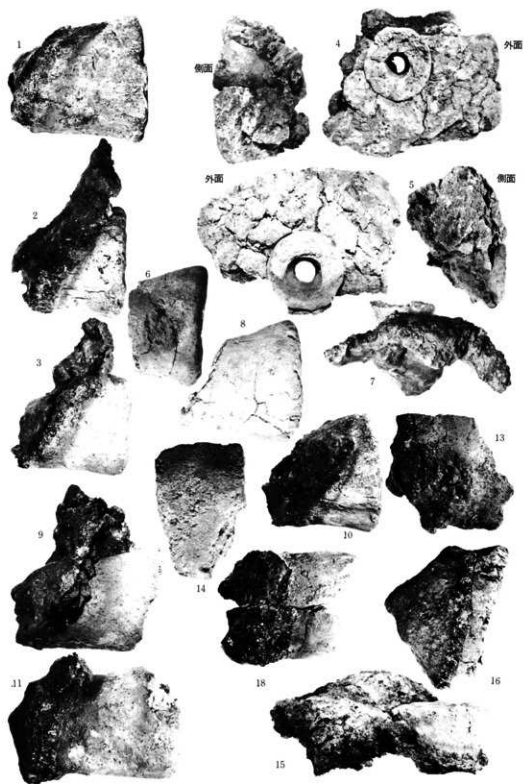
窯壁・鞠羽口等集積地区（第14図）

上：中央が鞠羽口No.12、上やや右が鞠羽口No.5 上がほぼ西

中：右下が鞠羽口No.6、中央上が鞠羽口No.7 上がほぼ西

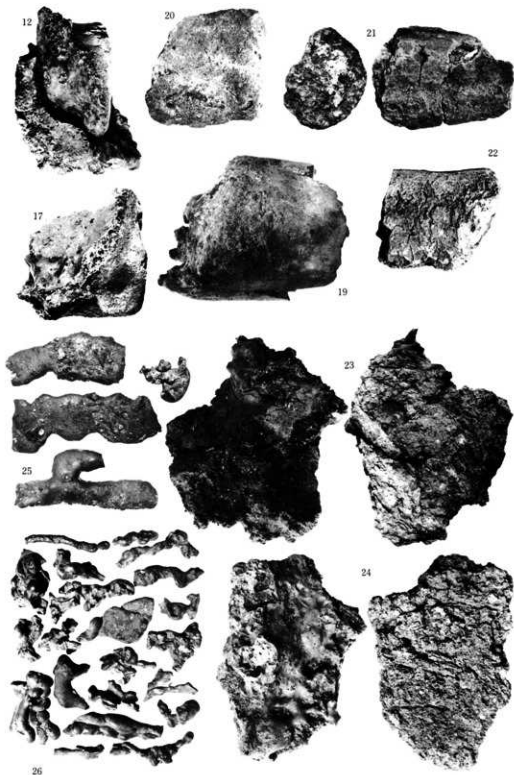
下：右が鞠羽口No.9、左が鞠羽口No.10 上がほぼ南

図版 8



M区西側出土陶羽口 (番号は計測表・第15図と同じ)

図版 9



12・17・19：釉羽口 23・24：窯壁 釉羽口の番号は計測表
 20～22：土製品 25・26：鉄鉄 (第15・16図と同じ)

図版 10

おお せ がわ
大 瀬 川 B 遺 跡

遺 跡 名：大瀬川B（略号OSGB73）

遺 跡 所 在 地：裨貫郡石鳥谷町大瀬川第8地割125の32

調 査 期 間：昭和48年11月2日～昭和49年1月26日

調 査 対 象 面 積：8,750m²

発 掘 調 査 面 積：2,160m²

1. 概要

大瀬川 B 遺跡は、北西—南東に細長い丘陵状の大瀬川館南半の頂部平坦地に在り、道路公団設定の中心杭440+60から442+50の間、中心線より東へ0~40mの間が、調査範囲である。グリット配置は、中心杭441と444を結ぶ直線を南北中心線とし、444+60の地点を起点とした。それを30m毎に1ブロックとし、北から順にA・B・C……の名称を付した。従ってB遺跡はHブロックからNブロックまでとなる。基準点は中心杭441とし、ここから4方向へ距離を測定することになる。現状は樺木と雑草の密生する頂部平坦地で、標高は165~167mで、最高地点が、167.7mである。既に重機が入り調査地の1部を削平し、集積された表土に遺物が混入していたという。調査は昭和48年10月22日に開始され、翌49年1月26日終了したが、北側のH・Iブロックが未調査となり、49年6月5日から11月9日まで、C遺跡の関連調査として、B遺跡未調査分の調査が行なわれた。※B遺跡の地形・グリット配置はA遺跡第1図。

基本層序は、暗赤褐色の薄い表土があり、その下は地山で明褐色の凝灰岩風化土である。

2. 発見された遺構と遺物

発見された遺構は、焼土遺構1基。墳墓と思われるマウンド3基である。

1. 焼土遺構

Ic59 焼地遺構 (第1図、図版1中・下)

(遺構の確認) 基準点(中心杭441+00)より北へ111.01~111.85m。東へ9.23~10.61mの地点、Ic59地区に焼土の落ち込みを確認した。頂部に近い西斜面である。

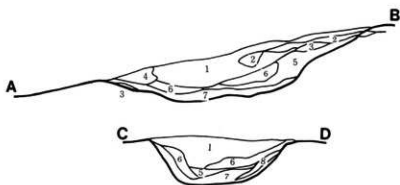
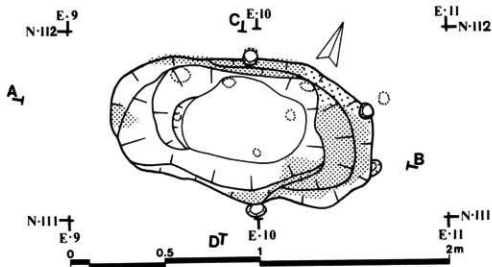
(平面形・方向) 長軸1.40m。短軸0.75m。深さ0.22~0.26mの楕円形に近い形状で、長軸はN-80°-Eで、ほぼ東向きになる。東端の上場は標高約163.53m。西端の上場は約163.25mで、比高28cm。傾斜角約12°である。

(堆積度) 第1図の通りで、上層に鉄滓を含む炭化物層。中層に焼土層。下層に炭化物堆積層がある。

(底面) 東高、西低の傾斜をもつが、中央部はやや平坦で水平に近い。東壁と西壁は緩やかであるが、北壁と南壁は急傾斜で、特に北壁は垂直に近い。

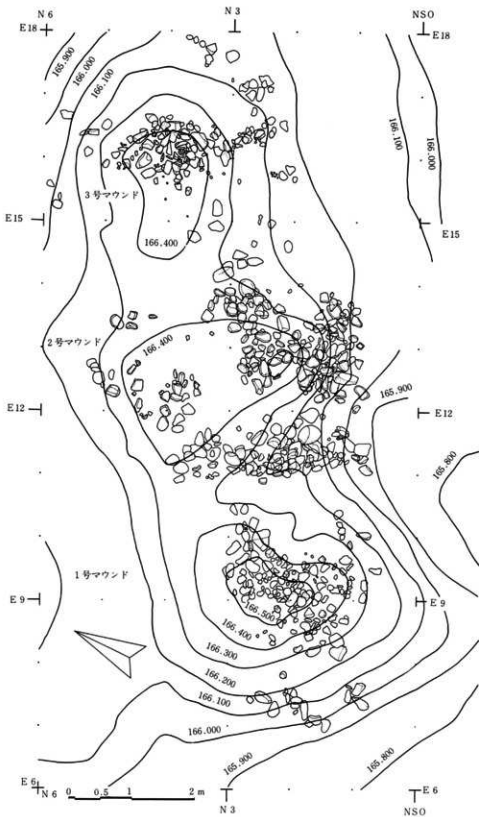
(年代決定資料) 遺構内からは、年代を明確に示す遺物の出土は無かった。

(性格) 鉄滓が上層に含まれ、焼土と炭火物が堆積している事から、製鉄に関連する窯跡と思われるが、銑鉄生産のものか、鉄製品生産のものか、鉄製品の2次加工のものかは不明である。遺構の内外面にある柱穴状の小ピットについても不明である。

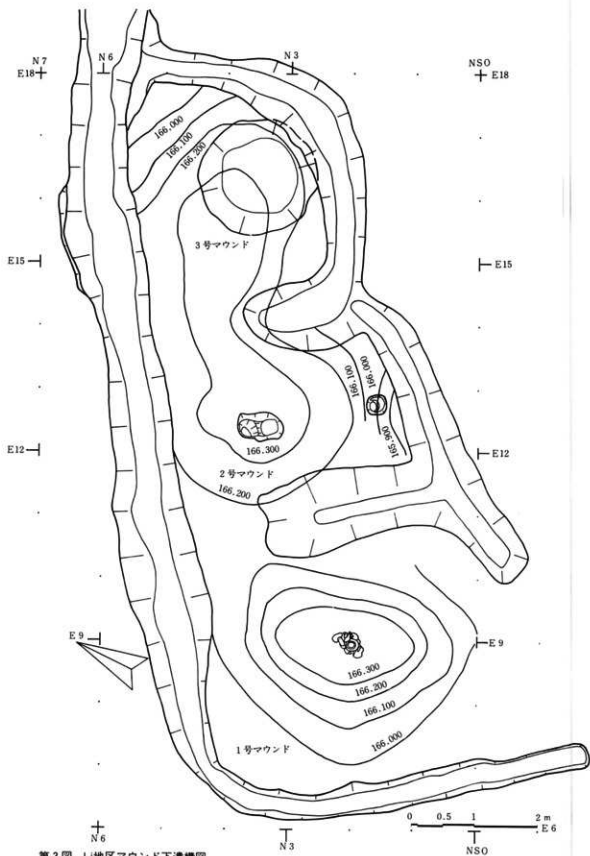


- | | | | |
|----|----------------|----|----------------------------|
| 1層 | 黒色炭化物層、鉄滓混入 | 5層 | 焼土を僅かに含む炭化物層 |
| 2層 | 褐色土ブロック、火熱を受ける | 6層 | 細い褐色土が混入する炭化物層 |
| 3層 | 焼土ブロック | 7層 | 褐色土が混入する炭化物層 |
| 4層 | 褐色土ブロック、焼土混入 | 8層 | 部分的に固いブロック状化した褐色土が混入する炭化物層 |

第1図 1c59焼土遺構



第 2 図 L地区マウンド平面図



第3図 Lj地区マウンド下遺構図

2. マウンド

1号マウンド（第2・3・4図、図版2・3）

（遺構の確認）基準点より東へ6.14～11.50m。南へ1.75～北へ5.80mの地点、Lj56～59地区にある。3基のマウンドが北東―南西に並ぶうちの南西端に位置する。

（平面形・規模）マウンドは東西約3.5m。南北約4mの楕円形で、長軸はN-18°-Wと、ほぼ北向きになる。盛土の高さは約65cm。頂部の標高166.57m。裾部は北側で166.16m。西側で165.91m。南側で165.93m。東側で166.23mである。北と東がやや高い。

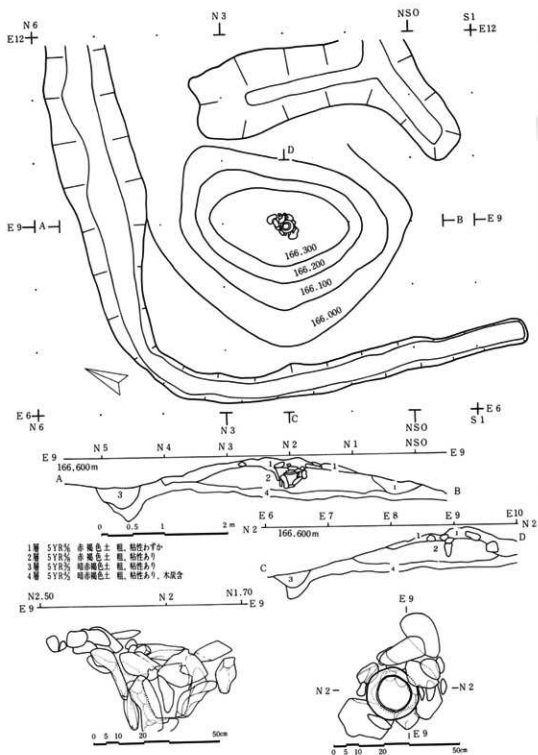
（周溝）北側周溝は他の2基のマウンド北側周溝と連結する。西側周溝は長さ約6m。上場の巾約50cm。下場の巾約25cm。深さ約25cmで、断面は半円形に近い楕形である。方向はN-35°-Wで、北西向きになる。南端は切れており、北端は東へ約90°弧を画き、北側周溝に接続する。北側周溝の巾は上場で50～120cm。下場で20～50cm。深さ約25～30cmで、断面は半円形に近い楕形である。方向はN-57°-Eで、北東向きになる。東側周溝は、2号マウンドとの境界と思われ、長さ3.5m。上場の巾は1.00m～1.30m。下場の巾約20cm。深さ約30cmで、断面は底面が平坦な鉢形に近い。方向はN-36°-Wで、北西向きになり、西側周溝とほぼ平行する。北西端が切れており、北側周溝と接続せず、その間は約1.2mである。南側周溝は、東側周溝南東端から分れて南西に延びる。長さ約1.7m。上場の巾65～80cm。下場の巾約30cm。深さ約20cm。断面は東側周溝同様底面が平坦な鉢形に近い。方向はN-30°-Eで、北東向きになる。西側周溝の南寄りとは接続せず、その間は約2.8mである。

（土壌）マウンドの中心部下に（E9、N2）直径約60cm。深さ約50cmの土塊をつくり、底面と側面周囲を平らな石で固定した石室をつくっている。その中に須恵器の壺（第4図、図版3-右）を納め、その上に数個の石を被せている。使用した石は径約20cm。厚さ約5cmのを主体とし、小礫を隙間に入れている。

（年代決定資料）須恵器の壺と、その下底面に密着していた古銭（至道元宝）である。

出土遺物

須恵器一壺（第7図1、図版3右上）口縁部の2/3が欠損する。口径約15.2cm。器高20.2cm。底径約9.2cm。頸部径約12.6cm。体部最大径21.7cm。口縁部高さ3.5cm。肩部高さ4.1cm。肩部と体上部との境がやや張り出した形状である。口縁部と肩部は横なで成形。口端部は平坦で、内側に沈線状の凹みが廻る。外側の一部に篋状工具で削り取った痕跡が3箇所みられる。外体面は平行叩き目痕が縦位と斜位、下半部は横位に施し、その後1部に篋削りしている。内体面は横位に刷毛目痕が認められる。底部下面は、砂粒の圧痕が多く付いている。胎土は硬質、粗砂粒をかなり含む。色調は灰色～灰白色。焼成は良好である。土壌石組中より出土した。



第4図 1号マウンド

古銭(第8図1、図版3左中)銭文は「至道元宝」直径2.5cm。輪内径1.8cm。内郭縦0.8cm。横0.7cm。孔の横0.6cm。縦5.5cm。内部の巾は上辺が厚く、面の上辺0.5mm。右辺0.4mm。左辺0.4mm。下辺0.4mm。背の上辺1.6mm。右辺1.3mm。左辺0.9mm。下辺0.6mm。背文は無い。

弥生式土器片(第8図2～5。図版7-1～4)、体部4片が盛土より出土した。

非内黒環 1個体分の破片若干が、西側周溝の西側から出土した。

2号マウンド(第2・3・5図、図版4・5)

(遺構の確認) 基準点より東へ11.15～14.0m。北へ1.10～4.85mの地点、Lj59～62地区にある。1号マウンドの北東側にあり、1号マウンド頂部と2号マウンドの頂部の間は、約4mである。

(平面形・規模) マウンドは東西約2.5m。南北約4.1mの楕円形で、長軸はN-25°-Wで、ほぼ北北西向きになる。盛土の高さは約34cmで、標高166.50m。裾部は北側で約166.1m。西側で約166.2m。南側で約159.96m。東側で約166.38mである。

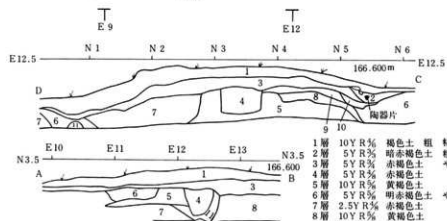
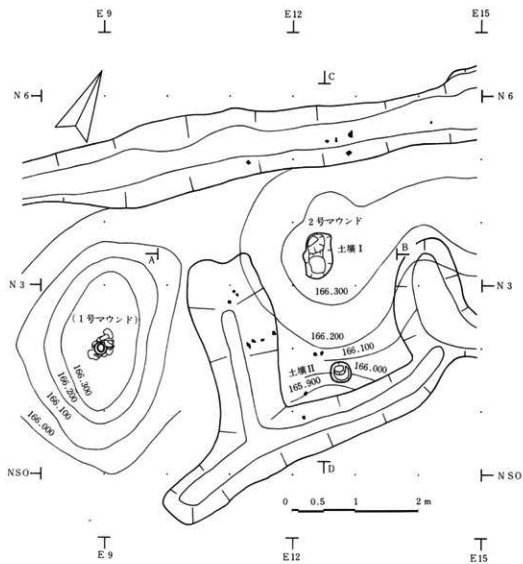
(周溝) 北側周溝は、1号マウンドから続いており、3号マウンドへ続いている。東西の周溝は、北側が切れており、南側周溝に接続する。北側周溝は、長さ約3.5m。上場の巾1～1.2m。下場の巾34～50cm。深さ約25cmで、断面は摺鉢形に近い。方向はN-57°-Eで、北東向きになる。西側周溝は1号マウンド東側周溝である。南側周溝は、長さ約3.4m。上場の巾55～84cm。下場の巾18～25cm。深さ約16～25cmで、断面は皿形と椀形に近い。方向はN-46°-Eで、北東向きになるが、北東端が北向きになる。東側周溝は、長さ約1.95m。上場の巾80～120cm。下場の巾30～60cm。深さ約15～30cm。断面は浅鉢形に近い。方向はN-45°-Wで、北西向きになる。北側溝と東側周溝北西端の間は約1.5mである。

(土壌) マウンド頂部盛土下と、南側に2基検出された。土壌I(第5図、図版5中左)は、南北72cm。東西47cmの隅丸長方形で基準点よりN3.1～3.82m。E12.15～12.62mの地点に位置する。深さは検出面より34～38cmで、中央やや北寄りやや浅く、南北両側が若干深くなる。長軸方向はN-25°-Wで、北北西向きになる。土壌II(第5図、図版5下)は、土壌Iの南約1.34mの地点、南側周溝の北20cmの所で、基準点よりN1.46～1.77m。E12.60～12.92mの地点である。南北63cm、東西64cmの円形で深さは検出面より約13～30cmで、北西側が深い。

(年代決定資料) 土壌堆積土からは、遺物の出土は無かったが、周溝内と、マウンド盛土下層から常滑三筋壺と思われる一個体分の陶器片が出土した。

出土遺物

陶器片、頸部肩部体部若干の小破片で、外面は灰色～黒色。内面は褐色。胎部は灰白色で硬



1層	10Y R 6/6	褐色土	粗	粘性あり	
2層	5Y R 3/6	暗赤褐色土	粗	あり (固障埋土)	
3層	5Y R 3/6	赤褐色土	やや密	粘性あり	
4層	5Y R 3/6	赤褐色土	粗	粘性あり	礎(土壌 I)
5層	10Y R 6/6	黄褐色土	密	粘性あり	木炭
6層	5Y R 3/6	明赤褐色土	やや密	粘性あり	礎
7層	2.5Y R 6/6	赤褐色土	粗	粘性あり	木炭 赤色粘土
8層	10Y R 6/6	黄褐色土	粗	粘性あり	礎
9層	5Y R 3/6	赤褐色土	粗	粘性あり	礎
10層	5Y R 3/6	いっい赤褐色土	粗	粘性あり	礎
11層	10Y R 6/6	赤色土	粗	粘性あり	

第5図 2号マウンド

質。内外面に青白色と緑色の釉が垂下している。3本の横位沈線が、体部上端とその下4.7cm、10.2cmにあり、巾約2mmで、各線の1部が2本になる。線の深さは0.4~0.2mmである。釉が埋まり拓影に現われない部分もある。北側周溝より6片、西側周溝より7片、南側周溝より1片、マウンド南側より3片出土した。いずれも葺石群の下からである。(第7図2~6、図版5。)

石器(第9図1~3、図版7~8~10)石匙1点。石筥状石器1点。使用痕ある剥片1点で石匙は縦4.0cm。横6.2cm、厚さ1.0cmである。石筥状石器は縦4.4cm。横2.9cm。厚さ0.95cmである。剥片は縦5.9cm。横12.3cm。厚さ1.9cmである。石匙はA B面全辺に加工痕がある。石筥状石器はA面左辺と下辺。B面右辺と下辺に加工痕がある。剥面はB面上辺中央に打痕とフィッシャー、A B面下辺に使用痕がある。いずれも盛土東側から出土した。

弥生式土器(第8図6~8、図版7-5~7)口縁部2点、体部1点で、6は沈線が左上一右下と右上一左下とやや斜めに引かれる。7・8は縦位に燃糸の地文が施される。

3号マウンド(第2・3・6図、図版6)

(遺構の確認)基準点より東へ14.5~18.0m。北へ2.5~5.6mの地点、Lj65地区にある。2号マウンドの東北東にあり、2号マウンド頂部と3号マウンド頂部の間は約3.5mである。

(平面形・規模)マウンドは東西約3.5m。南北約3mのほぼ円形である。盛土の高さは約60cmで、頂部の標高は166.49m。裾部は北側で166.06m。西側で166.38m。南側で166.20m。東側で166.10mである。マウンドの東側は、東面する急斜面になる。

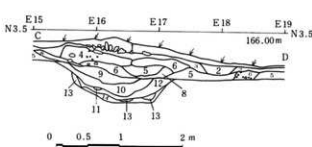
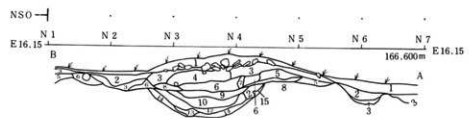
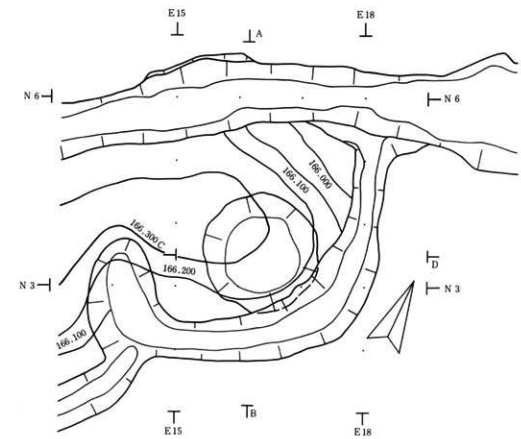
(周溝)北側周溝は直線上に2号マウンド北側から延びてきており、長さ約4m。上場の巾90~120cm。下場の巾30~55cm。深さ約25~30cmで、断面は浅鉢形に近い。方向はN-65°-Eで、東北東向きである。北側周溝は更に東へ約8m程延びている。西側周溝は2号マウンド東側周溝である。南側周溝は、西側と東側の周溝と連続し円を面く。長さ約3m。上場の巾60~100cm。下場の巾30~45cm。深さ約25cmで、断面は浅鉢形に近い。方向はN-60°-Eで、東北東向きになる。東側周溝は、長さ約3m。上場の巾55~90cm。下場の巾20~40cm。深さ約15cmで、断面は浅鉢形に近い。方向はN-10°-Wで、ほぼ北向きになる。

(土壌)第6図の9~15層で、東西1.9m、南北1.8mの円形である。深さは検出面より約43cmである。堆積土は、焼土を含む炭化物層で、大量の炭化物が下層に堆積する。

(年代決定資料)土壌の堆積土からは遺物の出土は無かった。

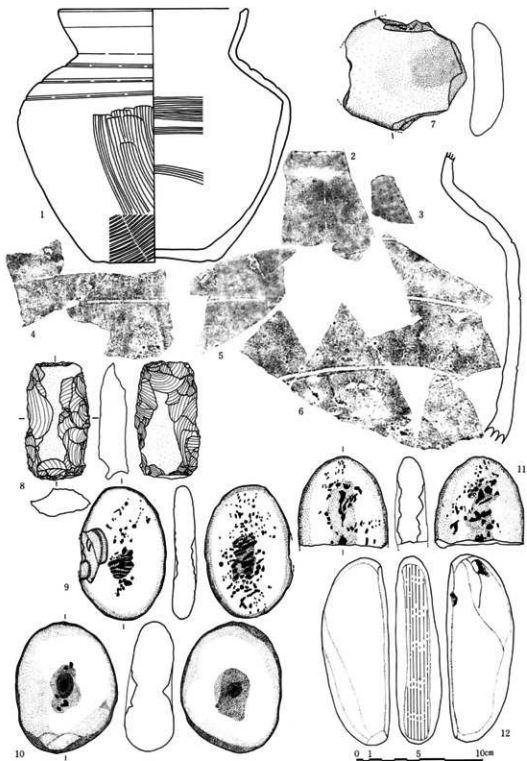
出土遺物

盛土南東側より、石筥状石器(第9図5、図版7~12)1点。加工痕ある剥片(第9図6~11、図版7-13~18)6点。弥生式土器片3点が出土した。他に水晶(第9図4、図版7-11)が出土している。

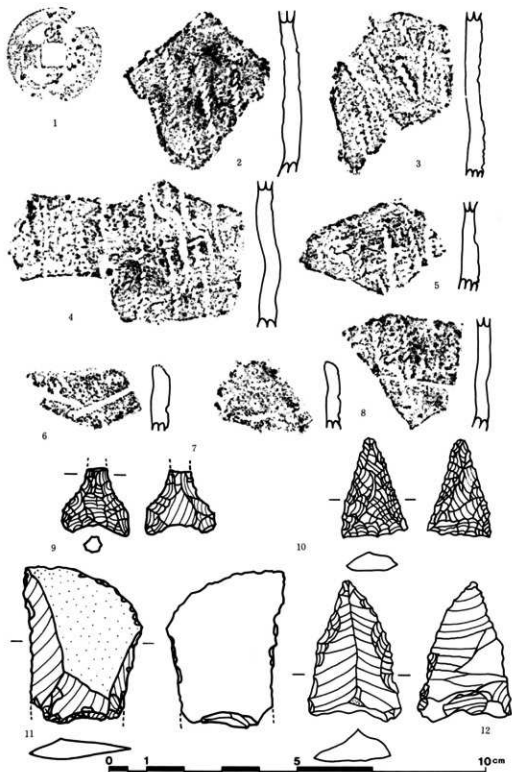


- | | | | |
|-----|--------------|-------|-----------------------|
| 1層 | 10Y R 5/6 | 褐色土 | 粗、粘性ややあり、礫多い |
| 2層 | 5Y R 7/1 | 黒褐色土 | やや密、粘性あり、周囲の埋土 |
| 3層 | 10Y R 5/6 | 暗褐色土 | 密、粘性あり、小礫多い |
| 4層 | 2.5Y R 5/6 | 赤褐色土 | 密、粘性あり、小礫を含む |
| 5層 | 2.5Y R 5/6 | 赤褐色土 | やや密、粘性あり、弥生式土器片、石器を含む |
| 6層 | 10Y R 5/6 | 褐色土 | やや密、粘性あり |
| 7層 | 10Y R 7/1 | 黒色土 | 粗、粘性ややあり |
| 8層 | 10Y R 5/6 | 黒褐色土 | 粗、粘性ややあり、炭化物混入 |
| 9層 | 10Y R 5/6 | 褐色土 | 粗、粘性ややあり |
| 10層 | 10Y R 5/6 | 褐色土 | 粗、粘性ややあり |
| 11層 | 10Y R 7/1 | 黒褐色土 | やや密、粘性ややあり、炭化物混入 |
| 12層 | 10Y R 5/6 | 褐色土 | 粗、粘性あり、炭化物少量 |
| 13層 | 2.5Y R 5/6 | 暗赤褐色土 | 粗、粘性なし、焼土層 |
| 14層 | 7.5Y R 1.7/1 | 黒色土 | 粗、粘性なし、炭化物層 |
| 15層 | 10Y R 5/6 | 褐色土 | 粗、粘性ややあり |

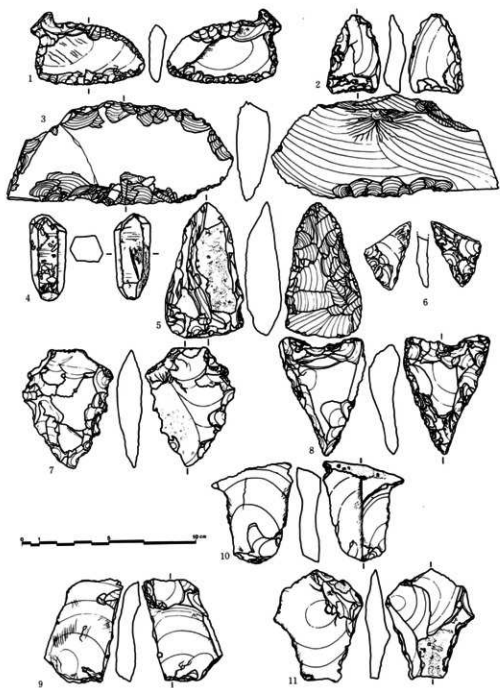
第6図 3号マウンド



第7図 マウンド出土遺物、表採遺物(石器)



第8図 マウンド出土遺物・表採遺物(石器)



第9図 2・3号マウンド盛土出土遺物

表採遺物 石器 (第7図18~12、8図9-12、図版8)

調査以前に重機が入って、B地区を削平したといわれる。その集積土がB地区からA地区に散布している。その中から採集したものが大部分で、石鏃、石筈状石器、石皿、凹石、磨石、加工痕、使用痕のある剥片等がある。

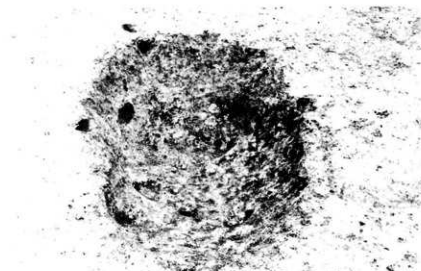
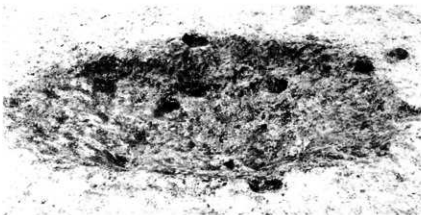
石 器 類 計 測 表

実測図 番号	図版 番号	種 別	残存 部位	出土地点	層位	最 大 長 cm			重量g	調 整		材 質
						縦	横	厚さ		a 面	b 面	
9-1	7-8	石 匙	完形	2号 マウンド	1	4.0	6.2	1.0	23.8	全 辺	全 辺	凝 灰 質 硬 質 泥 岩
9-2	7-9	石筈状石器	*	*	*	4.4	2.9	0.95	11.9	左・右・下辺	右・下辺	白 色 細 粒 凝 灰 岩
9-3	7-10	剥 片	*	*	*	6.0	12.5	1.9	129.0	上・下辺	下 辺	*
9-5	7-12	石筈状石器	*	3号 マウンド	*	7.7	4.6	1.9	56.1	下 辺	左 右 辺	硬 質 泥 岩
9-6	7-13	剥 片	半欠	*	*	(4.1)	2.4	0.6	5.0	左 右 辺	左 右 辺	白 色 細 粒 凝 灰 岩
9-7	7-14	*	完形	*	*	6.8	4.9	1.4	43.3	左 右 辺	右 辺	*
9-8	7-15	* ?	*	*	*	6.3	4.9	1.7	39.7	全 辺	全 辺	*
9-9	7-16	*	*	*	*	6.0	3.6	1.1	30.9	(左辺に 使用痕)	(右辺に 使用痕)	*
9-10	7-17	*	*	*	*	5.5	4.5	1.3	27.1	(左右辺に 使用痕)	(左右辺に 使用痕)	*
9-11	7-18	*	*	*	*	6.3	4.8	1.2	39.8	(左辺に 使用痕)	左 右 辺	*
8-9	8-1	石 鏃	先欠	盛土?	表土?	(1.5)	1.8	0.6	1.1	全辺・全面	全 辺	硬 質 泥 岩
8-10	8-2	*	完形	*	*	2.5	1.75	0.45	1.8	全辺・全面	全辺・全面	硬 質 泥 岩
8-11	8-3	ナ イ フ	半欠	*	*	4.15	2.95	0.6	8.1	左辺1部 (上右使用痕)	(上左右辺 に使用痕)	硬 質 泥 岩
8-12	8-4	* ?	完形	*	*	3.5	2.45	0.8	5.9	左・右辺	左・下辺	硬 質 泥 岩
7-8	8-5	石筈状石器	*	*	*	9.4	5.0	2.3	126.9	左・右・上辺	左右上辺	凝 灰 質 硬 質 泥 岩
7-7	8-6	石 皿	1部	*	*	(9.35)	(8.95)	2.5	304.0	全面擦痕	全面擦痕	輝石安山岩
7-9	8-7	凹 石	完形	*	*	10.6	6.8	1.8	164.9	中央擦痕	中央擦痕	砂質凝灰岩
7-10	8-8	*	*	*	*	10.3	8.1	4.0	408.0	*	*	輝石安山岩
7-11	8-9	*	半欠	*	*	(7.0)	7.1	2.5	148.8	*	*	砂質凝灰岩
7-12	8-10		完形	*	*	15.0	5.25	3.4	420.0	全面磨減	全面磨減	*

3. まとめ

発見された3基のマウンドは、マウンド下のピットや、出土遺物等から墳墓ではないかと思われる。従って1号マウンド出土の須恵器壺は、骨蔵器と思われる。2号マウンド出土の常滑三筋壺も同じと思われる。3基のマウンドの新旧関係を決定する資料は少ないが、1・2号マウンド間の周溝は1号マウンドに伴うもの、2・3号マウンド間の周溝は3号マウンドに伴うものと考えられ、西側から順に造成されたのではないと思われる。

写 真 图 版



上：大瀬川B遺跡全景 南より
中：Ic59焼土遺構 南より（第1図）
下：Ic59焼土遺構 西より

図版 I



上：L区マウンド3基 東より
中：1号マウンド 右端は2号マウンド 東より
下：1号マウンド 北より（第3図）

図版 2



上左：1号マウンド盛土下石組 西より（第4図）
 上右：1号マウンド石組内出土遺物（第7図1）
 中左：1号マウンド石組内出土遺物（第8図1）
 中右：1号マウンド石組内遺物出土状況 西より
 下左：1号マウンド盛土下石組 上が北（第4図）
 下右：1号マウンド石組内遺物出土状況 上が南

図版 3

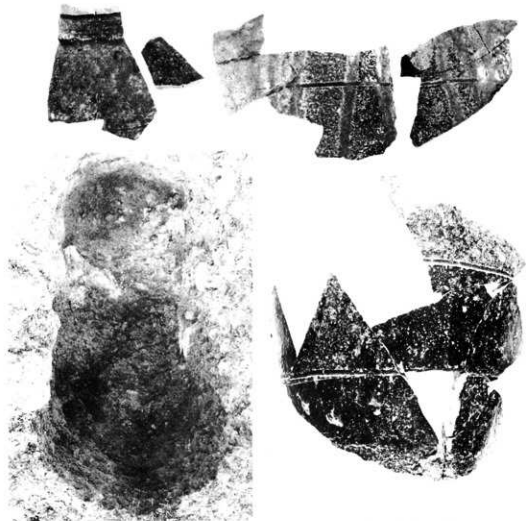


上：2号マウンド左上1号マウンド東より

中： 同 南東より（第2図）

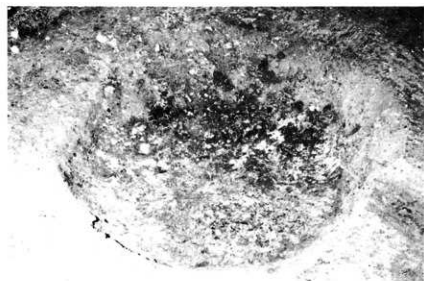
下： 同 表土下基石

図版 4



上・中右：2号マウンド出土遺物（第7図2-6）
 中左：同 盛土下土壌Ⅰ 南より（第5図）
 下：同 盛土下土壌Ⅱ 南より（第5図）

図版 5

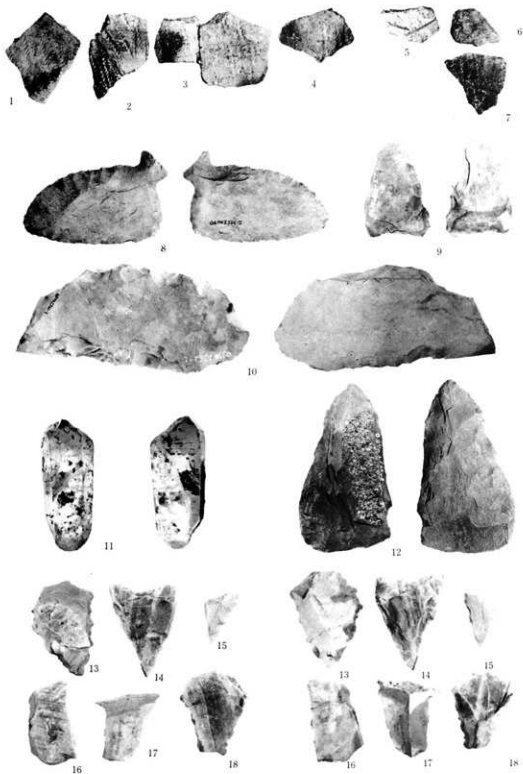


上：3号マウンド 東より

中：3号マウンド表土下葺石 東より（第2図）

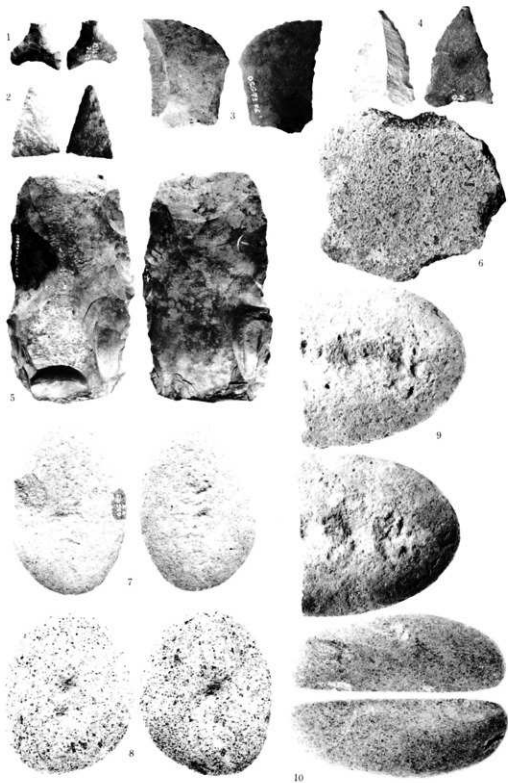
下：3号マウンド土壌（第6図）

図版 6



1～4：1号マウンド盛土出土遺物（第8図2～5）
 5～10：2号マウンド盛土出土遺物（第8図6～8、第9図1～3）
 11～18：3号マウンド盛土出土遺物（第9図4～11）

図版 7



重機による掘削土出土遺物
 (第8図9-12、第7図7-12)

図版 8

おおせがわ 大瀬川 C 遺跡

遺跡名：大瀬川 C（略号OSC74）

遺跡所在地：稗貫郡石鳥谷町大瀬川第8地割170番地ほか

調査期間：昭和49年6月5日～11月9日

調査対象面積：24,000m²

発掘調査面積：23,000m²



第1図 石島谷町の城館連絡

第1章 遺跡の立地と環境

1. 位置と立地

(1) 位置 (第1図 図版1)

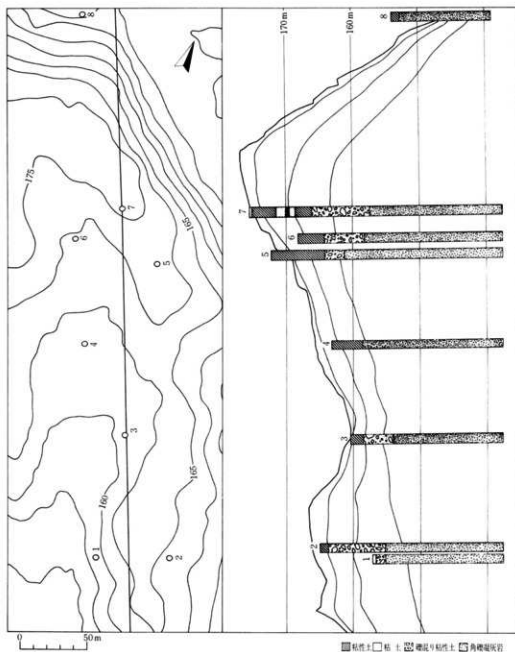
大瀬川A～C遺跡は神貫郡石鳥谷町大瀬川第8地割181番地ほかにあって、国土地理院発行の5万分の1地形図盛岡16号によっては西図幅縁より19.1cm、北図幅縁より1.2cmの地点である。東北本線石鳥谷駅より西北西3.4kmに位置し、石鳥谷町の西部にあたる。旧大瀬川村中心部からは南西0.6kmで県道盛岡・藤根線が南北し、これより分岐する町道向線及び黒森開拓線が遺跡の南縁に通じている。

(2) 地形と地質 (第2図 付1図 図版1)

石鳥谷町の西部は南北に紫波郡紫波町及び花巻市が隣接し、郡・市界をなす諸倉山(713.0m)、台山(680.7m)をはじめとする諸山が連なり、この間を葛丸川が東流して河谷をなす。山地東縁は断層線とみられる急崖地形が形成され、南北に延びる丘陵に続いて上位段丘が東接している。遺跡の西方には黒森山(414.6m)東辺の黒森山断層が南北に走り、これより標高200m前後の花巻温泉丘陵が東西1.8kmに渡って続き、東方で石鳥谷段丘に接する。遺跡は丘陵の北東縁にあたり、東流する葛丸川がこれに沿って流路を南に変え、右岸で遺跡東方の段丘を限っている。

山地東縁の地質は緑色凝灰角礫岩が発達し、黒森山東方では黄褐色、または灰白色凝灰質砂岩や凝灰岩等の互層をなす湯本層が続く。これより遺跡の北東にかけては志和層によって構成される。遺跡における地質は、(1)表土 黒色、または黒褐色を呈し、有機物を混入する火山灰質粘土である。(2)安山岩質凝灰岩 青緑、または赤褐色をなし、多孔質で結晶鉱物が斑点状にみられ、所々に軟らかい角礫を含んで比較的均質である。(3)角礫凝灰岩 高位地形の所ほど軟弱で弱風化が進行している。安山岩質の角礫を多量に混入し、下方ではやゝ礫径が小さい。遺跡南半ではこの岩盤を被って安山岩質凝灰岩が載っている。(4)礫岩・砂岩 凝灰質で円礫を混入する。以下は亜炭を挟む泥岩、円礫や小円礫が混入する礫岩、砂岩、凝灰岩である。

遺跡における土質及び層厚は概略次の通りである。(1)表土 黒褐色、または暗褐色の有機質粘性土である。層厚0.30～0.50m。(2)粘性土 褐色、赤褐色、または暗い褐色で礫を若干混入する。礫径0.20～1cmの安山岩、凝灰岩等で丸味をおびる。層厚0.90m。(3)強風化凝灰岩 暗褐色、または青灰色で上部ほど軟らかく粘性が強い。以下細粒砂の混入層、褐色粘土層となる。層厚はそれぞれ0.60m、1.00m、0.50mである。(4)角礫凝灰岩 上層は淡青灰色で粘土化が進み、砂質凝灰岩で礫径が小さい。層厚2.30m。以下は硬い灰褐色、または褐色の安山岩で径0.20～0.30cmである。層厚3.80mである。



第2図 地形及び地質推定断面図

- 注(1) 「北上山系開発地域土地分類基本調査 花巻」 岩手県 (1975)
 (2) 「北上川上流沿岸の第4系および地形」 中川久夫他『地質学雑誌』第18号 (1963)
 (3) 「盛岡断層群に就いて」 金子史朗『地理学評論』第28巻4号 (1955)
 (4) 「東北高速道路土質調査総括報告書」 日本道路公団高速道路仙台建設局、中央開発株式会社 (1973)

2. 周辺の城館と大瀬川館

(1) 周辺の城館 (第1図 第1表)

旧裨賈郡は花巻市、石鳥谷町、大迫町の3市町が含まれ、北上川の東西に及んでいる。北に岩手郡、紫波郡、上・下閉伊郡の4郡が界し、他の三方は和賀郡に接している。旧裨賈郡下における城館遺跡は伝承されるものを含めて花巻市31、石鳥谷町22、大迫町34の合わせて87遺跡が^{正(1)}がしられている。今後更に増加するとみられる遺跡数ではあるが、その分布は主として①西部山地東縁の丘陵、または上位段丘に占地する城館、②北上川とその支流である葛丸川、瀬川、豊沢川に近接する段丘上に占地する城館、③北上河東の山地西縁及び裨賈川、添市川流域に占地する城館に大別される。東部及び西部の城館にあっては河川流域を臨む山地や丘陵縁に占地し、比較的規模の大きい城館が含まれる。新堀館や大瀬川館はその代表的な城館であり、山城、または平山城である。小河川の流域では河川の南、または北接する段丘崖を占地する城館が大部分であり、本館や小森林館を除いて比較的小規模の居館址とみられるものである。また、北上河東では関口館や八重畑館が、大きく、共に街道筋、あるいは水上交通の要衝にあたり、

第1表 石鳥谷町の城館遺跡

No.	名称	所在地	規模	標高・比高	遺構・遺物	城主	築城年代	現状	寺社	主要文献・その他
1	赤間館	戸塚	150×300 ^馬	123 ^馬 / ₂₃				山林、堀地		
2	猪鼻館	猪鼻	120×150	100 10	堀、井戸	猪鼻修十郎	天正以前	山林、寺院	広濟寺	内史略 祐内郷村誌
3	江曾館 (北・中館)	江曾	300×500	87 7	堀、土塁	藤原氏?		山林	弘濟神社	内史略 大泉正業文書、石鳥谷町史、日本の城
4	大瀬川館 (古)	大瀬川	300×300	177 30	郭、堀、土塁、建物	瀬川重行		山林 自動車道	木の宮神社	祐内郷村誌 瀬川神楽会団
5	北寺林館	北寺林	180×120	115 8	堀			山林	稲荷神社	
6	黒沼館	黒沼	80×90	83 2	堀、土塁	黒沼清太夫	天正年中	宅地、寺院	長楽寺	裨賈郷村誌 内史略
7	小館	好地	60×60	84 4	堀			山林		
8	吉館	好地	(250×350)	92 2	堀			宅地、山林	熊野神社	
9	小森林館 (小森館)	小森林	300×450	91 7	郭、堀、土塁	小森林治郎	天正以前	山林	子守神社 神努堂神社	裨賈郷村誌、内史略 奥羽水産筆記
10	菅原館	滝田	120×120	95 8	堀、土塁	滝田大学	天正6 (1578)	宅地	籠石五社 稲荷神社	
11	俣保館 (中)	新堀	180×180	95 5	堀、土塁	新堀伴兵衛	天正	田畑	大日堂	内史略、祐内郷村誌 奥羽水産筆記
12	下館	新堀	250×250	125 30	堀、土塁			山林、堀地	稲荷社	内史略 祐内郷村誌
13	隅っこ館	五大堂	200×300	135 37	郭、堀、土塁			山林	光輝寺 五大堂	内史略 祐内郷村誌
14	関口館	関口	300×200	82 4	堀	関口小五郎	文明15 (1483)	宅地、田畑	熊野神社	祐内郷村誌 内史略
15	大川原館	滝田	150×150	103 8	堀	大川原氏		田畑、宅地	大川原大明神	八重畑村誌
16	寺林城	中寺林	250×250	107 7	堀	河野通重	弘安3 (1280)	寺院、境内	光林寺	内史略
17	富沢館	富沢	200×200	120 13	堀			田畑、宅地	稲荷神社	
18	新堀館 (上・館)	新堀	300×250	194 89	郭、堀、土塁	江刺長作	天正19 (1591)	山林	新信寺 稲荷神社	内史略 町指定史跡
19	長谷堂館	長谷堂	200×200	165 30	郭、堀、土塁 石垣、礎石	沢田氏		堀地、寺院	長谷堂	
20	畑の沢館	畑	(100×60)	250 30				山林	伝常満寺	
21	備中館	好地	200×200	99 9	堀、陶磁器			宅地、田畑	熊野神社	
22	八重畑館 (大)	八重畑	300×250	82 9	堀	八重畑信遠守	享和? (1435)	田畑、宅地	八幡社	内史略 祐内郷村誌
23	柳館 (五輪、北の館)	江曾	300×200	89 11	堀、土塁 井戸	安信氏?		宅地、田畑	弘濟神社 水天宮ほか	裨賈郷村誌
24	芳館	富沢	(60×100)	140 3				宅地、山林		石鳥谷町史

比較的規模の大きい平城が要所を占めているといえる。

文献上に知られる城館は花巻市22、石鳥谷町14、大迫町14の合せて50館であり、その大部分は裨賈氏とその家臣の城館である。裨賈氏は源頼朝によって裨賈郡の地頭註(2)となり、天正18年(1590) 広忠の代に至って豊臣秀吉の奥州仕置をうけて滅亡している。入国は鎌倉期とされるが、累代の家系については明らかでない。限られた資料によれば裨賈氏の居城は当初小瀬川城(館)、または瀬川城(本館)にあり、次いで大瀬川館、または十八ヶ(崎)城に移居している。大瀬川館移居とするものは更に最終段階を十八ヶ館と記し、「邦内郷村誌」のみは小瀬川館註(3)より絲織城、十八ヶ城の順となって台村の絲織城が捜入され、諸説があつて一定していない。しかし、十八ヶ城を終焉とするものは享禄年中(1528~1532)、または永禄年中(1558~1570)に鳥谷ヶ崎城に転居すると記し、転居の記述と終末期を十八ヶ崎に居城する点で共通している。大瀬川館(古館)については「南旧秘事記」裨賈家譜に「往古の居城小瀬川也。後大瀬川の館に移住。享禄(永禄共)年中南の方十八ヶ館に移住云々。」とみえる。

裨賈氏は裨賈郡下53郷を擁し、その勢力は一族及び家臣によって北は葛丸川、南は豊沢川南岸に達し、北上河西の花巻市、石鳥谷町より河東の大迫町、更に和賀郡東和町に及んでいる。その範囲はおよそ東西26km、南北15mである。一族及び家臣には北上河西の瀬川氏、小森林氏、黒沼氏、寺林氏(石鳥谷町)、北海氏、大畑氏、台氏(高橋氏)、狼沢氏、十二丁目氏、根子氏、葛氏、似内氏(花巻市)があり、河東では新堀氏、関口氏、八重畑氏、山屋氏(石鳥谷町)、大迫氏、亀ヶ森氏(大迫町)、大沢氏、平沢氏(花巻市)、小山田氏(東和町)等があげられる。更に郡外の地名を冠する家臣には岩崎氏、倉沢氏、須々孫氏、達曾部氏、隼石氏等註(5)がしられ、裨賈郡及び周辺にその勢力が波及しているといえる。いずれも地頭職を有する館持待と解されるが、城主名や築・廃城について記すものは少ない。石鳥谷町の14館によってみるならば、柳館、大川原館の安倍氏、江曾館の藤原氏、長谷堂館の和賀氏家臣が伝えられているが、他の大部分は裨賈氏の家臣である。

裨賈氏滅亡以後の裨賈郡は南部氏の統治となり、新堀城に江刺重隆、鳥谷ヶ崎城には南部直愛の重臣を配して北上川東西に分知される。天正20年(1592)の「南部大膳大夫分国之内諸城破却書上之事」によれば旧裨賈郡下に鳥谷崎、十二丁目、寺林、新堀、大迫の5城があり、鳥谷崎、新堀の2城を除いて破却と記される。新堀城は慶長17年(1612)に至って江刺氏が土沢城に移転し、この段階の廃城が推定される。また、鳥谷崎城は花巻城と改称され、代官制移行以後も裨賈・和賀2郡の8代官区を統括し、慶応4年(1866)まで存続する唯一の城郭である。

要約するならば裨賈郡下の城館は若干の城館を除いて裨賈氏の興亡に相呼応して盛衰するとみなされ、南部氏の統治下に至ってその殆どが改廃される。大瀬川館周辺の城館も同様に位置付けられるものといえる。

(2) 大瀬川館と瀬川氏

大瀬川館は「瀬川城」、「大瀬川館」、「旧館」、「古館」等の記録があり、石鳥谷町では「館山」と俗称されている。文献上もっとも詳細に伝えている「邦内郷村誌」は

大瀬川村旧館 此領主畠山重忠之末孫之伝。按 東鑑 重忠長子六郎重保二男小次郎重秀末子為僧。此外不記有子。同書重忠舎弟長野三郎重清有信濃。同弟六郎重宗有奥州。然則瀬川氏若重宗子孫乎。又重忠領知在奥州葛岡。則他子有隠遁之事乎。往昔裨賈家全盛之時以此城為押斯波云。天正晚年城主云瀬川隠岐守。其末葉多皆下凡下云々。

と記し、他はいずれも天正年中裨賈氏の臣瀬川隠岐の居住を伝えるものである。瀬川氏の祖は畠山重保の子重行が裨賈秀利によって養育され、伊藤伊左衛門の養子となって「大瀬川殿」を称したことに始まる(註8)とされる。その後瀬川氏が登場するのは永享8年(1436)の南部氏との交戦に瀬川隠岐が参戦し、天正18～19年(1590～1591)の和賀・裨賈一揆に同名の瀬川隠岐が裨賈広忠に従っていることがしられるのみである。

前述の文中「葛岡」は旧葛岡村であり、裨賈家の菩提寺万壘山大興寺がある。大瀬川館の南西1.8kmにあたり、開基は永徳元年(1381)とされている。「瀬川裨賈系図」によれば、承久3年(1221)以後の大興寺送葬は6柱であるが、現存する位牌や過去帳によつては天正2年(1574)～慶長5年(1600)に限られている。しかし、その間の経緯は一切明らかでない。

そのほか出典は不明であるが、葛丸川の上流小檜沢には瀬川氏の居城大木館及び菩提寺である常満寺跡が伝えられ、建久2年(1191)に至つて大瀬川城に移居し、葛丸川より穴塚を通して濠を構えた(註12)とされる。常満寺跡は大瀬川館の西北西4.8kmにあたり、大興寺よりの山道が推定される。畑の沢館が近接している点では大木館がこれにあたることも推定される。

瀬川氏に関する周辺の地名には「斯波御所」の攻撃に際し、瀬川氏が戦死者を埋葬したといわれる「段の鼻」があり、墓地として現存している。大瀬川城が斯波氏の攻略をうけたのは弘治2年(1556)のこととされる。そのほか「犬飼町」、「柳野町」、「札立場」、「射的場」等が大瀬川館の北東に伝えられ、「柳野町」を除いては屋号として伝称されるものである。また、「館山」の井戸については、隠岐の櫓には「赤(開伽)井戸」があり、瀬川氏が敗走する際に諸々の武器を投じた(註14)と里伝される。しかし、「方十余町」の館内の頂部とも鞍部ともあつて一定していない。そのほか築城や縄張りについて具体的に伝えるものはみあたらない。

瀬川氏の氏神は京都北野天神の分霊とされる天神堂である。現在神体は別当の宅地に安置され、同堂跡が「館山」北東の緩斜面に伝えられる。また、西方の黒森山には畠山某の勧請となる黒森権現が奉られ、現在秩父17番観音に列している。南東にあたる黒森山神社はその拝殿である。(註15)

- 注(1)(2) 「探訪日本の城」1 小学館 (1977)
「日本城郭大系」2 創史社 (1980)
- (3) 「南部叢書」5 所収 南部叢書刊行会 (1971)
- (4) 「内史略」1 所収 岩手県文化財愛護協会 (1973)
- (5) 「樺買家の研究」金子定一『月刊郷土』(1951)
- (6) 「聞老遺事」前掲「南部叢書」2 所収
- (7) 「南部叢書」5 前掲
- (8) 「聞老遺事」「吾妻むかし物語」前掲「南部叢書」2、5 所収
- (9) 「天正南部日記」国史研究会 (1917)
- 00 岩手県立図書館写本所蔵
- 01 「石鳥谷町史」上 石鳥谷町 (1979)
- 02 「郷土史」宮野目村 (1933)
- 03 「樺買家の研究」前掲
- 04 「好地村誌」佐藤小次郎 (1918)
- 05 「郷土史」前掲

第2章 遺跡の現状と調査

1. 地籍と現状

(1) 地籍 (第3図)

大瀬川館及び周辺の地籍は、明治初期の作成と推定される「陸中国稗買郡大瀬川村第8地割字古館絵図」による以外に不明であり、同絵図によってのみその縄張りの概略を把握することができる。^(正1)

大瀬川館は東流する葛丸川が流路をかえて南下する湾曲部にあたり、西方の山林を除いては著しく分筆される地割である。遺跡の南北にはそれぞれ「さごやの沢」、「西の坂の沢」が東方の葛丸川に達し、道路網は南辺の「さごやの沢」に沿って延びているほか、更に北東二方に張り巡らされている。遺跡への道は東方の旧「木の宮橋」より蛇行して西進し、200mほどで支道となり、南60mで郭の東辺に達する。これより鉤形に屈曲して進み、南東への通路に交差する。更に郭折して土橋に至り、直進して頂部に到達する。地割は大旨この水路及び道路に沿って画されるものである。

郭はほゞ東西に並列する配置であり、南・西辺が山林となるほかは殆ど畑地となる部分である。西辺の郭(以下一の郭)は174~172番地(以下番地略)の畑地と北辺及び中央部の125-41であり、ほゞ現状地形に沿って分割される。西辺より北辺に続く171~174西端の矩形をなす筆境は郭を限る空堀であり、これより174北西端に達している。また、191南西より125-40、125-39の南西辺は外堀にあたり、184南西辺に連続している。空堀に画される125-39、125-40北東は一の郭と175-1、175-2の鞍部を挟んで対峙する高位地形をなし、ほゞ馬蹄形状を呈する。鞍部より低位となる南西にかけては畑地となって細分され、外堀南端は湾曲して不明瞭となるが、近接する176の山林は井戸と確認される。これより水路が屈曲して南下し、南東に至って「さごやの沢」に合流している。

一の郭の南東に扇状をなして拡がる169、170の2筆は中央部の郭となる二の郭である。登り道は高位となる170の北辺にあたり、低位の169筆境をなして一の郭に直進している。二の郭を限る178、166-1、166-2、167、168、96は一の郭北東の斜面に達する空堀であり、共に畑地となる部分である。

二の郭南に続く166-イの1筆は並列する3郭中では最下段となる三の郭である。南・西二方の180、182、181-6、181-3の筆境はいずれも空堀であり、180、182の畑地では更に低位となる部分である。北東は166境より段差をなして下降し、165-1、165-2、更に登り道を境する168-イ、161~163の畑地は共に平坦に近い緩斜面をなす。また、南東では空堀に続いて草生地地の181-3より155北東辺にかけて湾曲し、165-2の延長線上に続く通路に達している。空堀

は三の郭南辺より低位となる166より下降し、この平坦部を湾曲して東進する。東端は不明瞭であるが、ほゞ二の郭北東の96に対応して161、または162に達するものとみなされる。

二の郭及び三の郭北東では191の草生地に続いて86、90～94の畑地となる平坦地が形成され、共に道路と水路によって限られる。また、一の郭北東には84に画される特異な楕円状の地割が認められ、同様に「西の坂の沢」に限られる。鉤形に屈曲する登り道に画される平坦部は共に有機的な関連を有する外郭等が類推される。また、三の郭南東には181-7の黒森山神社があり、これより三の郭に続く181-2、181-3の草生地は矩形をなして馬場等の推測される地割が認められる。

地籍による郭の構成は一～三の郭の並列する主要郭と東西の3～4郭によって形成される梯郭状の複郭と把握され、北・西辺を「西の坂の沢」、南辺を水源南方の畑地によって限るならば、その規模は凡そ東西250m、南北300mである。更に城下を想定するならば主要郭東方に求められ、ほゞ方4町と推計される。

注(1) 盛岡地方事務局石島谷出張所、石島谷町役場所蔵

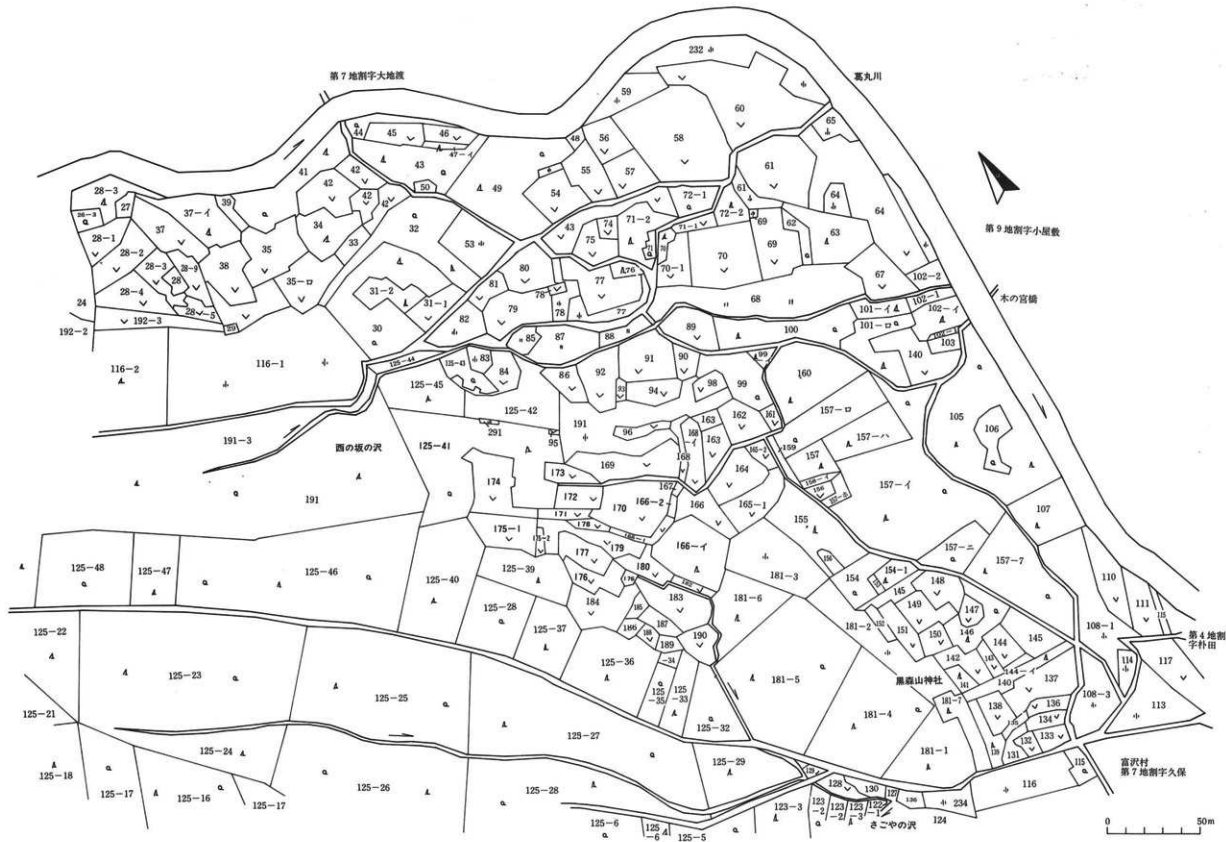
(2) 遺跡の現状 (付1図 図版2、3)

北西より南東に馬背状に延びる丘陵を切って三段の主要郭が並列し、北西の一の郭がもっとも高位をなす。一の郭西辺より南西にかけては湾曲して馬蹄形状に高位地形が続き、鞍部を挟んで対峙する。一方二の郭及び三の郭東方には更に段状をなして低位の平坦地が形成される。共に塁壕によって画され、一の郭では北辺の急斜面に達している。現状は一の郭より二の郭南辺にかかる空堀の一部と鞍部が畑地となるほかはすべて山林である。

一の郭は北西辺を二重の塁壕によって画され、内堀は西辺より二の郭を限って東辺に達する。外堀は対峙する高位の西方郭を巻いて鞍部の西方で不明となる。北辺は比高30m、38'前後の急斜面をなし、南東辺は1.2～1.5mの比高を有して下段の二の郭に境する。南辺は塁壕に沿って帯郭状の平坦面となり、1m前後の段差をなす。四周を限られる郭は東西120m、南北20～40mの長方形状を呈するが、北西に広く弧状をなして湾曲し、南東方向に狭小となる。面積は大凡4,000m²である。

郭内は西端及び北東の一部に土塁状の微高部分を有し、中央部南偏りに円形の井戸が認められるほか、同一の平坦面を形成している。もっとも高位となる西端の標高は178.2mであり、東西両端の比高は4.95mを計る。

塁壕は北西辺の内堀がもっとも明瞭に識別され、北端の斜面に達する長さ70mの湾曲部では最大堀幅10.0m、深さ3.20mを計る。更に北西の外堀では直線状に延びて同様に斜面に続き、一の郭部分は60mまで確認される。これより西方郭を巻いて認められるものの埋没が著しく、北辺ほど溝状を呈する。共に開削土によるとみられる土塁がこれに沿って続いている。しかし、



第3回 大瀬川館と周辺の地籍図(徳中国粹書大瀬川村第8地割字古館絵図による)

一の郭南・西2辺の塁壕は埋没して平坦となり、共に判然としない。その大部分は鞍部を含めて段状の畑地である。また、西方の郭は頂部に平坦面が観察されるがその区画は明瞭でない。

一の郭に並列する下段の二の郭は、一の郭東辺を取り込んで連なり、東西55m、南北21~32mで南東に幅広となる。南・東2辺は37前後の勾配となる急崖に限られ、一の郭西辺に続くともみられる空堀によって画される。北辺は緩やかな斜面となり、登り道を境して下段の平坦地及び空堀に限られる。郭の長軸方向はN44.0°Wを計り、面積は高位部分で約1,370m²である。

郭内は1.4°勾配の同一平坦面をなし、特に郭西方の18mでは殆ど平坦となる。東西両端の比高は3mで東方に低位となる。北東辺には東方より土橋を経て続く登り道が緩斜面を東西し、直進して一の郭北東隅に達するほか、ほゞその中央部より二の郭北東への小路が認められる。これより北東の空堀にかけては草木の繁茂が著しく、微地形は殆ど判明しない。

二の郭を画する塁壕は南辺30mに渡って識別され、南東隅では堀幅9.0m、深さ2.60mを計る。また、湾曲する東辺ではやゝ小規模となるが、北辺に迂回して延長60mまで確認される。

三の郭は二の郭の東に続き、これより南偏して形成される更に下段の郭である。北辺を斜面に限られるほかは三方を空堀によって画される。東西60m、南北25~30mのほゞ長方形を呈する。面積は約2,000m²、長軸方向はN47.0°Wとなり、二の郭に近似する。

郭の東・西2辺がもっとも高位となり、これより中央部にかけては2.5~2.8°勾配をなして傾斜する同一平坦面である。北西隅における標高は167.5m、郭内の比高は3.25mである。南辺の空堀中央部より郭を横断する小路が走り、北西隅付近より下段の平坦地へ達している。

三方の空堀は二の郭南東隅の空堀より湾曲して南辺に続き、南辺中央部の土橋によって東西に分けられる。高位となる東辺では堀切状をなして斜面に達し、これよりもっとも低位となる東方の郭に続く。その延長は120m以上に及び、北辺に至って湾曲している。現状における堀幅は8~10m、深さ1.25m前後である。土塁は南東隅に不明瞭となるほかはほゞ平行して認められる。

最下段の東方郭は三の郭に続いて空堀によって画されるが、山林となって微地形が判明せず、特に山王海幹線水路が東流し、林道が拡幅される東方は不明な部分が多い。そのほか、鞍部の中央部にあたる三の郭西方には「赤（間伽）井戸」と伝えられる湧水池があり、これより南東へ曲折する流路が「さごやの沢」に続いている。

現状で確認される郭は、塁壕によって画される低位の郭を含めて6~7郭となり、東西300m、南北400mに及んでいる。周辺では特に北・東2方に関連する遺構が予想され、更に広範囲に及んでいるものと推定される。調査区域を除いては大部分山林であるが、北辺は幹線水路に沿って耕地化が進み、林道が東方の郭に開削されている。また、二の郭北東では町営館山配水池とこれに伴う配管工事、道路の付設等が進められ、現状地形を含めて破壊が進行している。

2. 調査と整理

(1) グリット配置 (第4図)

調査は自動車道建設用地全域を対象とし、グリット設定による全面発掘を基本として進めている。グリット設定は大瀬川A、B遺跡と共用して南北中軸線を定め、北よりA～Iに地区割される。これに直交する東西方向は南北中軸線を100として、西方へ3、6、9～、東方へ100、103、106～とする配置である。3×3mの最小単位による構成は他と同様であり、北西の交点によって呼称するものである。しかし、広域におよぶ遺構のうち、郭は北西より一～三の郭、空堀は同様に1～8号堀とそれぞれ仮称している。また、柱穴群については郭別に算用数字を付して使用しているが、竪穴遺構に重複する部分に若干不統一となるものが含まれる。

(2) 発掘の方法と記録

一～三の郭については主としてブルドーザーD6Cによって表土除去を進め、遺構検出段階以降を手作業によっている。塁壕では現状、また検出段階でこれに直交する任意のトレンチを設定し、ベルトコンベアーを使用して排土している。然るのちに全面排土とし、2・3・6～8号堀についてはバックホーショベルK375を併用している。しかし、1号堀の大部分と2号堀北西端については、調査期間等の事情によって完掘し得なかった。そのほか、層位の把握や遺構精査等、いずれも前述の方法によって進めるものである。

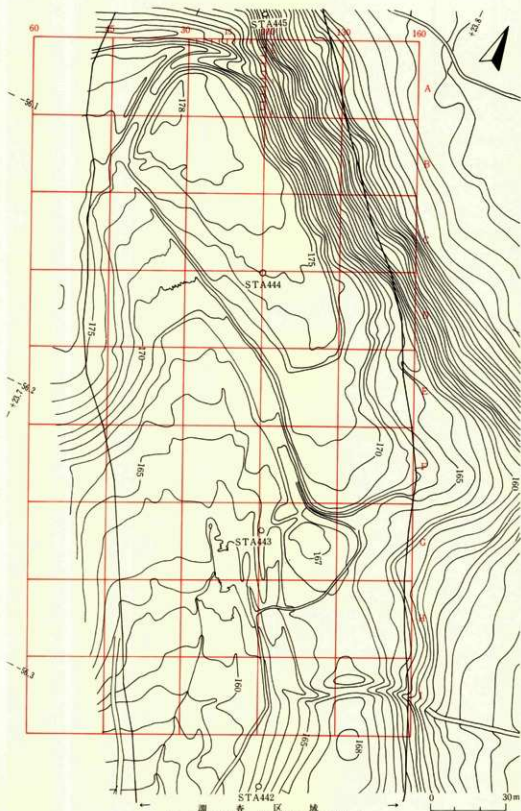
実測図のうち、地形図及び遺構全体平面図に空中写真測量によって作成し、各郭における遺構はすべて遺り方測量によっている。また、柱穴の分布については、平板測量を補助的に使用している。作図の縮尺は20分の1を原則とするが、柱穴群等では10分の1、50分の1を適宜併用している。地形図では縮尺500分の1、等高線0.50mとし、遺構全体図ではそれぞれ50分の1、0.25mとする原図である。

(3) 整理

昭和49、50年の1～3月にかけて図面及び遺物の整理を断続的に行なっているが、昭和55年4月より報告書刊行計画に沿って継続的に進めるものである。整理は「整理作業の進め方」、「出土遺物の整理について」を作成し、これに準拠して実施する。概略は以下の通りである。

図面は点検、照合、修正を経て第1原図を登録し、更に遺構全体図の照合、修正、合成等によって第2原図を作成する。第2原図の縮尺は50分の1を原則とし、遺構によっては20分の1として図面台帳に記入する。

遺物は出土地点を明記し、すべて番号を付して登録する。接合、分類に併行して実測図や拓影を作成し、合せて計測値及び観察事項を遺物台帳に記入する。保存処理を必要とする遺物のうち、木製品と鉄製品の一部は元興寺文化財研究所、北上市立博物館の協力を得て処置している。また、分析、鑑定については、陶磁器、金属製品、石製品、動・植物遺体、炭化物等につ



第4図 大瀬川C遺跡グリッド配置図

いて実施する。しかし、保存処理を含めて分析、鑑定を要する遺物は少なくない。

写真のうち、遺構についてはその種類によって大別し、広域に及ぶ場合は地区によって細別している。遺物は遺構に伴うもののほかは分類に従って一括している。

(4) 報告書の作成

報告書の作成にあたっては既述する「整理について」に準拠するものであるが、発掘調査と同様諸事情によって必ずしも十分でない点が多い。

本文の記述に関しては確定できない遺構が含まれるため、以下の点によって記載している。

1. 塁壕について

塁壕の計測値は埋没する空堀を含めて大凡6～9mをおいた実測値をもって表わし、直線堀における走行方向は原則として両端を結ぶ直線によって得られる計測値である。しかし、完掘していない1、2号堀については主としてトレンチによる実測値である。また、空堀に沿って認められる土塁状の遺構は、いずれも土塁として扱っている。

2. 柱穴と建物遺構

表示する柱穴計測表は若干の小さいものを除き、すべての柱穴状ピットを含み、大きさは検出面における東西・南北の径により、深さは検出面下によって示すものである。検出面及び底面の高さ等はすべて標高によって表わしている。備考欄中の()は検出面における柱痕径を示し、埋土混入物のうち、焼土粒をb、以下同様に炭化物粒c、石s、米r、大麦ba、小麦wh、蕎麥bu、豆p、として記号化している。また、丸数字は本文中の建物番号を示すものである。

柱穴群によって推定される掘立柱建物遺構は、数棟を除いて図上復元による建物跡である。同一検出面を有する柱列を含む掘立柱建物跡(以下建物)の柱穴は、原則として①同一直線上に載り、重複せずに一定の間隔を有すること、②仮の梁行、または桁行線上に平行、あるいは直交すること、③掘り方の大きさ、深さ、底面の高さ、埋土等に著しい相違の認められないこと等の条件を満たす柱穴によって推定されるものである。建物規模は両端柱穴の柱痕中心点、柱痕の不明な場合はその最深点をもって計測し、同一方向の平均値によって表わしている。各柱間寸法も同様であり、合せて曲尺による換尺値を()に併記している。また、棟方向については不明な建物が含まれるが、柱配置等によって推定し、同一方向の平均値をもって示すものである。そのほか、門遺構や竪穴遺構に推定される建物についてもこれに準じて記載している。

3. 遺物について

すべて分類に従い、登録番号によって示している。図示する遺物、特に陶磁器については小破片が多く、大部分の法量値は推計によるものである。また、遺物のうち、分析、鑑定をいたさなかった陶磁器、獣歯骨、穀類についてはC14の測定結果と共に付章として掲載している。

第3章 空堀と土塁

1. 1号堀と土塁

(1) 1号堀 (第5図 付1、2図 図版3～5)

一の郭北西端より鞍部を隔てた西方郭を巻いて再び鞍部に達する空堀である。現状では西方の郭に比較的明瞭に遺存する部分が多いが、一の郭西辺にあっては小規模な溝状を呈する。調査区域は北辺斜面より78.6mであり、一の郭西辺の内堀となる2号堀が突端部より南辺にかけて湾曲するのに対し、ほぼ直線状をなして西方へ達している。

調査区域の大部分は2号堀に続く15.0～20.0°勾配の緩斜面の先端にあたり、急崖をなして「西の坂の沢」に続くその変換点の地山を切って開削される。2号堀に平行する突端部では堀幅1.20m、深さ0.50m、底部幅0.40mである。法面は49.0～50.0°勾配で対称をなし、断面は梯形形状である。南西のAa60トレンチでは深さ0.70mとなって西方に深く、底部が0.40m高位となるほか、殆ど同様の形状をなす。

覆土は赤褐色土及び黄褐色粘性土で共に地山に類似する堆積層である。西方では灰褐色、または黒褐色の腐植粘性土がこれを被っている。共に混入物は殆ど認められない。

(2) 土塁 (第5図 付1、2図 図版3～5)

2号堀に平行する突端部以北では僅かな盛土状の微高部分が認められ、これより西方においては盛土によって郭側に形成される。中央部では基底幅3.80m、高さ0.50mを計り、西方ほど顕著である。断面は緩やかな山なりを呈する。盛土は黄褐色、または赤褐色の粘性土であり、特に搦き固められている形跡や他の付設する遺構は認められない。また、谷側には同様の堆積層がやゝなだらかに突端部以北まで認められるが、特に築成される痕跡は見出し得ない。共に開削に伴う揚土とみられる。遺物は1点も含まれていない。

2. 2号堀と土塁

2号堀は一の郭北西端より南・西2辺を画し、更に二の郭東端に達する。調査区域中では最長の空堀であり、264.0mまで確認される。東端は二の郭を巻いて調査区外に続いている。一の郭西辺は突端部に湾曲する76.0mであり、南辺では中央部のDa24門遺構付近で南よりにやゝ張り出すほかは二の郭を限る5号堀接合部までほぼ直線状をなし、一の郭部分の延長は177.2mである。二の郭の南東辺では再び湾曲し、調査部分は86.8mとなる。土塁は二の郭南東の一部に判明するほか明らかでない。

現状においては一の郭西辺及び二の郭南辺に2号堀の一部が識別されるのみで判明せず、その大部分は地山面に検出されるものである。

(1) 2号堀 (第5～7図 付1、2図 図版3～9)

1. 一の郭西辺 (第5図 図版3～6)

一の郭の北西はもっとも高位であり、これを曲線状に断ち切って開削される。北辺斜面より続く76.0mの部分である。そのほぼ中央にあたる郭の突端部以北は1号堀に平行して共に斜面に至って消滅する。2号堀中では最大の規模を有し、郭上端より土塁までの堀幅は9.05～10.90m、深さは郭上端より4.33～5.31m、土塁上面によっては3.68～4.73mを計り、突端部に最大となる。底部幅は0.30～0.40mと狭く、法面は郭上端より5mまでは30.0°～43.0°勾配で直線状に下降し、幅1m前後となる下方の掘り込み面では53.0°～71.0°勾配をなす。土塁側法面ではそれぞれ41.8°～45.8°、50.5°～67.0°勾配となり、東西に対称的なV字形の断面を呈する。両法面の交点角度は48.0°～63.8°となり、高位部分にもっとも狭小となる。底部は突端部の南21m付近を境に両端に下降し、南北それぞれ1.96m、1.92m以上の比高を有する。

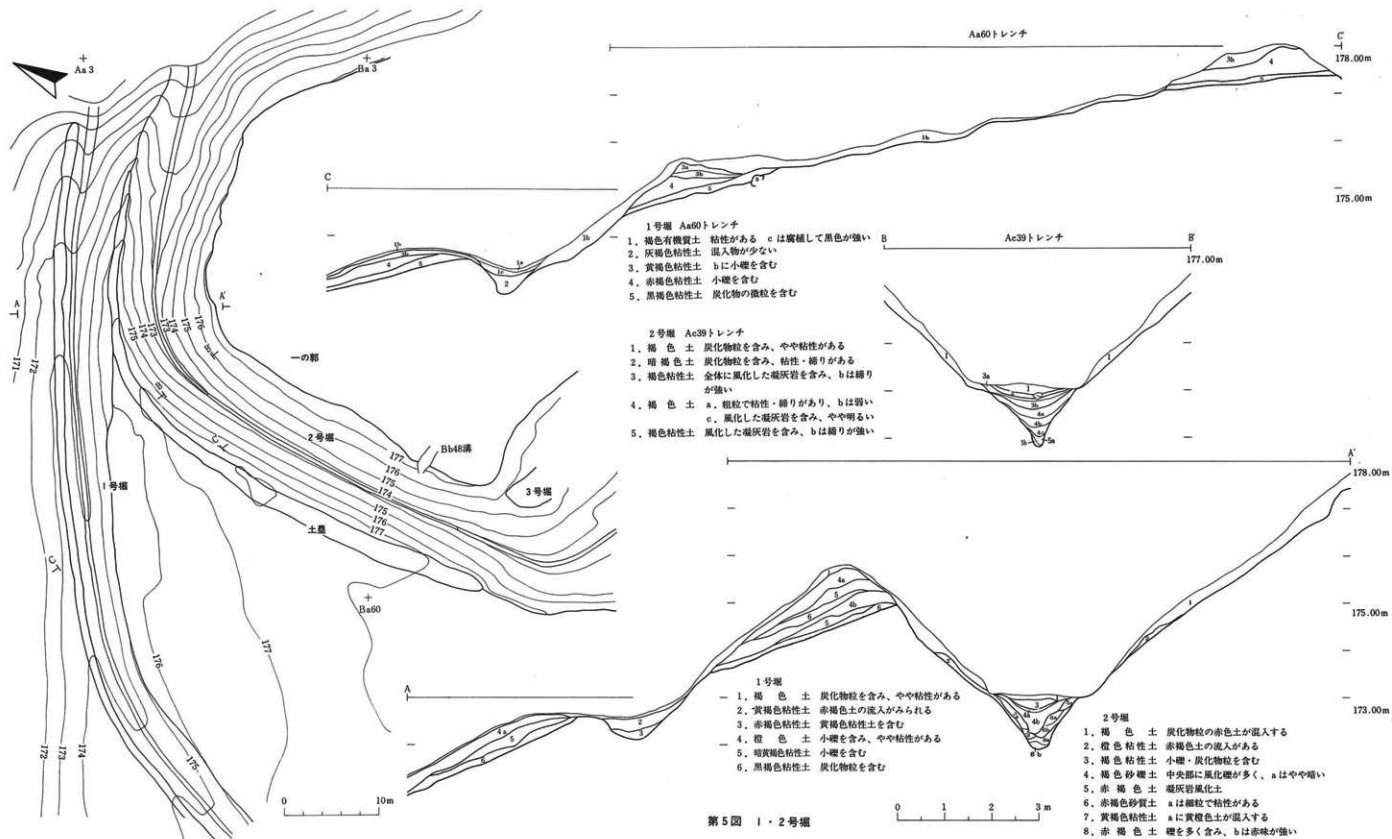
覆土は1.45～1.60mに達し、凝灰岩の風化礫を含む赤褐色、または黄褐色の粘性土で地山に類似する堆積層である。法面に沿う堆積のほかは大部分レンズ状を呈し、上位層ほど水平となる。上位層の法面際は流出して地山面の露呈する所が多い。共に炭化物粒等の混入は認められず、遺物は1点も出土していない。

2. 一の郭南辺 (第6図 図版4～6)

湾曲部より5号堀が接合する二の郭西隅に至る101.2mの部分である。西端の湾曲部より56.5mでDa24 門遺構及び登り道付近が僅かに張り出すほかはN59.0°～61.0°W方向の直線堀をなす。ほぼ3号堀に平行して開削され、底部中央部間は郭南東偏で6.40～7.20mを計り、他は8.30～9.10mを有する。2号堀は3号堀間の土塁に続いて掘り込まれ、土塁法面に続いて、または若干の緩斜面を残して開削される。登り道以西では堀幅4.80～5.20m、3号堀土塁の上端より8.30～8.80mである。深さは同様にそれぞれ1.61～1.94m、3.16～4.10mとなり、湾曲部及び登り道よりに若干残くなる。底部幅は0.25～0.35mを計り、一の郭西辺と同様である。法面は南北共に40.6°～47.0°勾配で3号堀土塁の南法面勾配の33.1°～41.5°に比してやや強く、下方の掘り込み面はV字状を呈する。

登り道以東における堀幅は土塁上端より6.30～6.90m、掘り込み面では3.40～4.10mでやや狭小となる。同様の深さはそれぞれ3.51～4.06m、1.19～1.72mとなり、特に南掘り込み面においては1.05～1.10mで東よりに小規模である。法面は35.5°～50.1°勾配で東よりに緩やかとなる。底部は幅0.30～0.40mで西方と同様である。底部の勾配は湾曲部付近で5°前後を計り、中央部で7°となり、これより以東では2°前後で殆ど平坦に近い。5号堀接合部では西端に比して5.08m低位である。

覆土は2.0m前後を有して鞍部に続く平坦面をなし、特に西方に厚い。全体に下位層では風化



- 1号堀 Aa60トレンチ
1. 褐色有機質土 粘性がある cは腐植して黒色が強い
 2. 灰褐色粘性土 混入物が少ない
 3. 黄褐色粘性土 bに小礫を含む
 4. 赤褐色粘性土 小礫を含む
 5. 黒褐色粘性土 炭化物の微粒を含む

- 2号堀 Ac39トレンチ
1. 褐色土 炭化物粒を含み、やや粘性がある
 2. 暗褐色土 炭化物粒を含み、粘性・締りがある
 3. 褐色粘性土 全体に風化した凝灰岩を含み、bは締りが強い
 4. 褐色土 a、粗粒で粘性・締りがあり、bは弱い
 5. 褐色粘性土 風化した凝灰岩を含み、やや明るい

- 1号堀
1. 褐色土 炭化物粒を含み、やや粘性がある
 2. 黄褐色粘性土 赤褐色土の混入がみられる
 3. 赤褐色粘性土 黄褐色粘性土を含む
 4. 褐色土 小礫を含み、やや粘性がある
 5. 暗褐色粘性土 小礫を含む
 6. 黒褐色粘性土 炭化物粒を含む

- 2号堀
1. 褐色土 炭化物粒の赤色土が混入する
 2. 褐色粘性土 赤褐色土の混入がある
 3. 褐色粘性土 小礫・炭化物粒を含む
 4. 褐色砂礫土 中央部に風化礫が多く、aはやや暗い
 5. 赤褐色土 凝灰岩風化土
 6. 赤褐色砂質土 aは粗粒で粘性がある
 7. 黄褐色粘性土 aに黄褐色土が混入する
 8. 赤褐色土 礫を多く含み、bは赤味が強い

第5図 | 2号堀

礫を含む赤褐色土、中位層では黄褐色土、または暗褐色土がほゞレンズ状に堆積する。中位層以上に炭化物粒の混入が認められるが、他の遺物は1点も含まれていない。上位層は暗褐色粘性土が0.60m前後の層厚をなし、鞍部に続いてこれを被っている。上層の混土層を除いて人為的な堆積層は認められず、登り道付近においても特に変化はみられない。5号堀接合部のみは郭側法面に沿って赤褐色土の流入があり、北法面に対称的な黒褐色土が堆積する。もっとも湧水があり、粘性が強い。しかし、上位層では西方と同様であり、耕作に伴う移動と推測され、揚土による土塁築成の形跡は見出し得ない。

3. 二の郭南・東辺 (第7図 図版7)

5号堀接合部より二の郭に沿って東進し、大きく湾曲して東端に達する86.8mの部分である。東端は未調査区域に続き、再び湾曲して北辺に及んでいる。5号堀直交部分より湾曲部までの44.9mはN37.2°~41.0°W方向でほゞ直進し、これより半径18m前後の弧状をなして湾曲する。東端より16.8mはN39.6°E方向となる。

堀幅は5号堀接合部で5.60mを計るほかは直進部分が7.20~8.90m、湾曲部分が9.30~10.20m、東端は11.10mである。深さは土塁上面より1.34~2.30mで湾曲部に深く、東辺では1.25m前後となる。二の郭上端によっては3.92~5.62mであり、湾曲部以東に若干深い。法面は郭側上方が37.0~40.8°勾配でやゝ緩やかであるが、下方の掘り込み面では40.0~53.2°勾配である。南法面は40.5~62.0°勾配を示し、南北による統一性は認められない。両法面の交角は83.0~102.3°となり、大部分は90°前後をなして底部の直下に交点を結ぶ。底部幅は0.25~0.45mで、東端のみは0.90mに拡幅される。底部における比高は湾曲部まで1.83m、東端では3.75mとなり、1.5~3.7°勾配で南・東に傾斜している。また、直交する5号堀底部に比しては2.46m、湾曲部分に接続する7号堀底部では0.51mの比高を有して共にこれより低位である。

覆土は1.20~1.30mで湾曲部付近に厚く、東端では低平となってやゝ薄い。下・中位層では地山に類似する褐色土、または黄褐色土の厚層であり、上位層は暗褐色土の水平堆積層を形成する。5号堀に近接する部分ではやゝ軟質であるが、混入物は上位層のみ炭化物粒が含まれる。湾曲部以東では中・下位層に地山の赤褐色土が堆積し、中・上位層にかけて炭化物粒の点在が多い。

遺物は湾曲部に茶白の下白(14)とみられる断片、二の郭南辺に灰軸陶器(61)片各1点があり、共に上位層に出土する。そのほか二の郭南東の肩部整地層に続く北法面上方に白磁(62)1点があり、二の郭縁辺に集中する陶磁器と同様の小破片である。

(2) 土塁 (第5~7図 付1、2図 図版3~9)

一の郭西辺の湾曲部及び二の郭南辺に平行して認められる。湾曲部では外方に平行して築成され、突端部以北は1号堀間に形成される。共に西法面上端の旧表土上へ盛土され、緩やかな

山なりをなす。盛土基底幅は3.5~4.0m、高さ0.60~1.20mを計り、斜面勾配の強い突端部にやゝ長く、もっとも高い。法面は谷側で38.2~44.4°勾配をなし、1号堀法面に殆ど一致する。盛土は赤褐色土、または黄褐色土で地山に類似し、風化礫を含むほか混入物は認められない。突端部では中位層に黒褐色土が狹在し、斜面に沿って傾斜している。西方ではほゞ1号堀土塁に共通し、主として2号堀開削に伴う揚土による盛土層と解される。

一の郭南辺では中央部以東に幅1.50m前後の地山高位部分が平行して認められ、土塁の形成も予測されるが、覆土を含めて揚土による築成の痕跡は明らかでない。

二の郭南辺では6号堀北西端より7号堀に至る42.5mに渡ってこれに平行し、これより東端にかゝる16.40mは低位となって明瞭でない。2号堀開削に伴って6号堀間に残存する地山削り出し部分であり、揚土による盛土築成は認められない。馬踏は0.60~1.50m、敷2.60~3.60m、高さ0.75~1.40mを計る。南北法面は2号堀側で15.2~36.2°、6号堀側では37.0~40.8°をなし、断面はやゝ外方に強い山なりとなる。6号堀より南西にかけては殆ど低平となり、東辺ではこれを埋没して三の郭整地面を形成し、覆土によっても土塁の築成については明瞭でない。遺物は西端の表土中に白磁(55)、三の郭整地面にあたる東端部に石臼(16)片がある。

3. 3号堀と土塁

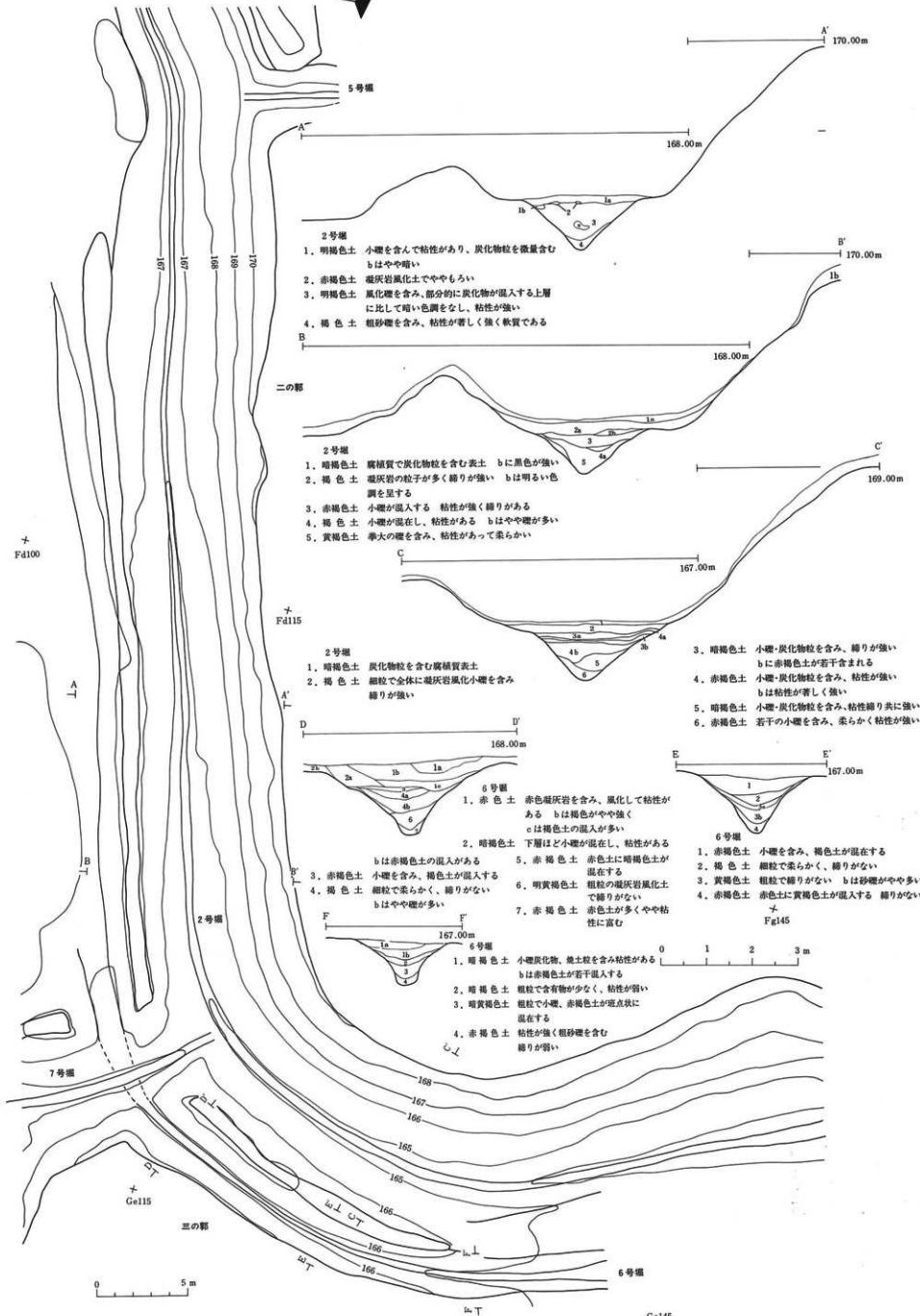
(1) 3号堀 (第6図 付1、2図 図版4、7、10、11)

一の郭南辺に続く帯郭状の緩斜面を切って開削される全長102.4mの空堀である。両端3~5mで僅かに湾曲するほかはN61.0°W方向の直線堀をなす。土塁を境して2号堀が平行し、底部間は6.40~9.10mで中央部に広く、東西両端にもっとも近接している。東西端はそれぞれ5号堀南端、2号堀湾曲部に接し、共にこれより高位に位置する。底部における両堀間の比高はそれぞれ0.64m、2.14mを計り、2号堀に平行する部分では3.0~3.5m高位となる。

堀幅は3.20~4.40mで西端及び中央部にやゝ狭まり、他は4.0m前後である。深さは土塁上端によって0.45~1.50mを計り、東方ほど浅い。郭側の上端によっては1.56~1.98mでほゞ一定している。底部幅は西端で0.20m前後であるが、漸次拡大して西端24m付近からは0.75~1.30m、東端の湾曲部では最大幅1.80mに及ぶ。底部は拡幅部分で平坦をなし、東端の湾曲部分にもっとも低位となる。両端の比高は4.23m、底部の勾配は3°前後である。

南北の法面はそれぞれ30.8~60.0°、37.0~53.0°勾配でほゞ対称をなし、断面は台形状を呈する。西方では40.8~60.0°勾配のV字状をなし、やゝ不整である。

覆土は土塁をも被って平坦をなし、1.60m前後に及ぶ。下位層は法面に続いて黄褐色土、または褐色土が堆積し、風化する小礫を混入する。これより中位層にかけてはレンズ状の堆積層となり炭化物粒の点在する暗褐色土が混在し、中央部よりDe6 堅穴遺構にかけては土塁側に厚い赤褐色土が流入する。更に上位層境には有機質の失なわれる灰層が狹在し、多量の炭化米が



第7図 2・6号塚

含まれる。灰層は低位部分に厚く、最大0.10mである。これを被う上位層は炭化物粒の多い暗褐色土、または黒褐色土の厚層となり、中央部南よりでは1.0m以上を計る。大部分は帯郭状の緩斜面より土壘上方を被う堆積層である。遺物は炭化米のほかはこれより上位層の混土に限られ、陶磁器、鉄製品、石製品等が含まれる。中央部以東に比較的多く、すべて小破片である。

近接する遺構には2・5号堀とDe6 竪穴遺構があるが、共に前後関係の明確なものはない。

(2) 土壘 (第6図 付2図 図版4、10)

3、2号堀間に平行して緩やかな山なりをなし、旧表土の残存する部分である。上面幅は0.80~1.50mをなし、Da24 門遺構にのみ3.0m幅を有して最大となる。削り出し法面は33.1~41.5°勾配で対応する3号堀南法面に比してやや緩やかである。旧表土上の盛土は一様の暗褐色混土層をなし、0.50~0.80mの層厚をなす。大部分3号堀覆土の上位層に続き、特に揚土による築成の形跡は確認されていない。しかし、中央部より湾曲部分にかかる27m間では覆土に赤褐色土層が狭在し、土壘側にやや厚い堆積となる。赤褐色土層は3号堀底部より更に下位に形成される地層であり、この点では土壘の崩壊段階に盛土される可能性があげられる。

遺物はいずれも3号堀に続く上位層に含まれ、陶磁器、鉄製品、石製品等である。

4. 4号堀 (第8図 付1、2図 図版4、12、13)

一の郭北東の斜面を切って開削される全長30.5mの空堀である。北端は急斜面に達して消滅し、南端は5号堀に接続するN37.7°方向の直線堀である。一の郭北辺を38.8~47.8°勾配で削り出し、これより8.5~12.5°勾配の緩斜面に1.20m前後幅をおいて掘り込み、幅1.85~4.20m、深さは0.79~2.50mを計る。一の郭北端の郭面からは堀幅5.95m~8.80m、深さ3.01~4.87mとなり、共に南に小規模となる。法面は郭側で45.2°~56.0°勾配、谷側では45.2°~53.3°勾配であり、断面の形状はV字状を呈する。両法面の交点は71.2°~89.6°となり、底部の中央部、または底部直下に結ぶ。5号堀接合部付近のみは台形状の断面をなし、両法面の交点を求めるならば底面の下方0.50mに達する。底部は幅0.20~0.45mであるが、5号堀接合部にかけて拡張し、東端では0.95mである。底部両端の比高は0.71mを有して北西に傾斜し、流出口に勾配が強い。また、5号堀底部に比しては1.84m高位である。

覆土は0.78~2.60mとなり、北西ほど厚く、堆積層は大別して3層に分けられる。下位層は共にレンズ状、または法面に沿い、地山に類似する赤褐色土や褐色土の堆積であり、下層ほど粘性が強い。これを被う中位層では黒褐色土、または暗褐色土の厚層となり、黄褐色土が混在する攪乱層である。中央部以東では炭化物粒が多く、遺物は北西にやや多い。上位層は北西よりで郭斜面に沿って傾斜するが、他は水平堆積の薄層である。炭化物粒が目立ち、遺物の大部分がこの上位層に含まれる。

遺物は上位層を含めて北西に多く、郭の北辺を含めて176点に及ぶ。陶磁器がもっとも多く、

土師質土器10点を含めて83点、石製品8点、鉄製品5点、古銭4点等である。そのほか馬歯骨等51点、須恵器・フレーク若干が混在している。その大部分は小破片である。

関連する遺構では南端で5号堀が接続しており、その配置と覆土によっては対応する開削と推測され、同様の埋没過程を有するものと推定される。また、北東には緩斜面が続き、中央部では幅6mを推して小郭状を呈するが、特に整地の痕跡は認められず、その間の揚土による土塁の構築についても明確でない。僅かに中央部以東及び北西端に山なりをなす地山の残在する高位部分が観察され、更に盛土を擁した可能性もあげられる。

5. 5号堀 (第8図 付1、2図 図版4、7、13、14)

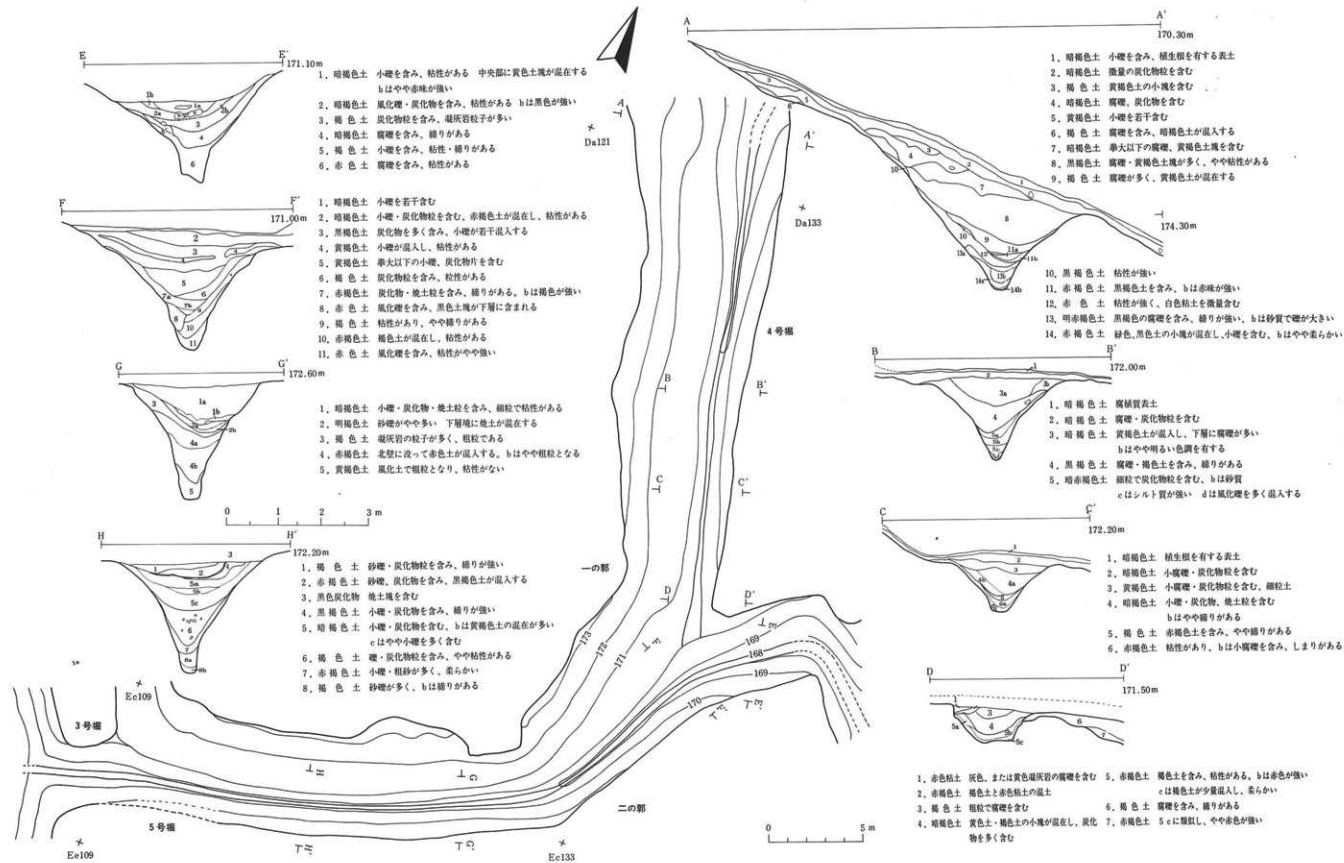
二の郭境をなす一の郭東辺に限る空堀である。現状においては二の郭整地面を形成しており、これを除去して地山面に検出される。ほゞ一の郭東隅に沿って緩やかに湾曲し、北東では4号堀が接続し、これより屈曲して二の郭北辺に続いている。南西においては3号堀東端に近接し、2号堀上方の法面に達している。調査区域は42.3mであり、東端は未調査区域に及んでいる。

一の郭東辺は40.4~48.2'勾配の削り出し斜面に続いて幅1.0m前後の犬走り状の平坦部において掘り込まれ、登り道部分のみは郭の斜面を切って開削される。堀幅は一の郭上端より7.50~5.40m、掘り込み面では2.85~4.20mを計り、共に一の郭東隅にもっとも広い。深さは同様に3.40~4.75m、1.56~2.75mとなり、いずれも北東端に大きい。法面は一の郭側で51.4~71.5'、二の郭側が44.5~70.0'勾配をなし、やゝ緩やかな南端を除いて殆ど東西に対称をなし、登り道付近でもっとも勾配が強い。両法面の交点は38.5~84.1'となり、底部、または底部直下に位置する。底部は幅0.20~0.55mで北東に広く、堀幅に対応する。南端より7.50m付近でもっとも高位をし、両端にやゝ傾斜が強い。南北両端における比高はそれぞれ0.57m、2.11mである。また、近接する3・4号堀底部間の比高はそれぞれ0.64m、1.84mで共に5号堀法面にあたる。

覆土は1.78~2.54m以上に及び、大別3層となる。下位層は凝灰岩の風化礫を含み、地山に酷似する黄褐色土、または赤色及び赤褐色粘性土であり、やゝ中央部に厚い。中位層では腐礫のほか、炭化物片や焼土粒が点在する褐色土、または暗褐色土となる。底部は北東よりの湾曲部以北で移動して上昇し、また、中央部では最大0.15mの炭化物層が狭在する。これを被う上位層は共に厚層となり、中央部以北では暗褐色土、または黒褐色土、これより南西端にかけては赤褐色土である。南西端では最大0.70mの層厚をなし、いずれも一時的に埋没した堆積層と認められる。

遺物は上位層に含まれ、陶磁器31点、土師質土器6点、鉄製品11点、古銭4点、石製品6点等である。その殆どは小破片であり、4号堀に類似する分布を示す。

重複する遺構にはEd112 竪穴遺構をはじめ、P 1~13、Ec121 砂溜遺構がある。柱穴を除い



第8図 4・5号堤

ては5号堀の覆土を切って構築され、埋没以後の遺構である。地山面に検出される柱穴のうちEd124柱列は二の郭に平行する柱列があり、同一建物を想定するならば埋没以後の建物の一部とみなされる。他はいずれも明確な前後関係は判明しない。また、中央部の覆土に認められる黒色炭化物層については明らかに遺構として確認されるものは判明しない。

近接する空堀では3・4号堀がある。3号堀は東端でやゝ湾曲して対応する配置とみなされるが、5号堀上位層の赤褐色土の厚層は連続せず、覆土に若干の相違が認められる。また、4号堀では接続して同様の堆積を示す点で連続する開削と推定される。土塁については中央部より湾曲部にかけて幅1.20~1.50mの高位地形が僅かに認められ、低平な二の郭北西隅の西法面に沿うやや厚い堆積層を有する点で盛土の可能性もあげられる。

6. 6号堀 (第7図 付1、2図 図版4、15、16)

三の郭北西辺の整地層を除去して検出され、二の郭南西を半径23.5mの孤状をなして湾曲し、これより2号堀に平行して延びる空堀である。北東端は未調査区域へ続き、これを切る7号堀までは37.30mである。7号堀土塁より2号堀平行部分は南側の掘り込み面を認めないが、2号堀土塁に続く南法面によって41.70mとなり、調査区域全体では79.0mである。

二の郭南東辺における堀幅は7号堀重複部分で3.60mを計り、これより次第に狭小となる。三の郭北西の中央部では2.30m、北端では0.90m前後である。深さは1.50~0.69mと同様に7号堀付近で最深となる。南北法面はそれぞれ45.0~59.2°、46.5~49.7°勾配でやゝ三の郭側に強い部分を有する。底部は幅0.25~0.45mで中央部に狭まり、東に下降する。特に中央部以東に傾斜が強く、両端の比高は1.51mである。断面は殆どV字状を呈し、北東では底部が拡大して下方でU字状をなす。

7号堀土塁部分では堀幅3.80m、深さ1.29mであり、底部幅は1.30mを計って著しく拡大する。これより以北においては同様の低平部分が認められ、北西端では次第に上昇して5号堀南西端方向に湾曲して消滅する。平行する2号堀に続く北側法面は50.2~36.8°勾配であり、北西ほど緩やかとなるが、2号堀土塁上端による比高は0.93~1.06mで殆ど一定の計測値を示す。断面は底部幅が広く、箱葉研状をなして続くものとみられる。

覆土は中位層まで地山の赤褐色土及び黄褐色土が中央部に厚くレンズ状を呈し、上位層は西方ほど赤褐色土の厚層となる。7号堀付近では層厚0.50m前後をなして三の郭整地面を形成している。共に2・7号堀の開削に伴う揚土による埋没とみられる堆積層である。混入物は北東にのみ炭化物・焼土粒が点在する。

7号堀土塁以北では同様の堆積層と類推されるものの南側掘り込み面が認められず、細地となる経緯があって明瞭な堆積層は判明しない。低位となる南側平坦面については炭化物粒を含む一様な暗褐色土層の単一層である。

遺物は三の郭整地面の2号堀境に前述の石臼(16)片が出土したほか、1点も含まれていない。
重複する7号堀は6号堀を切って開削され、覆土によって6号堀埋没段階以後に位置付けられ、平行する2号堀は埋没状況によって6号堀以後の開削とみなされる。また、北西端の延長線上に5号堀が配される点で、これに対応する可能性が高い。

7. 7号堀と土塁、土橋

2号堀湾曲部より三の郭北西半を画し、土橋に至る40.9mの空堀とこれに平行する土塁である。現状地形では埋没する6号堀に比して明瞭にその形状を留め、2号堀に続いて通路状をなす部分である。土橋は7・8号堀間の地山残存部分であり、これを含めて記述する。

(1) 7号堀(第9図 付1、2図 図版4、7)

2号堀に接続する北端は2号堀湾曲部にほぼ直交し、これより13.80mはN32.0°E方向に南進する。これより曲折して直線部となり、N23.5°W方向で土橋に達する。土橋の中軸線方向とは83.5°で交差し、8号堀の81.8°方向とほぼ対称的な配置をなす。

北端より曲折部にかけては堀幅5.90~9.50mで南進して拡大し、湾曲部分で最大となる。深さは土塁によっては2.24~3.08m、三の郭上端よりは2.33~3.31mとなって湾曲部に対応して深い。東西の法面は上方で27.5~30.2°勾配をなし、掘り込み面では47.2~62.5°を計る。北端より8mの西法面にはほぼ10.0~15.0°勾配の緩斜面があり、最大2.0m幅を有するが、南進して消滅する。これより湾曲部にかけては対称的に東法面中央部に緩やかな勾配となる部分が認められる。底部は北端の2号堀に比して0.51m高位であり、湾曲部では2.04mを有して南へ傾斜している。底部幅は0.45~0.55mで両端に若干狭小となる。

湾曲部以南では堀幅がやゝ狭まり、土橋際で7.00mとなる。深さは土塁上端より2.40~2.93m、郭整地面より2.92~3.45mとなって共に土橋側に浅い。法面は上方で30.7~36.2°、掘り込み面では東西それぞれ40.5~43.7°、51.3~62.0°勾配であり、郭側の東法面に強い。底部幅は0.40~0.60mで南進して狭まり、湾曲部付近で傾斜するものこれより以南は殆ど平坦をなし、南端にもっとも低位となる。北端との比高は3.36mである。

覆土は1.50m前後に及び、大部分褐色土、または赤褐色の凝灰岩質風化土によって占められる。中位層以下ではレンズ状の堆積をなし、上昇して次第に水平堆積に移行する。混入物は中位層に炭化物・焼土粒が含まれる。湾曲部以南では殆ど変化を有しないが、滞水して暗褐色土となり、土橋を境する8号堀直線部分に類似する。

遺物は上・下位層共1点も認められない。

(2) 土塁(第9図 付1、2図 図版4、17)

北端は2号堀の土塁に連続し、これより7号堀の外方に沿って平行する。南端は8号堀土塁に対応して土橋に続く通路に限られる。

北端より湾曲部にかけては6号堀重複部分で盛土をなすほか、地山の削り出し及び若干の盛土によって形成される。馬踏は1.20mで南進して山なりをなす。敷は4.40～6.00mを計り、高さは0.94～1.23mである。東西の法面は32.5°～49.0°勾配で北端ほど強い。

湾曲部以南はやゝ低位となり、西法面では明瞭な削り出しを認めないが、同様の盛土を有し、南にやゝ厚くなる。馬踏、高さ共に同様の計測値を有し、法面のみは23.0°～40.1°勾配で斜面に続く西法面に緩やかとなる。盛土は暗褐色混土層であり、湾曲部以北と共に特に掘き固められる形跡は認められない。7号堀開削に伴う揚土とみなされる。遺物は1点も出土していない。

重複する遺構には前述の6号堀があり、埋没状況によってこれに先行する開削と認められる。また、通路を境する8号堀土塁はこれに対応する配置であり、8号堀と共に併存する形成とみなされる。

(3) 登り道と土橋 (第9、83図 付1、2図 図版4、17)

現状における登り道は鞍部へ通じる農道より分岐して三の郭へ達し、中央部を横断する。確認される三の郭への登り道は土橋の南10m前後であり、土塁の南より6mで鉤形に屈曲し、土塁開口部に続いている。地山削り出しによる路幅は4～5mを計り、前進してやゝ狭小となる。路面は12.1°勾配をなして北進し、開口部では6.5°勾配をなして著しく緩やかとなって土橋に達する。土塁の北際及び路面に柱穴状の掘り方を検出しているが、関連する遺構については明らかでない。

土橋は登り道より更に狭小となり、路幅は1.80m、7～8号堀間の敷は7.20mを計る。路面は南面と同様に平坦をなすが、やゝ張り出す郭際では9.15°勾配となって抗列遺構に続く。7・8号堀に続く法面は32.0°～34.0°勾配をなし、下方は急勾配となって空堀に共通する。横断面はやゝ緩やかな山なりをなし、共に地山削り出しによる形成である。郭内に続く北偏の拡幅部分では土橋の中軸線N58.8°E方向に長さ3.0m、幅1.70m前後に渡って小礫が分布する。地山直上の暗褐色土中に含まれるが、特に整地の形跡や規則性は認められない。また、門中軸線方向に比して12.8°西偏し、その方向は必ずしも直交するものではない。遺物は周辺を含めて皆無である。

8. 8号堀と土塁、溝

三の郭開口部の土橋を境して7号堀に対応し、郭の南東辺を限る塁壕である。8号堀は土橋より南東にかけては直線状に続き、これより湾曲して尾根を切り、郭の東端に達する。調査区域の総長は63.9mであるが、更に下降して未調査区域に延びて低位の東方の郭を画する。土塁は土橋より30.0mの直線部分の外方に平行し、湾曲部ほど低位となって不明である。これより東では南に接して盛土が認められる。

8号堀の直線部分には両端の土塁を切って2条の溝が検出され、共に8号堀に付設される溝とみなされ、これを含めて記述している。

(1) 8号堀 (第9図 付1、2図 図版4、17)

郭の南辺では土橋を残して平面U字状に開削され、N46.8°方向の直線状をなして郭の南隅に達する。堀幅は土壘上端によって6.50~7.00mを計り、深さは2.08~1.31mである。郭南辺の整地面による深さは3.14~3.70mとなり、湾曲部より西6m付近で最深となる。法面は郭に続く北法面が43.0~46.5°勾配をなし、掘り込み面では南北それぞれ33.8~44.2°、42.5~52.5°勾配を有して北法面に強い。土橋敷部分では40.3°勾配となって底部に達する。底部幅は0.25~0.48mで殆ど平坦をなし、最深部における比高は土橋際より0.63m、湾曲部より0.39m低位となる。断面は郭側に若干緩やかとなるが、共にV字状を呈し、法面の交角は83.3~104.0°をなして底部、またはその直下に交点を結ぶ。

湾曲部分より東端にかけては中央部までN56.0°方向の直線状に延びて、これより徐々に東偏する。中央部にもっとも高位となり、東西二方に下降する。堀幅は6.75~7.25mであり、中央部にやゝ狭小となる。深さは2.70~3.45mで湾曲部に最深となる。法面は全体に上方で緩やかとなり、南北それぞれ31.9~40.5°、32.5~46.0°勾配である。掘り込み面では同様に50.5~70.5°、52.0~63.4°勾配を計り、特に中央部に強い。底部幅は0.40m前後であり、湾曲部境のみは拡幅して0.70m幅を有し、比高1.80mの段を形成する。湾曲部における底部の比高は3.05m、東端では1.37mである。断面は南辺に比して更に強いV字状を示し、底部の狭まる中央部における法面交角は48.1~49.1°の鋭角をなす。

覆土は0.70~0.80mの堆積であり、主として地山の凝灰岩風化土で小礫を含む褐色土、または暗褐色土である。湾曲部の中、下位層のみは滞水によって粘性が強い。

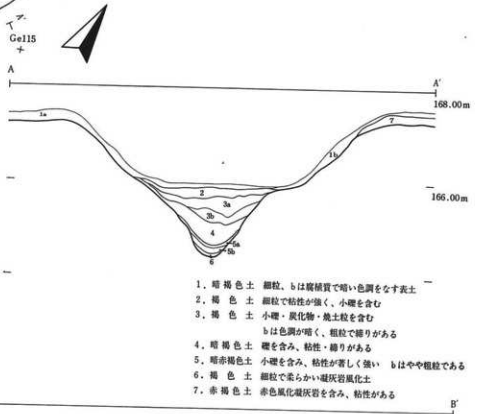
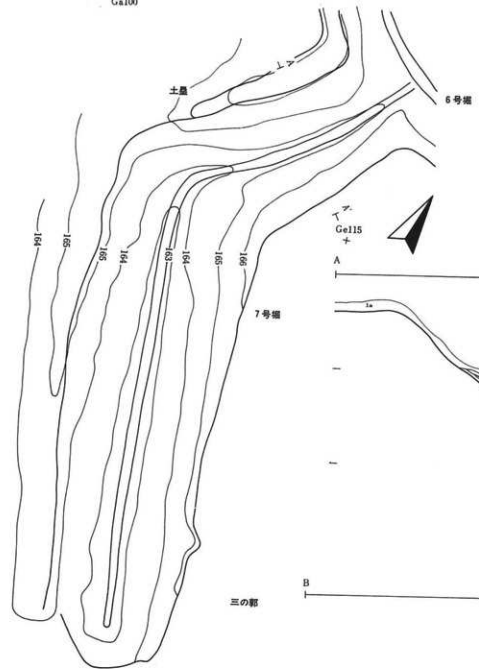
南辺においては4層に大別される。下位層は南法面に沿う堆積層が厚く、風化礫が中位層を含めて比較的多く混在する。上位2層では殆ど水平堆積となるが、共に流入に伴う堆積層とみなされる。炭化物粒の混入は上・下位層に微量点在するほかは認められず、遺物は1点もない。

高位となる湾曲部分より東端にかけては赤色、または赤褐色土であり、地山に対応する同様の堆積であり、主に砂質粘性土によって占められる。下位層は流入によって中央部に厚いレンズ状を呈し、中位層ではやゝ南法面に厚い形成となる。下降する両端においても殆ど変化は認められないが、流出によって若干薄く、湾曲部にかけては次第に褐色土となって移行する。混入物は認められず、遺物は皆無である。

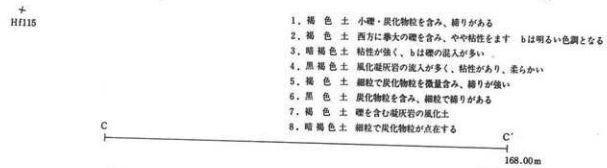
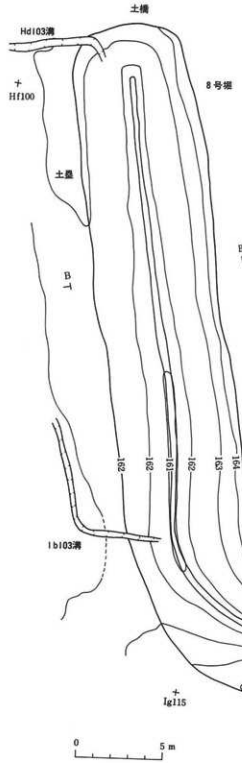
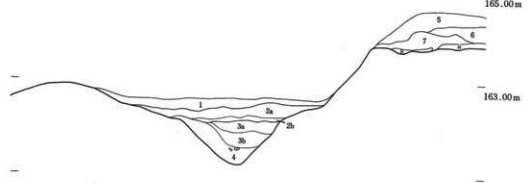
(2) 土壘 (第9図 付1、2図 図版4、17)

土橋際の通路より8号堀に沿って湾曲部まで30.0mまで確認される。しかし、湾曲部では殆ど低平となり、明確でない。もっとも高位となる北西では馬踏0.80~1.00m、敷4.00m前後をなし、高さは0.60~0.40mである。法面は25.3~26.8°勾配で緩やかな山なりをなし、南法面では自然地形に続く。共に旧表土上への盛土によって形成され、一様の暗褐色混土層である。特

Ge100



三の部



第9図 7・8号掘

Ic145

に搦き固められる形跡は認められず、8号堀開削に伴う揚土とみられる。

湾曲部より東端までは郭側に幅1m前後の地山削り出しの高位地形が認められるものの盛土は有せず、8号堀外方にのみ形成される。旧表土上の盛土は数2.00~2.50m、法面勾配20.7~39.0°で僅かな山なりをなし、湾曲部へなだらかに下降する。中央部では褐色土、または明褐色土が0.60mの層厚をなして盛土され、共に小礫が混入する。地山に類似し、8号堀開削土による形成と類推される。遺物は一点も含まれていない。

関連を有するとみられる遺構には土壘北西端のHd103溝及び湾曲部より土壘を切って曲折するIb103溝の2条が走るほか、土壘上の遺構は認められない。また、重複するId106竅穴遺構は混土層に被われ、旧表土を切っている点で土壘に先行する遺構とみられる。

(3) 溝 (第9図 図版17)

1. Hd103溝 (第9図 図版17)

土橋南辺の地山面に検出される。8号堀掘り込み面よりやゝ湾曲して土壘北西端を直進し、斜面に至って削減する。長さ6.70m、幅0.25~0.45m、最深0.35mを計る。先端は8号堀西端より1.50mをおいて開削され、底部に比しては1.82m上方にあたる。底部は湾曲部でやゝ狭小となるが平坦をなし、斜面に沿って下降する。覆土は柔らかい暗褐色土であり、褐色の砂質土が底部を薄く被っている。8号堀完掘以後の滞水状況によっては満水時における排水溝とみなされ、Ib103溝に類似する点で同時期の遺構である可能性が考えられる。

2. Ib103溝 (第9図 図版17)

8号堀湾曲部より地山及び旧表土を切って開削される小溝である。土壘の南法面に至って曲折し、更にこれに沿って西進し、斜面に消滅する。確認される長さは11.20m、幅0.20~0.45m、深さは0.10~0.23mである。東西方向は4.50m、N34.0°E方向となり、先端は8号堀底部に比して0.62m上方にあたる。掘り込み面上端より0.65mに渡って法面を切り、これより0.69m低位となる。曲折する北西はN47.0°W方向にほゞ直進し、底部は0.20mの比高を有して徐々に下降する。断面は共にU字状を呈し、暗褐色土によって被われる。底部には僅かながら酸化鉄の集積が認められる。遺物は一点も出土していない。

土壘がもっとも低平となる8号堀湾曲部より発し、土壘に沿って曲折している点でHd103溝と同様に排水に供する遺構とみられ、土壘流出に伴う開削が推測される。

重複するId106竅穴遺構は北辺で不明瞭となるが、Id103溝によって失なわれているとみなされる。

第4章 一の郭の遺構

一の郭はもっとも北西に位置し、調査区域中では最大規模を有する主要郭である。北辺の大部分を急崖に限られ、他は4条の空堀によって画される。東西122m、南北22~45mを計り、東方に狭まる不整な長形状を呈する。郭は同一平坦面と南辺に沿って形成される下段の帯郭によって構成され、面積は4,020㎡である。

遺構は大部分高位の同一平坦面に検出され、門及び周辺の付属遺構2、溝及び溝状遺構8、柱穴群及びこれより推定される掘立柱建物47、竪穴遺構6、竈状遺構を含む焼土遺構5、井戸・用水涵及び土塙6、砂溜遺構1、溝状土塙3である。このうち門及び竪穴遺構各1棟は南辺の帯郭に検出される遺構であり、4号堀東方の緩斜面には何ら遺構は確認されていない。

遺構出土の遺物は柱根がもっとも多く、若干の陶磁器、金属・石製品、穀類等が含まれる。他は遺構検出中に出土する同様の遺物であり、合せて155点となるが一括して後述している。

1. 郭の形成 (付1、2図 図版3、4)

一の郭は主要郭と南辺に帯郭を形成し、北西より南東方向に続く高位地形に沿って築成される。もっとも高位となる西辺は中央部に張り出して湾曲する2号堀によって限られ、その比高は5.31mに達する。更に西辺には1号堀を経て急斜面が続き、「西の坂の沢」に達する。南辺は0.91~1.40mの段差を有して削り出され、殆ど直線状をなす。26.7~56.2°勾配の斜面を切って形成される帯郭は1.80~4.60m幅を擁して南辺に続き、東西を2・5号堀に限られ、南辺は3号堀に画される。3号堀が埋没する現状地形によっては4.80~8.50m幅を有し、東辺に狭まって二の郭整地面に連続している。これより南西では鞍部をなして西方郭北東辺に及んでいる。東辺は南辺と同様の削り出し斜面をなして5号堀に続き、南北両隅に湾曲する。5号堀埋没以後では最大1.39mの比高を有し、段状をなして二の郭切土面に連なる。北西隅のみは登り道を配して更に削り出し、これより北辺にかけては5号堀に連続する4号堀が開削される。4号堀に限られる30.5mは削り出し斜面が長く、比高がやゝ大きい。埋没以後は東方に小郭状の緩斜面が形成される。4号堀西端より以西の北辺は37.0~41.7°勾配の急崖となり、北西隅の1・2号堀北端まで直線状をなして続く。その比高はおよそ30.0mである。

郭内は西辺中央部がもっとも高位であり、これより1.0~3.2°勾配をなして東辺に達する。南北二辺では縁辺ほど低位となるが、殆ど同一平坦面を形成する。西辺の標高は178.02m、東西の比高は4.71mである。旧表土の残存する中央部より北西にかかる傾斜面及び南東隅付近で最大0.60m前後の盛土層を形成するほかは共に地山切土による造成である。盛土層は暗褐色混土、または地山に類似する褐色土層であり、特に重複する整地面は確認されていない。主として高位をなす中央部の切土に伴う移動とみなされるものである。そのほか2号堀に沿う西辺の一部

と北東辺の4号堀に沿っては暗褐色土、または褐色土の盛土層がやゝ山なりをなして認められる。特に西辺中央部では幅1.20m、層厚0.50m前後を計り、人頭大の自然石が混入している。しかし、北辺ほど低位となり、土塁の構築については共に盛土整地層と識別されず明白でない。

2. 門と周辺の遺構

(1) Da 24門と階段遺構 (第10図 付2図 第2表 図版4、18)

南辺の帯郭中央部に位置し、2、3号堀間の土塁上に3号堀覆土の上位層を除去して検出される。2号堀がやゝ南に張り出す湾曲部にあたり、法面上方に続く階段遺構と平坦部の東西門である。

門柱穴は東西2対をなし、東西2.47m (8.135尺)、南北1.07m (3.515尺)を計る。柱間はP 1-3、P 2-4が2.52 (8.317) ~ 2.41m (7.954尺)、南北のP 1-2、P 3-4は0.98 (3.234) ~ 1.15m (3.795尺)でそれぞれ等間である。中軸線方向はN17.0°Eを計る。掘り方は郭内の柱穴を含めてもっとも大きく、特に不整な楕円状を呈する南面では最大径1.26mに及ぶ。深さは0.86~1.14mであり、底部における柱穴間の比高は0.17mで殆ど一定している。しかし、柱痕は黄褐色土粒を含む一様の暗褐色混土の埋土であり、共に判明しない。また、特に南面における抜き取りの形跡も認められない。その他P 2-4の延長線上には1.14m (3.762尺)をおいてP 5、更に3号堀法面にはP 6~10があり、P 9では何らかの付属施設が想定されるものの前後関係を含めて明確でない。

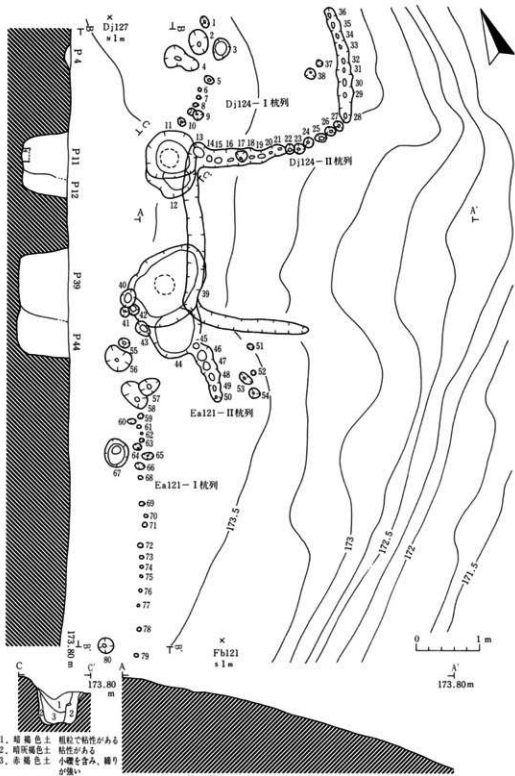
東西門に達する階段は2号堀掘り込み面より地山を切って続き、土塁上では門柱穴と同様、旧表土面に検出される。溝状をなして6段まで確認され、僅かに弓なりをなして湾曲し、最上段は南西の門柱際に及んでいる。長さ3.50m、幅0.53~0.78mを計り、西端における比高1.08mである。各段の踏面は東西0.22~0.32m、南北0.39~0.68mの不整な矩形形状を呈し、急斜面にやゝ長い。蹴上は0.15~0.28mを有し、共に踏み固められて地割れが認められる。しかし、これに続く延長線上では特にその痕跡は判明せず、関連する施設も明らかでない。

遺物は門柱穴を含めて一点も含まれず、共にこれを被う3号堀上位層にのみ出土している。

南北に開削される2・3号堀については、門柱穴P 2が3号堀南法面を切り、更に覆土を切る点で3号堀埋没以後の開削と認められる。また、2号堀では重複関係が明瞭でないが、3号堀の湾曲部分に対応する占地であり、意図的な配置とみることができる。

第2表 Da24門遺構柱穴計測表

No.	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底面 の高さ	備考	No.	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底面 の高さ	備考
1	95×126	89	171.80	170.91		6	24×20	8	172.92	172.84	
2	74×93	114	172.22	171.08		7	31×33	15	172.99	172.84	
3	63×98	98	171.92	170.94		8	28×31	11	172.60	172.49	
4	62×70	86	171.94	171.08		9	77×61	45	172.55	172.10	P 8より古い
5	38×36	43	172.11	171.68		10	22×23	9	172.65	172.56	



第II図 Dj121-I・II門遺構

第3表 Dj121門及び周辺ピット計測表

No.	検出面の径	深さ	検出面の高さ	底の高さ	備考	No.	検出面の径	深さ	検出面の高さ	底の高さ	備考
1	12×19	9	173.42	173.33		46		15	173.62	173.47	
2	31×35	17	173.52	173.35		50		8	173.60	173.52	
3	28×29	22	173.51	173.29		51	6×10	3	173.50	173.47	
4	37×42	12	173.64	173.52	木根?	52	7×8	8	173.50	173.42	
5	14×15	16	173.59	173.43		53	14×24	6	173.51	173.45	
6	6×7	11	173.58	173.47	Dj124-I 杭列(6-10)	54	17×18	10	173.51	173.41	
7	5×8	12	173.59	173.47		55	15×17	12	173.74	173.62	
8	6×6	12	173.59	173.47		56	36×44	13	173.73	173.60	
9	16×17	12	173.59	173.47		57	32×23	13	173.73	173.60	木根?
10	12×15	11	173.64	173.53		58	27×52	17	173.73	173.56	木根?
11	92×76	76	173.78	173.02	門柱穴 w.	59	10×9	10	173.75	173.65	Es121-I 杭列
12	78×-	72	173.63	172.91	門柱穴	60	10×10	12	173.75	173.63	(59-66, 68-79)
13		34	173.56	173.22	Dj124-II 杭列(13-36)	61	7×6	2	173.70	173.68	
17	18×17	13	173.47	173.34	木根?	62	5×5	2	173.69	173.67	
21		4	173.27	173.23		63	8×7	7	173.70	173.63	
22	15×17	3	173.27	173.24		64	11×12	6	173.70	173.64	
24	15×16	3	173.29	173.26		65	15×13	6	173.70	173.64	
25	15×16	7	173.26	173.19		66	12×12	10	173.72	173.62	
26	14×16	8	173.30	173.22		67	42×44	9	173.74	173.65	s.
27	13×17	12	173.34	173.22		68	7×8	8	173.72	173.64	
28		16	173.34	173.18		69	8×10	3	173.68	173.65	
29		14	173.38	173.24		70	6×6	3	173.65	173.62	
35		16	173.32	173.16		71	9×8	6	173.65	173.59	
37	9×12	11	173.39	173.28		72	8×9	3	173.62	173.59	
38	15×17	11	173.39	173.28		73	6×7	4	173.62	173.58	
39	112×110	84	173.62	172.78	門柱穴	74	6×5	2	173.60	173.58	
40	25×25	14	173.62	173.48		75	5×6	1	173.59	173.58	
41	13×16	7	173.62	173.55		76	6×6	1	173.59	173.58	
42	16×15	12	173.62	173.50		77	5×6	1	173.57	173.56	
43	18×26	9	173.67	173.58		78	6×7	5	173.55	173.50	
44	82×-	89	173.64	172.75	門柱穴	79	6×7	5	173.51	173.46	
45		17	173.62	173.45	Es121-II 杭列(45-90)	80	25×25	17	173.53	173.36	

Dj121-I 門はP11-39の南北一対をなし、重複する Dj121-II 門の P12-44をそれぞれ切つて配される。柱間は2.07m (6.832尺)で、柱間方向はN23.6'Eを計る。掘り方は円形、または楕円形をなし、径0.76~1.12m、深さ0.76~0.84mで南柱穴に大きい。底面における比高は0.13mとなって殆ど一致している。柱根はP11に遺存し、径0.30mの円形をなす。木口が扁平に切断されているが、調査中に紛失して詳細は不明である。埋土は灰褐色を呈する粘性土であり、中央部にのみ赤褐色土が含まれる。

南北門に付随する遺構は東に続く溝状の遺構とこれに連なる Dj124-II 杭列遺構である。門柱間ではこれに平行して整地面に検出され、他方は共に地山面に認められる。門柱に東接する浅い溝状の遺構は南柱穴より曲折して登り道途上まで続き、東西方向は路肩を画する。確認される長さは4.04m、溝幅0.22m、深さ0.05mで下方ほど浅くなって斜面に消滅する。他方 Dj124-II 杭列は対称的に北柱穴より登り道を画して下降し、更に曲折して縁辺を北進する。共に打ち込み状の小柱穴の連続である。東西方向の2.45mには15柱穴、南北方向1.80mでは9柱穴が認められ、いずれも径0.20m以下の円形を呈し、深さは0.10m前後である。覆土は砂質暗褐色

土であり、溝状部分では黒色が強い。遺物は共に一点も出土していない。

重複する遺構は前述の Dj124-II 門のほか、登り道途上の Ea127 土壇があり、削り出しに伴って上部が失なわれているとみられる点では土壇埋没以後の登り道開設と解される。

(3) Dj121-I 門及び付設遺構 (第11図 第3表 図版7、19)

Dj121-I 門遺構に重複し、これよりやや南偏する南北の Dj121-II 門と門柱穴に続く Dj124-I、Ea121-II 杭列である。更に南には南北方向の Ea121-I 杭列が連なり、共に地山面に検出される。

Dj121-II 門遺構は P12-44 の南北一対をなし、柱間は 2.42m (7.987尺) を計る。N23.0°E 方向を計り、同一 I 門遺構に殆ど一致する。掘り方はそれぞれ P11-39 によって破壊されているが、径 0.78~0.82m の円形と類推される。底面の比高は 0.16m であり、同一 I 門柱穴に近似する。柱痕は一律の暗褐色混土の埋土によって判明せず、遺物の混入も認められない。

南北の門柱穴に続く Dj124-I、Ea121-II 杭列はそれぞれ対称をなして 0.90~1.00m に渡って確認される。北柱穴の P12 に続く Dj124-I 杭列は北東方向に不連続ながら 6 柱穴があり、下降して不明となる。南柱穴には P45~50 が連続して溝状をなし、斜面に至って消滅する。共に径 0.25m 以下の円形を呈し、深さ 0.08~0.17m の打ち込みみである。杭列方向は門柱方向に対して南北それぞれ 23.0°、26.5° で対応している。

そのほか門柱穴より 1.20m 南西には Ea121-I 杭列が同一面に検出される。P59~79 まで 3.90m に渡ってやや不規則に連なる。径 0.10m 前後の浅い打ち込みみである。しかし、対応する杭列は判明せず、門遺構に付設される遺構か不明である。Df127 溝状遺構に重複し、4 号堀に沿って連続する小柱穴群に類似する点では一連の付属施設も想定される。

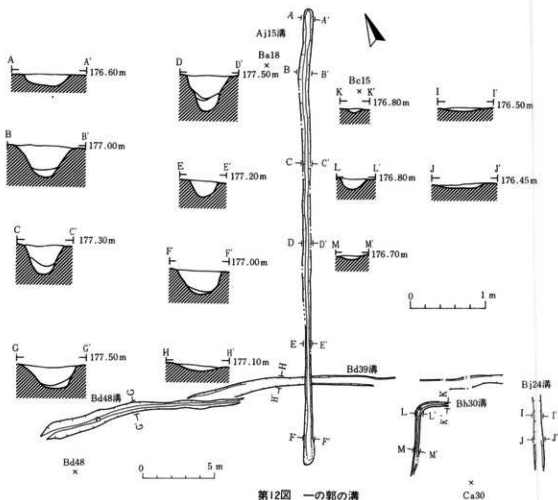
3. 溝

(1) Aj15 溝 (第12図 付3図 図版20)

一の郭西辺より 16~24m 東方の地山面に検出される南北溝である。郭の南辺 1.30m より発して直線状をなし、北端は緩斜面に達して僅かに湾曲する。全長 31.75m、南北方向は N22.6°E を計る。溝幅 0.34~0.65m、深さは中央部で最深となり、0.47m である。底部は中央部に高位となり、下降する両端ほど浅く、幅広となって平坦である。南北両端における比高はそれぞれ 0.44m、0.58m である。

覆土は炭化物粒を含む暗褐色土、または黒褐色土であり、風化礫を伴って締りが強い。底部には部分的に混入物の少ない暗褐色土が流入し、礫が中央部以北に若干多いほか、特に変化は認められない。遺物は一点も出土していない。

重複する遺構は南に Bd39 溝が東西方向に走り、Aj15 溝はこれを切って開削される。そのほか 16 柱穴が切り合い、P268、356、433、433、491、492 を除いては溝の覆土を切って穿たれる。



第12図 一の郭の溝

(2) Bd48溝 (第12図 図版20)

一の郭西端の整地層を除去して地山面に検出されるやゝ湾曲する東西溝である。東端はBd39溝に接して不明となり、西辺より14.30mまで確認される。溝幅は0.38~1.25mで西方ほど拡大し、深さは西端で0.55mを計る。断面は西進してV字状を呈する。底部における両端の比高は0.50mで西方へ緩やかに下降している。

覆土は底部に薄く褐色土が堆積するほか、炭化物粒を含む暗褐色土でしまりが強い。西方では底部に礫を混入するが、同様の暗褐色土である。遺物は含まれていない。

重複するBd39溝は明確な切り合い関係が認められないが、検出状況によってはBd48溝に先行する開削が推定される。

(3) Bd39溝 (第12図 図版20)

Bd48溝中央部以東の延長線上にあたり、Bi24井戸付近まで東西30mに渡って検出される。地

山面に浅くその痕跡を留め、確認される長さは21.15m、溝幅0.68~0.83m、深さ0.10m前後である。底部は殆ど平坦をなし、東西端の比高は0.21mで西方へ傾斜している。覆土は炭化物粒を若干含む暗褐色土であり、Bd48溝覆土に類似する。遺物は皆無である。

重複する遺構には前述の Aj15、Bd48溝のほかにも4柱穴があり、P563が覆土を切って新しいが、他は判明しない。また、東端の Bi24井戸との前後関係は検出段階においてこれを南に迂回し、井戸の覆土上面に位置して認められる点で同時、あるいは埋没以後の溝とみなされる。

(4) Bh30溝 (第12図 図版20)

Bd39溝のや、南西の地山面に検出される鉤形に屈曲する小溝である。西端は浅くなって不明となり、南端は郭の南辺に至って消滅する。確認される全長は6.90m、溝幅0.18~0.42m、深さ0.14mであり、屈曲部にもっとも大きい。断面は緩やかなV字状を呈する。南北方向の5mはN27.5°Eとなり、郭の南辺にほぼ直交する。

覆土は炭化物粒を含む暗褐色土であり、屈曲部に礫が混入する。遺物は1点も含まれない。

周辺に関連する遺構は判明していないが、溝に限られる南東は僅かに高位となり、これを画する溝の可能性があげられる。

(5) Bj24溝 (第12図 図版20)

Bi24井戸南側より郭の南辺に達する直線状の南北溝である。確認される長さは5.40m、溝幅0.53~0.67m、深さ0.07~0.10mで僅かに地山面に残存する。底部は殆ど平坦をなし、南へ傾斜する。溝方向はN21.7°Eを指し、Bd39溝方向にほぼ直交する。覆土は暗褐色土で、特に流水の痕跡は判明していない。遺物は周辺とも出土していない。

重複する遺構には2柱穴があり、P1195は溝覆土を切って新しい。また、Bd39溝については検出状況によって同溝に連続するものとみなされ、Bi24井戸の関連についても同様である。

(6) Df127溝状遺構 (付3図 図版21)

郭の北東隅に近いP1856、1861の2柱穴間に整地層を除去して地山面に検出される。東西1.60m、幅0.20mの直線状をなし、深さは0.10m以下で東方ほど不明瞭となる。底部は平坦に近いが、東方では打ち込み状の浅い小ピットが並列する。P1856の西方では郭の北辺に沿って打ち込み状の杭列が連続して検出され、一連の杭列である可能性も考えられる。覆土は黒褐色土で柔らかく、旧表土に酷似している。遺物は1点も出土していない。

両端の2杭穴とは明瞭な切り合い関係が認められず、前後関係は明らかでない。

(7) その他の溝状遺構

郭の南東辺に接して整地層に検出される2条の溝状遺構があるが、未確認である。Dj112竪穴遺構に近い東方は南北3.80mで斜面に消滅し、これより3.80mにおいて長さ3.30mの西方溝が走行する。幅0.70m、深さ0.30m前後で断面U字状を呈する。溝方向は共にN38.1°Wである。

4. 柱穴群と掘立柱建物

(1) 柱穴群 (第13図 付3図 第4表 図版20、21)

一の郭全域に分布する柱穴(柱穴状ピットを含む)は大部分地山面に検出され、北東隅の一部を除いて2444に達する。更に重複して計測値の得られないものを含めて総数は2482以上に及んでいる。その分布は全体に郭の縁辺に希薄となる傾向にあるが、中央部の用水堀周辺とこれより東辺にかけて東西方向に通路状の空白地域が認められる。また、中央部より北東にかけてはもっとも集中し、更に部分的な粗密が認められる。

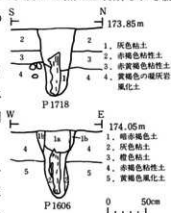
柱穴の掘り方は円形、また楕円形をなし、もっとも密集する地域には方形状を呈するものが若干含まれる。大きさは径0.20~0.39mの柱穴がもっとも多く、全体の72.4%を占め、径0.50m以上のものは僅か3.4%である。深さは同様に0.49m以下が91.5%であり、0.30~0.49mのものは30.4%で最多となる。断面は円筒状をなすほか、緩やかな壁を有して底部中央に達するもの、打ち込み状をなす小さい柱穴等が含まれる。

柱痕の判明するものは検出段階で449柱穴に認められ、径0.08~0.25mの共に円形をなす。その大部分は掘り方の底部に達している。柱痕径によっては径0.11~0.13mのもの126、0.14~0.16mが155、0.17~0.19mが99、0.20~0.22mが44柱穴となり、0.11~0.16mを計るものは全体の62%となる。その分布は大小混在しているが、柱穴の比較的粗い分布をなす地域及び空白地域南東よりの柱穴群に判明するものが少ない。しかし、柱根の遺存する柱穴に認められない例があって必ずしも一定の分布は把握し得ない。

柱穴の埋土は地山の赤褐色土、または褐色粘性土の混土であり、炭化物・焼土粒の点在するものが含まれる。また、自然石や桂化木、炭化穀類の混入も認められるが、特に共通性は見出し得ない。柱痕部分では灰色、または黒色をなして粘土化するものが多く、保水性に富んで34柱穴に柱根が遺存する。柱根は断面円形であり、比較的遺存の良好な6点では切断される扁平な木口が認められる。その分布はAj15溝以東に限られるものの柱痕と同様に特定の分布を把握できない。

柱穴に含まれる遺物は柱根を除いて陶磁器23点、金属製品2点、石製品2点、土器1点と穀類である。すべて覆土中に出土するものであり、特に地鎮のために埋設される遺物は1点も判明しない。

柱穴に重複する遺構には溝3、竪穴及び竪穴状遺構5、焼土遺構2、土塊及び溝状土塊4があり、前後関係の確認できる柱穴は竪穴遺構によって上部を失うもののほか、共に埋没以後の柱穴である。



第13図 一の郭柱穴断面図

第4表 一の郭柱穴計測表

No	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底の 高さ	備 考	No	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底の 高さ	備 考	
1	26×31	50	177.23	176.73		59	28×32	40	177.53	177.13	r. ba-bu.	
2	42×48	4	176.68	176.64		60	32×36	40	177.55	177.15		
3	39×30	11	176.69	176.58	木根?	61	32×37	45	177.63	177.18	①	
4	21×22	8	176.98	176.90		62	24×33	30	177.66	177.36	(14)	
5	19×22	6	177.02	176.96		63	17×20	10	177.68	177.58		
6	22×25	5	176.82	176.77		64	34×37	34	177.70	177.26		
7	43×39	27	176.84	176.57		65	21×23	54	177.70	177.16		
8	31×23	24	176.90	176.66		66	19×17	32	177.69	177.37		
9	32×33	20	176.78	176.58	(12)	67	24×23	35	177.67	177.32		
10	15×19	6	176.64	176.58		68	25×22	12	177.74	177.62		
11	21×19	5	176.60	176.55		69	36×40	27	177.74	177.47	木根?	
12	31×31	14	176.58	176.44	(21)	70	35×33	33	177.80	177.47		
13	33×37	14	176.68	176.54		71	23×23	27	177.76	177.49		
14	29×30	20	176.70	176.50		72	30×39	44	177.76	177.32	②	
15	27×24	20	176.98	176.78		73	32×37	24	177.80	177.56	③	
16	28×22	6	176.95	176.89		74	21×21	20	177.80	177.60		
17	31×27	34	176.88	176.54		75	23×23	15	177.80	177.65		
18	31×29	20	176.98	176.78		76	37×36	48	177.78	177.30	②	
19	26×29	7	177.17	177.10		77	26×26	29	177.80	177.51	(12)	
20	29×30	40	177.12	176.72		78	40×45	38	177.70	177.32	③	
21	32×37	34	177.18	176.84		79	31×30	24	177.66	177.42		
22	38×32	5	177.28	177.23		80	32×30	30	177.66	177.36	②	
23	31×27	24	177.28	177.04		81	31×30	26	177.65	177.39		
24	43×45	32	177.35	177.03		82	40×37	34	177.64	177.30		
25	30×27	22	177.30	177.08		83	34×37	22	177.68	177.46		
26	35×31	30	177.28	176.98		84	25×32	25	177.68	177.43	③	
27	30×33	32	177.29	176.97		85	22×28	3	177.69	177.66		
28	30×37	43	177.36	176.93	(12)	①	86	26×30	24	177.61	177.37	
29	33×33	37	177.35	176.98		87	27×27	30	177.60	177.30	(12)	
30	22×29	38	177.48	177.10		88	27×29	30	177.61	177.31		
31	33×33	30	177.50	177.20		89	28×30	18	177.57	177.39		
32	27×30	28	177.30	177.02	(12)	①	90	35×34	37	177.54	177.17	③
33	31×29	20	177.20	177.00		91	22×22	18	177.58	177.40		
34	38×37	52	177.14	176.62	r.	92	27×33	22	177.63	177.41		
35	25×27	23	177.13	176.90		93	32×30	30	177.67	177.37		
36	30×37	15	177.30	177.15		94	21×23	27	177.69	177.42		
37	32×36	42	177.34	176.92	①	95	30×30	40	177.70	177.30	②	
38	35×35	35	177.42	177.07		96	27×27	21	177.68	177.47		
39	27×29	27	177.33	177.06		97	26×30	22	177.69	177.47		
40	29×25	15	177.22	177.07		98	22×18	3	177.78	177.75		
41	28×32	24	177.24	177.00	①	99	36×30	45	177.77	177.32		
42	27×37	42	177.40	176.98		100	32×32	28	177.77	177.49		
43	25×35	4	177.44	177.40		101	32×27	31	177.78	177.47	(16)	
44	35×39	27	177.32	177.05		102	23×27	12	177.77	177.65		
45	22×24	18	177.42	177.24		103	20×18	4	177.70	177.66		
46	37×33	37	177.46	177.09		104	30×30	25	177.69	177.44	②	
47	31×25	30	177.51	177.21		105	33×31	20	177.72	177.52		
48	16×20	5	177.51	177.46		106	29×29	20	177.75	177.55		
49	26×25	33	177.45	177.12		107	38×45	34	177.78	177.44		
50	23×37	6	177.51	177.45		108	35×35	30	177.80	177.50	灰輪陶器、石臼	
51	42×38	40	177.49	177.09	①	109	26×27	26	177.77	177.51		
52	19×19	17	177.51	177.34		110	29×30	22	177.80	177.58	②	
53	35×33	37	177.60	177.23	①	111	22×24	12	177.80	177.68		
54	36×41	70	177.57	176.87	(15) c. 青花	112	37×37	27	177.82	177.55	②	
55	28×28	5	177.55	177.50		113	22×24	16	177.82	177.66		
56	25×23	14	177.54	177.40		114	34×34	33	177.82	177.49	③	
57	31×37	40	177.59	177.19	①	115	25×28	18	177.85	177.67		
58	35×29	34	177.47	177.13		116	18×19	4	177.91	177.87		

No.	横出面の寸法	深さ	横出面の高さ	底の高さ	備考	No.	横出面の寸法	深さ	横出面の高さ	底の高さ	備考
	cm	cm	m	m			cm	cm	m	m	
117	36×32	31	177.86	177.55	(15)	177	28×27	10	177.48	177.38	
118	27×32	36	177.84	177.48		178	36×45	28	177.55	177.27	
119	26×31	36	177.84	177.48		179	26×30	7	177.49	177.42	
120	33×36	30	177.85	177.55		180	32×49	25	177.42	177.17	(21)
121	34×33	53	177.82	177.29		181	25×25	8	177.50	177.42	㊟
122	45×41	30	177.82	177.52	㊟	182	31×33	20	177.52	177.32	
123	34×30	24	177.85	177.61		183	32×33	26	177.62	177.36	
124	32×35	40	177.84	177.44		184	23×23	30	177.63	177.33	
125	34×35	30	177.81	177.51	㊟	185	22×23	24	177.58	177.34	
126	23×17	6	177.81	177.75		186	30×34	24	177.56	177.32	㊟
127	32×30	37	177.79	177.42	㊟	187	30×32	32	177.68	177.36	
128	23×27	18	177.74	177.56		188	23×29	23	177.48	177.25	
129	25×22	24	177.78	177.54		189	22×23	27	177.56	177.29	
130	30×31	40	177.78	177.38	㊟	190	38×42	18	177.48	177.30	
131	42×41	50	177.79	177.29		191	33×38	25	177.44	177.19	
132	24×31	18	177.81	177.63		192	38×47	38	177.40	177.02	e. (22)
133	30×31	28	177.74	177.46	(12)	193	33×38	19	177.34	177.15	
134	29×29	30	177.72	177.42		194	28×39	36	177.29	176.93	
135	25×22	17	177.69	177.52	㊟	195	40×32	70	177.26	176.56	
136	26×24	25	177.67	177.42		196	30×27	26	177.27	177.01	
137	23×25	25	177.66	177.41		197	37×41	32	177.28	176.96	
138	27×30	44	177.71	177.27	s.	198	30×32	5	177.30	177.25	
139	25×24	23	177.60	177.37		199	30×40	6	177.25	177.19	
140	27×31	24	177.54	177.30	㊟	200	30×35	2	177.22	177.20	
141	37×41	24	177.59	177.35	㊟	201	35×43	37	177.18	176.81	
142	32×30	4	177.62	177.58		202	40×39	35	177.16	176.81	
143	26×31	13	177.72	177.59		203	46×30	35	177.11	176.76	
144	34×35	42	177.76	177.34		204	34×37	36	177.26	176.90	
145	43×40	25	177.82	177.57	㊟	205	31×31	5	177.40	177.35	
146	30×29	30	177.78	177.48		206	36×33	38	177.33	176.95	
147	35×30	26	177.74	177.48		207	39×39	48	177.33	176.85	
148	21×25	12	177.66	177.54		208	32×30	6	177.34	177.28	青花
149	21×21	18	177.62	177.44		209	41×40	20	177.40	177.20	㊟
150	32×35	6	177.62	177.56		210	28×34	23	177.49	177.26	
151	42×43	46	177.70	177.24		211	29×42	20	177.51	177.31	
152	29×40	6	177.71	177.65		212	34×37	44	177.55	177.11	㊟
153	38×37	54	177.78	177.24		213	44×43	41	177.39	176.98	b. c.
154	43×35	40	177.78	177.38	㊟	214	29×31	18	177.43	177.25	㊟
155	40×49	43	177.80	177.37		215	30×31	3	177.43	177.40	
156	53×51	27	177.79	177.52		216	30×33	23	177.35	177.12	㊟
157	30×35	44	177.85	177.41		217	29×31	9	177.36	177.27	
158	30×37	38	177.85	177.47		218	33×33	15	177.50	177.35	
159	39×38	42	177.74	177.32		219	—×36	55	177.45	176.90	
160	30×35	15	177.72	177.57		220	32×32	10	177.44	177.34	P219より新しい
161	38×38	36	177.71	177.35	(13)	221	31×33	12	177.47	177.35	(12)
162	32×37	30	177.69	177.39	㊟	222	26×30	8	177.52	177.44	
163	21×24	14	177.65	177.51		223	42×45	40	177.55	177.15	
164	42×69	44	177.67	177.23	重複?	224	56×55	30	177.52	177.22	(12)
165	29×31	26	177.64	177.38		225	35×40	3	177.56	177.53	
166	35×41	18	177.66	177.48	(15)	226	—×61	38	177.52	177.14	P227に重複
167	51×39	47	177.67	177.20		227	47×55	21	177.52	177.31	P226より新しい
168	27×27	32	177.62	177.30	(13)	228	26×26	5	177.55	177.50	(13)
169	39×37	25	177.62	177.37	㊟	229	26×20	13	177.59	177.46	
170	22×25	8	177.60	177.52		230	22×23	15	177.61	177.46	㊟
171	39×35	30	177.63	177.33		231	36×32	37	177.64	177.27	㊟
172	30×33	20	177.62	177.42		232	34×37	40	177.60	177.20	㊟
173	28×30	4	177.64	177.60	(15)	233	15×14	25	177.60	177.35	
174	37×34	25	177.58	177.33		234	22×21	5	177.64	177.59	
175	32×30	30	177.58	177.28	r. 白磁	235	19×21	37	177.58	177.21	
176	31×33	24	177.55	177.31	㊟	236	30×41	27	177.60	177.33	(15)

No.	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底の 高さ	備 考	No.	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底の 高さ	備 考
	cm	cm	m	m			cm	cm	m	m	
237	52×60	40	177.62	177.22		④	297	32×30	17	177.57	177.40
238	39×38	23	177.62	177.39		⑤	298	29×30	21	177.58	177.37
239	29×35	8	177.60	177.52	(18)		299	32×37	44	177.57	177.13
240	48×47	40	177.62	177.22	(8) 石臼		300	22×26	26	177.54	177.28
241	37×30	17	177.62	177.45			301	32×—	35	177.57	177.22
242	35×41	27	177.62	177.35		⑤	302	35×21	40	177.57	177.17
243	40×42	45	177.58	177.13	重複?	⑤⑥	303	41×38	33	177.51	177.18
244	38×37	54	177.57	177.03		⑦	304	30×27	22	177.51	177.29
245	28×25	10	177.58	177.48		⑧	305	30×29	29	177.52	177.23
246	35×35	30	176.60	176.30			306	27×27	37	177.50	177.13
247	34×30	30	177.55	177.25		④	307	39×37	20	177.52	177.32
248	40×47	30	177.48	177.18			308	49×48	50	177.50	177.00
249	43×45	60	177.44	176.84		⑦	309	43×33	22	177.47	177.25
250	26×31	18	177.42	177.24			310	40×35	19	177.45	177.26
251	32×41	24	177.41	177.17	(12)	④	311	31×30	37	177.48	177.11
252	32×31	15	177.36	177.21			312	34×38	40	177.44	177.04
253	21×20	7	177.33	177.26			313	40×45	35	177.44	177.09
254	21×22	5	177.15	177.10			314	28×22	14	177.44	177.30
255	40×39	27	177.02	176.75			315	33×29	28	177.42	177.14
256	30×33	35	176.94	176.59	(12)		316	52×40	50	177.42	176.92
257	33×44	27	177.04	176.77			317	40×38	40	177.43	177.03
258	26×23	17	177.28	177.11			318	39×41	30	177.45	177.15
259	50×59	67	177.36	176.69		③	319	35×36	23	177.49	177.26
260	32×31	65	177.37	176.72			320	31×28	25	177.51	177.26
261	26×27	30	177.42	177.12		③	321	21×22	25	177.51	177.26
262	42×39	25	177.47	177.22	s.	⑤	322	24×22	18	177.51	177.43
263	26×26	40	177.44	177.04			323	23×23	15	177.52	177.37
264	48×39	63	177.49	176.86	灰釉陶器	③	324	31×29	25	177.48	177.23
265	33×33	47	177.52	177.05			325	29×24	24	177.46	177.22
266	40×46	23	177.53	177.30		⑤	326	47×40	35	177.50	177.15
267	43×39	60	177.52	176.92		③	327	31×27	25	177.44	177.19
268	34×35	34	177.51	177.17			328	30×28	15	177.38	177.23
269	25×26	15	177.33	177.18			329	38×32	70	177.46	176.76
270	35×31	14	177.34	177.20	(18)		330	35×32	15	177.59	177.44
271	28×31	16	177.36	177.20	(12)		331	31×30	25	177.34	177.09
272	21×21	28	177.37	177.09			332	40×43	40	177.36	176.96
273	33×29	8	177.40	177.32			333	22×32	4	177.42	177.38
274	35×35	30	177.43	177.13			334	58×52	45	177.37	176.92
275	26×23	8	177.48	177.40			335	43×58	30	177.30	177.00
276	30×27	16	177.42	177.26			336	74×72	50	177.35	176.85
277	23×31	22	177.54	177.32			337	24×22	10	177.36	177.26
278	31×38	50	177.54	177.04		③	338	61×43	27	177.36	177.09
279	23×29	17	177.50	177.33			339	41×52	28	177.42	177.14
280	28×33	25	177.52	177.27			340	32×35	18	177.34	177.16
281	36×41	27	177.54	177.27			341	38×40	18	177.37	177.19
282	19×25	7	177.50	177.43			342	26×30	38	177.36	176.98
283	31×33	30	177.50	177.20		⑤	343	40×28	38	177.36	176.98
284	42×40	30	177.54	177.24		⑦	344	42×31	35	177.36	177.01
285	18×20	2	177.59	177.57			345	37×35	25	177.35	177.10
286	34×39	28	177.60	177.32	(15)	⑤	346	45×45	53	177.35	176.82
287	27×27	28	177.59	177.31			347	43×42	10	177.29	177.19
288	43×44	20	177.56	177.36			348	29×33	32	177.32	177.60
289	34×39	33	177.54	177.21	s.	⑤	349	38×41	15	177.30	177.15
290	31×37	22	177.54	177.32	(12)		350	21×24	6	177.36	177.30
291	32×27	18	177.52	177.34	(18)		351	28×31	28	177.26	176.98
292	41×43	20	177.61	177.41			352	42×32	40	177.22	176.82
293	31×37	26	177.62	177.36	(13)	⑤	353	25×26	26	177.24	176.98
294	31×31	18	177.60	177.42			354	30×38	42	177.26	176.84
295	34×35	40	177.60	177.20		⑦	355	28×25	7	177.22	177.15
296	39×41	30	177.58	177.28		⑧	356	32×47	47	177.19	176.72

No	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底の 高さ	備 考	No	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底の 高さ	備 考
	cm	cm	m	m			cm	cm	m	m	
357	45×40	27	177.23	176.96		417	35×41	30	176.82	176.52	(15) ㊟
358	29×29	20	177.27	177.07		418	26×28	8	176.86	176.78	
359	38×33	34	177.21	176.87	㊟	419	38×38	32	176.89	176.57	㊟
360	34×30	32	177.24	176.92	㊟	420	32×27	20	176.94	176.74	㊟
361	25×23	10	177.22	177.12		421	32×35	27	177.00	176.73	㊟
362	32×38	32	177.22	176.90		422	25×27	17	177.02	176.85	
363	30×35	34	177.28	176.94		423	12×18		176.96		
364	36×35	40	177.31	176.91		424	25×27	33	176.96	176.63	㊟
365	36×32	18	177.26	177.08		425	33×33	25	176.72	176.47	
366	30×33	26	177.28	177.02		426	22×20	6	176.85	176.79	
367	19×25	10	177.24	177.14		427	37×34	16	176.86	176.70	㊟
368	29×31	18	177.20	177.02		428	24×23	9	176.89	176.80	
369	36×33	23	177.12	176.89		429	35×29	55	177.16	176.61	㊟
370	27×27	15	177.08	176.93		430	28×26	14	177.18	177.04	
371	35×30	38	177.08	176.70	(15) ㊟	431	34×30	20	177.22	177.02	
372	30×31	30	177.10	176.80	㊟	432	32×30	3	177.28	177.25	
373	53×43	10	177.06	176.96	㊟	433	18×20	32	177.21	176.89	
374	20×16	10	177.12	177.02		434	18×26	20	177.28	177.08	
375	27×30	12	177.14	177.62	(12)	435	28×27	6	177.35	177.29	
376	20×22	45	177.00	176.55		436	33×26	24	177.26	177.02	s.
377	34×37	11	177.04	176.93		437	34×35	18	177.26	177.08	(18) s.
378	29×31	12	177.04	176.92		438	29×25	37	177.30	176.93	(11) ㊟
379	33×32	7	177.02	176.95	㊟	439	27×22	32	177.30	176.98	
380	45×40	35	176.99	176.94		440	35×35	70	177.29	176.59	㊟
381	26×28	10	176.99	176.89		441	31×37	20	177.19	176.99	
382	23×22	4	176.96	176.92		442	10×23	5	177.19	176.14	
383	14×18	10	177.02	176.92		443	40×37	37	177.10	176.73	
384	24×23	19	177.15	176.96		444	21×22	16	177.04	176.88	
385	29×27	40	177.03	176.63		445	23×22	7	177.05	176.98	
386	28×26	10	176.98	176.88		446	65×51	21	177.04	176.83	㊟
387	38×33	23	177.02	176.79	重複?	447	53×56	64	177.18	176.54	㊟
388	20×22	4	177.12	177.08		448	37×36	17	177.19	177.02	(12)
389	31×36	28	177.05	176.77		449	38×39	38	177.13	176.75	(15) ㊟
390	26×31	5	176.95	176.90		450	47×41	20	177.10	176.90	(15)
391	32×35	28	176.85	176.57		451	31×33	28	177.09	176.81	(9)
392	23×26	17	176.74	176.57		452	43×34	5	177.10	177.05	(18)
393	33×34	10	176.75	176.65		453	31×33	14	177.12	176.98	s.
394	12×14	3	176.51	176.48		454	22×30	4	177.39	177.35	
395	21×28	17	176.46	176.29		455	19×21	10	177.35	177.25	
396	31×34	38	176.77	176.39		456	31×26	26	177.40	177.14	
397	23×25	20	176.87	176.67		457	23×25	4	177.42	177.38	
398	23×23	5	176.89	176.84		458	34×32	8	177.45	177.37	
399	32×37	20	176.94	176.74		459	40×44	20	177.31	177.11	㊟
400	45×46	5	176.95	176.90		460	35×36	25	177.36	177.11	(15)
401	31×34	17	176.92	176.75		461	22×21	3	177.41	177.38	
402	57×72	22	176.77	176.55		462	31×33	50	177.38	176.88	(12)
403	17×12	7	176.72	176.70		463	35×31	33	177.35	177.02	㊟
404	54×43	20	176.82	176.62	重複?	464	19×19	10	177.27	177.17	
405	30×27	20	176.76	176.56		465	41×39	27	177.32	177.05	(12) ㊟
406	35×41	13	176.82	176.69		466	33×35	36	177.28	176.92	(9)
407	35×45	14	176.90	176.76		467	28×26	44	177.30	176.86	(9)
408	43×44	20	176.74	176.54		468	43×51	54	177.31	176.77	(12) ㊟
409	28×33	5	176.63	176.58		469	38×40	6	177.36	177.30	
410	32×25	7	176.27	176.20		470	35×37	12	177.24	177.12	(11) ㊟
411	23×22	4	176.52	176.48		471	40×27	42	177.25	176.83	(9)
412	29×33	34	176.86	176.52		472	34×31	42	177.25	176.83	(13)
413	32×28	6	176.86	176.80		473	20×17	10	177.24	177.14	(15)
414	30×32	16	176.70	176.54		474	16×15	12	177.24	177.12	
415	31×27	6	176.70	176.64		475	43×36	40	177.22	176.82	(12) ㊟
416	23×26	26	176.89	176.43	㊟	476	39×32	7	177.12	177.05	

No	横出面の径	深さ	横出面の高さ	底面の高さ	備考	No	横出面の径	深さ	横出面の高さ	底面の高さ	備考
477	28×26	5	177.09	177.04		537	37×39	40	176.11	176.31	
478	23×21	8	176.98	176.90		538	23×26	31	176.69	176.38	(15)
479	49×41	37	176.86	176.49	重複	539	38×41	41	176.69	176.28	(18)
480	29×34	5	176.89	176.84	⊙	540	19×19	11	176.88	176.73	(12)
481	31×32	38	176.92	176.54	(12)	541	38×29	50	176.72	176.22	
482	25×23	20	176.86	176.66		542	27×31	25	176.70	176.45	(15)
483	30×35	15	176.87	176.72		543	40×36	25	176.66	176.41	⊙
484	34×43	37	176.90	176.53		544	57×41	56	176.67	176.11	(18)
485	23×30	40	176.88	176.48		545	21×22	12	176.64	176.52	(20)
486	44×44	16	176.88	176.72		546	36×36	23	176.62	176.39	
487	37×37	30	176.81	176.51		547	31×34	18	176.63	176.45	⊙
488	28×26	6	176.87	176.81		548	13×13	6	176.65	176.59	
489	30×28	9	176.72	176.63		549	15×12	4	176.65	176.61	
490	39×37	30	176.72	176.42		550	29×33	28	176.58	176.30	(12)
491	31×33	34	176.59	176.25		551	29×35	30	176.56	176.26	
492	24×17	6	176.63	176.57		552	34×35	7	176.64	176.57	(18)
493	33×39	40	176.84	176.44		553	28×25	4	176.60	176.56	
494	29×27	24	176.81	176.57		554	23×25	38	176.49	176.11	
495	28×27	46	176.57	176.11		555	18×20	20	176.42	176.22	
496	24×32	35	176.55	176.20		556	28×29	14	176.47	176.33	
497	24×22	20	176.74	176.54		557	19×16	12	176.47	176.35	
498	22×23	13	176.73	176.60		558	27×24	32	176.52	176.20	
499	30×33	25	176.72	176.47		559	19×20	10	176.54	176.44	
500	31×32	30	176.78	176.48		560	29×38	36	176.54	176.18	
501	18×19	6	176.91	176.85		561	32×36	25	176.50	176.25	
502	38×41	43	176.74	176.31		562	31×40	20	176.61	176.41	
503	23×36	18	176.74	176.56		563	31×35	24	176.66	176.42	
504	23×24	7	176.73	176.66	⊙	564	40×40	35	176.68	176.33	⊙
505	31×33	26	176.76	176.50	(15)	565	25×32	37	176.75	176.38	
506	26×30	20	176.80	176.60		566	37×50	35	176.76	176.41	(15)
507	30×30	25	176.81	176.56	s.	567	29×30	33	176.74	176.41	
508	18×20	5	176.85	176.80		568	38×52	40	176.79	176.39	重複?
509	42×34	25	176.82	176.57	(18)	569	40×41	51	176.81	176.30	⊙
510	17×17	7	176.84	176.77		570	27×22	16	176.87	176.71	
511	23×21	34	176.76	176.42		571	33×30	36	176.87	176.51	(12)
512	24×24	35	176.76	176.41		572	36×34	36	176.90	176.54	(12)
513	47×33	40	176.73	176.33	重複	573	16×22	13	176.83	176.70	
514	31×25	20	176.71	176.51	⊙	574	30×27	15	176.81	176.66	⊙
515	29×35	37	176.71	176.34		575	15×15	5	176.84	176.79	
516	42×40	17	176.71	176.54	⊙	576	41×37	45	176.79	176.34	⊙
517	29×30	20	176.71	176.51	⊙	577	19×21	20	176.74	176.54	
518	27×28	32	176.68	176.36		578	19×20	30	176.71	176.41	
519	25×30	22	176.68	176.46		579	23×23	11	176.74	176.63	
520	21×21	10	176.68	176.58		580	20×20	7	176.76	176.69	
521	31×25	30	176.66	176.36		581	18×19	6	176.76	176.70	
522	33×30	9	176.66	176.57		582	29×30	47	176.77	176.30	(17)
523	26×29	20	176.56	176.36		583	21×28	32	176.78	176.46	
524	31×34	43	176.63	176.20		584	22×20	10	176.74	176.64	
525	36×38	40	176.59	176.19		585	23×22	12	176.82	176.70	
526	25×30	31	176.56	176.25		586	34×39	23	176.64	176.41	⊙
527	30×30	20	176.34	176.14		587	17×19	6	176.70	176.64	
528	20×22	30	176.27	175.97		588	32×33	24	176.56	176.32	⊙
529	25×30	40	176.47	176.07		589	18×15	8	176.76	176.68	
530	23×23	25	176.58	176.33		590	38×51	20	176.70	176.50	重複?
531	30×39	20	176.59	176.39		591	37×30	20	176.66	176.46	s.
532	31×34	32	176.62	176.30	(14)	592	34×31	32	176.56	176.24	⊙
533	26×31	30	176.62	176.32		593	25×30	18	176.56	176.38	(17)
534	24×21	3	176.64	176.61	⊙	594	40×43	48	176.62	176.14	(12)
535	33×31	30	176.66	176.36		595	22×23	29	176.68	176.39	(12)
536	39×41	40	176.68	176.28		596	32×35	23	176.74	176.51	

No.	検出面の径	深さ	検出面の高さ	流面の高さ	備考	No.	検出面の径	深さ	検出面の高さ	流面の高さ	備考
597	40×41	36	176.70	176.34	a.	657	50×45	27	177.17	176.90	
598	43×48	50	176.75	176.25	㊟	658	35×28	23	177.12	176.89	
599	22×20	10	176.77	176.67		659	37×33	37	177.16	176.79	(12)
600	18×18	4	176.82	176.78	㊟	660	40×45	55	177.15	176.60	(18)
601	51×48	39	176.79	176.40	(14)	661	37×35	32	177.12	176.80	(15)
602	31×24	27	176.80	176.53	㊟	662	31×33	25	177.10	176.85	㊟
603	16×14	7	176.80	176.73		663	20×21	4	177.15	177.11	
604	22×26	25	176.78	176.53		664	42×41	49	177.09	176.60	(15)
605	18×20	9	176.79	176.70	㊟	665	28×28	24	177.05	176.81	
606	30×20	18	176.76	176.58		666	43×43	57	177.02	176.45	(18)
607	31×21	25	176.73	176.48	㊟	667	29×30	45	176.96	176.51	(12)
608	33×33	51	176.74	176.23	㊟	668	28×25	40	177.02	176.62	㊟
609	29×28	40	176.71	176.31	(15)	669	33×28	30	176.99	176.69	
610	35×33	40	176.74	176.34	(12)	670	28×19	21	176.99	176.78	
611	22×19	20	176.75	176.55		671	38×46	50	177.01	176.51	(21) a.
612	27×27	18	176.77	176.59		672	60×51	59	177.00	176.41	(15)
613	46×43	22	176.79	176.57	㊟	673	42×45	20	176.90	176.70	(21)
614	28×28	26	176.82	176.56	㊟	674	37×41	35	176.99	176.64	(18) 重複
615	33×26	13	176.82	176.69	(12)	675	40×41	43	176.97	176.54	(15)
616	20×22	20	176.82	176.62	㊟	676	20×21	4	176.91	176.87	
617	20×21	14	176.80	176.66		677	41×46	40	176.86	176.46	(18)
618	36×44	30	176.84	176.54	(12)	678	41×41	41	176.87	176.46	(15)
619	25×23	7	176.83	176.76	㊟	679	40×41	37	176.93	176.56	(15)
620	31×39	23	176.78	176.55	㊟	680	41×45	38	176.84	176.46	(15)
621	47×49	60	176.90	176.30		681	16×13	3	176.98	176.95	
622	31×31	23	176.88	176.65	(16)	682	33×34	38	176.88	176.50	(18)
623	25×26	27	176.87	176.60	(15)	683	51×41	38	176.82	176.44	(17)
624	23×22	13	176.85	176.72		684	27×28	40	176.81	176.41	(15)
625	49×43	34	176.80	176.46	(15)	685	27×21	11	176.80	176.69	
626	31×23	12	176.80	176.68	重複	686	29×28	21	176.76	176.55	㊟
627	35×29	40	176.76	176.36		687	33×33	25	176.80	176.55	
628	34×30	32	176.84	176.52	㊟	688	51×47	57	176.76	176.19	
629	55×55	44	176.85	176.41	(18)	689	39×42	40	176.79	176.39	
630	33×43	34	176.85	176.51	(15)	690	32×30	27	176.82	176.55	(18)
631	35×37	44	176.92	176.48	㊟	691	32×32	5	176.90	176.85	
632	52×37	55	176.95	176.40	㊟	692	41×34	67	176.85	176.18	
633	37×32	27	176.98	176.71	㊟	693	43×45	34	176.90	176.56	(15)
634	30×29	12	177.08	176.96		694	49×47	33	176.90	176.57	(15)
635	51×43	66	177.07	176.41	(18)	695	37×39	53	176.88	176.35	(15)
636	38×30	29	176.93	176.64	㊟	696	27×29	24	176.87	176.63	(15) a.
637	50×44	40	176.88	176.48	(15)	697	56×63	56	176.87	176.31	(16)
638	23×20	14	176.90	176.76	㊟	698	35×34	42	176.92	176.50	(15)
639	22×23	24	176.92	176.68		699	31×44	27	176.94	176.67	(17)
640	37×39	60	176.90	176.30	㊟	700	37×40	38	176.94	176.56	(15)
641	17×19	3	176.93	176.90	㊟	701	28×32	35	176.97	176.62	(12)
642	30×28	35	176.94	176.59	㊟	702	47×43	60	177.00	176.40	(15)
643	38×39	36	176.98	176.62	(15)	703	27×30	31	176.98	176.67	(12)
644	30×37	18	177.02	176.84	(12)	704	27×23	13	177.10	176.97	(12)
645	47×43	4	177.08	177.04		705	31×35	40	176.99	176.59	(15)
646	27×23	20	176.98	176.78	㊟	706	28×38	57	177.03	176.46	(15)
647	22×22	12	176.98	176.86	㊟	707	37×39	26	177.02	176.76	
648	17×16	15	176.96	176.81	㊟	708	45×46	43	177.02	176.59	(15)
649	22×20	14	177.04	176.90	㊟	709	31×28	16	177.05	176.89	
650	28×31	32	177.10	176.78	(18)	710	37×41	27	177.02	176.75	(15) 鋼製品
651	23×21	30	177.12	176.82	㊟	711	27×22	50	177.02	176.52	(12)
652	21×20	6	177.16	177.10	㊟	712	46×41	57	177.02	176.45	(18) w. 灰輪陶器
653	21×23	40	177.07	176.67	㊟	713	23×23	16	177.02	176.86	(9)
654	55×60	67	177.08	176.41	(21)	714	49×42	30	177.04	176.74	㊟
655	47×41	75	177.10	176.35	(20)	715	41×44	30	177.04	176.74	㊟
656	33×30	50	177.08	176.58	㊟	716	40×40	22	177.55	177.33	(12)

No	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底面 の高さ	備 考	No	検出面 の径	深さ	検出面 の高さ	底面 の高さ	備 考
717	32×32	30	177.55	177.05	s.	777	38×40	50	177.08	176.58	(20)
718	36×38	31	177.13	176.82	(15)	778	63×40	60	177.08	176.48	重複 s.
719	40×42	60	177.10	176.50	s. 桃の種子	779	55×47	70	177.08	176.38	(15)
720	37×30	27	177.11	176.84	r. w.	780	34×24	30	176.90	176.60	(12)
721	58×50	62	177.13	176.51		781	28×21	55	177.08	176.53	w.
722	45×38	59	177.10	176.51		782	43×47	50	177.03	176.53	(15)
723	28×35	43	177.17	176.74		783	39×40	20	177.03	176.83	(15)
724	49×51	37	177.17	176.80		784	56×49	33	177.02	176.69	青花
725	53×47	72	177.17	176.45		785	32×31	32	176.98	176.66	(15)
726	18×19	12	177.20	177.08		786	40×47	27	177.01	176.74	重複?
727	23×21	25	177.19	176.94		787	35×38	23	176.93	176.70	(15)
728	39×34	37	177.20	176.83		788	51×57	47	176.98	176.50	(20)
729	31×22	39	177.18	176.79		789	35×42	22	176.94	176.72	(17)
730	31×29	31	177.19	176.88		790	41×38	41	176.99	176.58	(15) w.
731	29×31	36	177.22	176.86		791	44×39	40	177.01	176.61	(12) 桃の種子
732	31×29	58	177.26	176.68	(18)	792	20×19	5	177.01	176.96	
733	39×34	60	177.26	176.66		793	40×39	56	176.99	176.43	
734	45×41	38	177.19	176.81		794	33×48	51	177.05	176.54	(15)
735	50×51	32	177.19	176.87	(18)	795	39×38	43	177.01	176.58	s.
736	31×32	36	177.17	176.79		796	41×43	28	176.98	176.70	(21) w.
737	46×50	52	177.12	176.60	w. 青花	797	34×38	34	176.92	176.58	(12)
738	35×35	30	177.15	176.85	(18)	798	31×35	35	176.91	176.56	(18)
739	53×60	60	177.16	176.56	(21) s. 白磁	799	30×28	13	176.90	176.77	
740	38×36	22	177.19	176.97		800	30×30	17	176.89	176.72	
741	20×26	16	177.19	177.03		801	31×23	22	176.88	176.66	(12)
742	29×32	46	177.22	176.76	(12) w.	802	34×29	33	176.85	176.52	(12)
743	35×31	18	177.24	177.06		803	49×50	40	176.82	176.42	(16)
744	38×37	46	177.23	176.77	(9) r.	804	33×34	30	176.90	176.60	(15)
745	41×41	30	177.17	176.87	(15) r.	805	28×26	21	176.88	176.67	
746	61×50	46	177.12	176.66	(15)	806	31×35	30	176.88	176.58	(15)
747	38×38	60	177.08	176.48	(13)	807	44×41	40	176.88	176.48	(14)
748	50×42	51	177.11	176.60		808	29×24	15	176.84	176.69	(12) 重複
749	40×34	55	177.12	176.57	(12)	809	45×40	48	176.88	176.40	(15)
750	34×30	16	177.14	176.98	(15)	810	42×46	23	176.87	176.64	(12)
751	52×51	58	177.15	176.57		811	54×60	28	176.83	176.55	(21) s.
752	30×29	12	177.18	177.06	r.	812	30×29	20	176.84	176.64	
753	34×31	20	177.16	176.96		813	28×30	40	176.86	176.46	(12)
754	34×36	41	177.17	176.76	(15)	814	40×30	5	176.90	176.85	
755	40×36	47	177.17	176.70		815	45×40	28	176.81	176.53	(14)
756	39×40	60	177.17	176.57		816	40×39	20	176.84	176.64	(21)
757	50×45	43	177.15	176.72		817	42×41	50	176.83	176.33	(17)
758	39×39	36	177.15	176.79	(12)	818	32×43	17	176.78	176.61	(9)
759	37×33	30	177.15	176.85		819	29×26	13	176.79	176.66	
760	26×28	24	177.16	176.92	(16)	820	49×42	50	176.82	176.32	
761	41×56	47	177.16	176.69	(15)	821	29×33	45	176.88	176.43	
762	25×27	22	177.12	176.90		822	34×32	35	176.84	176.49	
763	50×49	43	177.10	176.67	(18) w. 灰釉陶器	823	35×36	53	176.85	176.32	
764	30×23	8	177.17	177.09		824	30×32	12	176.88	176.76	
765	24×27	9	177.18	177.09		825	40×41	56	176.86	176.30	(12)
766	51×61	60	177.12	176.52	(21)	826	37×38	23	176.82	176.59	(14)
767	19×23	7	177.18	177.11		827	29×30	13	176.90	176.77	
768	28×23	5	177.18	177.13		828	33×30	32	176.94	176.62	(12)
769	19×20	8	177.18	177.10		829	36×35	23	176.93	176.70	(12)
770	50×43	60	177.09	176.49	(20)	830	32×33	20	176.94	176.74	(14)
771	22×33	28	177.09	176.81	(12)	831	37×35	28	176.95	176.67	(12)
772	17×19	6	177.15	177.09		832	55×56	48	176.98	176.50	(18)
773	22×28	5	177.14	177.09	(12)	833	15×12	5	177.08	177.03	
774	29×31	6	177.14	177.08	(12)	834	29×20	32	177.01	176.69	
775	22×24	20	177.10	176.90		835	40×37	70	176.98	176.28	(15)
776	41×46	71	177.08	176.37		836	47×40	60	177.04	176.44	(12)